

KACE® システム導入アプライアンス ( K2000 ) 4.1

管理者ガイド



# 目次

KACEシステム導入アプライアンス ( K2000 ) について.....	9
はじめに.....	10
K2000アプライアンスの使用を開始するためのタスク.....	10
K2000コンポーネントについて.....	11
管理者コンソールへのログイン.....	12
言語設定の構成.....	14
ダッシュボードの使用.....	15
ダッシュボードのカスタマイズ.....	15
K2000の設定.....	16
ネットワークの初期設定の構成.....	16
ネットワークの初期設定の修正.....	17
デフォルトパスワードの変更.....	18
Samba共有パスワードの変更.....	19
VNC®パスワードの設定.....	19
アプライアンスの日付と時刻設定の構成.....	20
日付と時刻の設定.....	20
リンクアグリゲーションを有効にする.....	21
集約リンクの作成.....	21
データ共有の基本設定の構成.....	21
基本的なアプライアンスデータ使用率の共有.....	22
詳細な使用率データの共有.....	22
Quest KACEアプライアンスのリンク.....	23
アプライアンスリンクを有効にする.....	23
名前とキーのアプライアンスへの追加.....	24
リンク先アプライアンスを無効にする.....	24
ユーザーアカウントおよびユーザー認証のセットアップ.....	25
ローカル管理者アカウントの追加または編集.....	25
LDAPサーバーでのユーザー認証の設定.....	26
LDAPサーバーのテスト.....	28
ユーザーアカウントの削除.....	28
セキュリティ設定項目の設定.....	29
SNMP監視の有効化.....	29
既存の証明書を使用するのSSL有効化.....	29
新しいSSL証明書プライベートキーの生成.....	30
SSLの無効化.....	30
データベースへのオフボードアクセスの有効化.....	30

SSHルートログインの有効化 ( KACEサポート ) .....	31
展開の準備.....	32
展開環境のセットアップ.....	32
オンボードDHCPサーバーを有効にする.....	32
オフボードDHCPサーバーの設定.....	33
K2000メディアマネージャのダウンロードおよびインストール.....	33
Windows ADKのダウンロードおよびインストール.....	34
OSインストールまたはソースファイルのアップロード.....	34
ソースメディア詳細の表示.....	35
展開のタイプの選択.....	35
サポートされるイメージのタイプ.....	36
デバイスインベントリの管理.....	37
ネットワークスキャンの構成と実行.....	37
ネットワークインベントリのアプライアンスへの追加.....	37
ネットワーク上のアクティブデバイスと非アクティブデバイスのスキャン.....	38
デバイスの手動追加.....	38
特定のターゲットデバイスモデルのアップロード.....	39
ドメインへのデバイスの参加.....	39
Wake On LAN要求の発行.....	40
K1000インベントリ内のデバイスへの展開.....	40
ネットワークスキャンからのデバイスの詳細の表示.....	40
K1000エージェントへのKUIDの適用.....	41
コンピューター名の収集.....	42
コンピューター名の適用.....	42
デバイスインベントリからのデバイスの削除.....	42
ネットワークインベントリからのデバイスの削除.....	43
デバイスの登録解除.....	43
デバイスアクションアイコンについて.....	43
デバイスでのアクションの実行.....	44
VNCセッション経由でのリモートデバイスへのアクセス.....	45
ラベルの使用.....	46
ラベルの作成および適用.....	46
ラベルからのコンポーネントの削除.....	46
アプライアンスからのラベルの削除.....	47
ラベルに割り当てられているコンポーネントの表示.....	47
Windowsブート環境を作成する.....	48
Windowsブート環境の作成.....	48
既存のソースメディアからのブート環境の作成.....	49

ドライバの更新.....	49
新しいデフォルトのKBEの設定.....	49
ドライバの管理.....	50
ネットワークドライバの管理.....	50
ネットワークドライバとストレージドライバのダウンロード.....	51
ドライバパッケージのインポート.....	51
デバイスの互換性の表示.....	52
ドライバの互換性詳細の表示.....	52
ドライバのエクスポート.....	52
ドライバの再キャッシュ.....	53
オペレーティングシステムドライバの管理.....	53
スクリプト形式のインストール用のドライバフィードを有効にする.....	53
システムイメージ用のドライバフィードを有効にする.....	54
ドライバフィードを無効にする.....	54
オペレーティングシステムのドライバパッケージのダウンロード.....	55
ポストインストールタスクとしての、OSへのドライバの追加.....	55
イメージのキャプチャ.....	56
キャプチャの準備.....	56
システムイメージのキャプチャ.....	56
シングルパーティションの作成.....	57
CドライブをNTFSとしてフォーマット.....	58
UEFIパーティションの作成.....	58
UEFIパーティションの適用.....	59
ネイティブWIMイメージのキャプチャ.....	59
システムイメージの編集.....	59
ユーザープロファイルのキャプチャ.....	61
アプライアンスからのUSMTソフトウェアのアップロード.....	61
メディアマネージャからのUSMTソフトウェアのアップロード.....	62
USMTスキャンテンプレートの作成.....	62
ユーザープロファイルのスキャン.....	63
ユーザープロファイルのオフラインスキャン.....	64
ターゲットデバイスへのユーザープロファイルの自動展開.....	65
ターゲットデバイスへのユーザープロファイルの手動展開.....	65
スクリプト形式のインストールを作成する.....	67
スクリプト形式のインストールの作成.....	67
応答ファイルの作成.....	68
登録データ設定.....	68
Administratorアカウント設定.....	69

一般設定.....	69
ネットワーク設定.....	70
Windowsコンポーネント設定.....	70
スクリプト形式のインストールの設定ファイルの修正.....	71
Vista MBRのインストール.....	71
XP 2003 MBRのインストール.....	71
タスクシーケンスの作成.....	72
プレインストールタスクの追加.....	72
アプリケーションの追加.....	72
BATスクリプトの追加.....	73
Windowsスクリプトの追加.....	73
シェルスクリプトの追加.....	74
DiskPartスクリプトの追加.....	74
共通のDiskPartコマンドラインオプション.....	75
ポストインストールタスクの追加.....	75
アプリケーションの追加.....	76
BATスクリプトの追加.....	76
命名規則の追加.....	76
K1000エージェントインストーラーの追加.....	77
カスタムHAL置換タスクの追加.....	77
Windowsスクリプトの追加.....	78
サービスパックの追加.....	78
ファイルのアップロードについて.....	79
実行時環境について.....	79
タスクのエラー処理オプションの設定.....	80
システムイメージの展開へのタスクの割り当て.....	80
スクリプト形式のインストール展開へのタスクの割り当て.....	81
展開タスクの編集.....	81
展開の自動化.....	83
ブートアクションの作成.....	83
次回のネットワーク起動での展開の実行.....	84
ブートアクションの修正.....	84
デフォルトのブートアクションの設定.....	85
展開のスケジュール.....	85
ブートアクションの削除.....	85
マルチキャストWIMイメージの展開の作成.....	86
デフォルトマルチキャスト設定の編集.....	86
進行中の自動展開の表示.....	87

完了した自動展開の表示.....	87
失敗したタスクの編集.....	88
自動展開イメージ詳細の表示.....	88
手動展開の実行.....	89
USBデバイスへのブート環境のインストール.....	89
USBフラッシュデバイスへのイメージのコピー.....	90
USBデバイスドライバディレクトリの作成.....	90
USBイメージへのドライバの追加.....	90
ブート環境を起動可能なISOファイルとしてダウンロード.....	91
ターゲットデバイスのネットワーク起動.....	91
イメージの手動展開.....	92
進行中の手動展開の表示.....	93
完了した手動展開の表示.....	93
Macデバイスのイメージ作成.....	94
Mac OS X用のメディアマネージャのダウンロード.....	94
NetBoot環境イメージの作成.....	94
NetBootサーバーを有効にする.....	95
キャプチャ実行前のイメージのカスタマイズ.....	96
Mac OS Xイメージのキャプチャ.....	96
展開実行前のイメージのカスタマイズ.....	97
シングルHFS+パーティションの作成.....	97
Mac OS X ByHost環境設定の適用.....	97
Mac OS Xコンピューター名の収集.....	98
Mac OS Xコンピューター名の適用.....	98
Mac OS Xコンピューター名の変更.....	98
Active Directoryドメインへのデバイスの参加.....	99
ユニキャストMac OS Xイメージ展開の実行.....	99
すべてのスクリプト用の環境変数.....	99
マルチキャストMac OS Xイメージ展開の実行.....	100
マルチキャストDMGイメージの展開の作成.....	100
Mac OS Xマルチキャスト展開の進行状況の表示.....	101
Mac OS Xマルチキャスト展開のログファイルの表示.....	101
リモートサイトアプライアンスについて.....	102
リモートサイトアプライアンスセットアップの要件.....	102
VMwareまたはHyper-VホストへのRSAのインストール.....	103
RSAのネットワーク設定の構成.....	104
K2000からRSAにリンク.....	104
アプライアンスへのRSAの追加および同期.....	105

アプライアンスコンポーネントのインポートとエクスポート.....	107
コンポーネントのエクスポートのスケジュール.....	107
オフボードパッケージ転送の使用.....	107
インポート対象のパッケージのアップロード.....	108
アプライアンスコンポーネントのインポート.....	109
エクスポート対象のコンポーネントのパッケージ.....	109
ディスク容量の管理.....	111
使用可能なディスク容量の確認.....	111
デバイスに関連付けられていないイメージの削除.....	111
デバイスに関連付けられたイメージの削除.....	112
未割り当てのスクリプト形式のインストールの削除.....	112
未割り当てのブート環境の削除.....	112
ソースメディアの削除.....	113
未割り当てのプレインストールタスクの削除.....	113
未割り当てのポストインストールタスクの削除.....	113
オフボードストレージの有効化.....	113
オフボードストレージ用の仮想ディスクの追加.....	114
オフボードデータをオンボードストレージに戻す.....	114
オフボードストレージデバイスの設定.....	115
アプライアンスの問題のトラブルシューティング.....	117
ネットワーク上でのデバイス接続のテスト.....	117
Quest KACEテクニカルサポートへのtetherを有効にする.....	117
サポートチケットを開く.....	118
起動マネージャのトラブルシューティング.....	118
ターゲットデバイスがネットワーク起動できるかどうかをテストする.....	118
起動マネージャインターフェイスの変更.....	119
起動マネージャのタイムアウトの設定.....	119
ローカルハードディスク起動方法の選択.....	119
ネットワーク遅延時間の変更.....	120
デバイスの回復.....	120
破損したデバイスの回復.....	120
K2000ログファイルのダウンロード.....	121
すべてのアプライアンスログファイルのダウンロード.....	121
アプライアンスログファイルの表示.....	121
アプライアンスログのタイプと説明.....	121
アプライアンスのシャットダウンと再起動.....	124
アプライアンスの電源をオフにする.....	125
アプライアンスの再起動.....	125

アプライアンスソフトウェアの更新.....	126
アプライアンスバージョンの表示.....	126
自動更新の確認および適用.....	126
アプライアンスの手動更新.....	127
当社について.....	128
名前を超える存在.....	128
当社のブランドとビジョンと、ともに.....	128
Questへのお問い合わせ.....	128
テクニカルサポートのリソース.....	128
法的情報.....	129
用語集.....	130
索引.....	134



# KACEシステム導入アプライアンス ( K2000 ) について

---

Quest KACEシステム導入アプライアンス ( K2000 ) は、イメージのキャプチャと展開を行うためのネットワーク中心のソリューションを提供します。K2000はシームレスなクロスプラットフォームのイメージ処理ソリューションを提供するので、ユーザーは1台の管理者コンソールからMicrosoft® Windows®プラットフォームおよびApple® Mac®プラットフォームをプロビジョニングできます。また、ユーザーは1台のデバイスまたは同時に複数のデバイスに、設定ファイル、ユーザープロファイル、およびアプリケーションをイメージとして展開できます。

K2000は、同種および異種の両方のハードウェア環境における展開を自動化するのに必要なツールを提供し、マルチキャスト機能とタスクエンジン機能により、大規模なイメージ展開を高い信頼性で実現できます。ビルトインのドライバフィードにより、Questのドライバモデルが自動的にダウンロードされ、パッケージ管理機能を使用することにより、サードパーティ製のドライバパッケージをアップロードすることもできます。また、K2000をKACEシステム管理アプライアンス ( K1000 ) と統合することでK1000インベントリのイメージを作成することもできます。K2000は、仮想アプライアンスおよび物理アプライアンスとして使用できます。

このK2000の、シリアルナンバー、付随するエージェントのバージョン、およびサードパーティのライセンスとオープンソースの著作権などの情報を表示するには、アプライアンスのダッシュボードページの左下にあるバージョン番号をクリックしてください。

# はじめに

アプライアンスをセットアップするには、アプライアンスをネットワークに接続し、初期設定コンソールからネットワーク設定を構成します。アプライアンスをネットワークに接続したら、ブート環境を構築するのに必要なツールのダウンロード、デフォルトパスワードの変更、ドライバの追加、および他の展開タスクの設定を行うことができます。

## K2000アプライアンスの使用を開始するためのタスク

K2000アプライアンスをインストールして環境を設定することにより、オペレーティングシステムの展開を準備できます。

K2000アプライアンスの使用を開始するためのタスク

タスク	方法
K2000アプライアンスのインストールとセットアップ	モニタとキーボードを使用してアプライアンスをネットワークに接続し、ネットワーク設定を構成します。
管理者コンソールへのログイン	Webブラウザを開き、K2000アプライアンスのURL ( <code>http://K2000_hostname</code> ) を入力します。ここでライセンスキーを入力し、アプライアンスを登録できます。
パスワードの保護	デフォルトのパスワードを変更します。必須のタスクではありませんが、Quest KACEでは、アプライアンスの最初のセットアップ時にデフォルトのパスワードを変更することをお勧めします。
管理者デバイスとしてのデバイスの使用	K2000がインストールされているデバイスの管理者権限を所有していることを確認します。
K2000ブート環境 ( KBE ) またはNetBoot環境を構築するためにK2000で必要なツールのダウンロード	Microsoft Windows ADK、K2000メディアマネージャ、およびMicrosoft .NET 4をダウンロードします。
K2000ブート環境の作成	メディアマネージャを使用して、ブート環境を作成します。ブート環境には、オペレーティングシステムを展開するためのドライバとツールが含まれています。
デフォルトのKBEの設定	デフォルトのブート環境を選択し、ターゲットデバイスをアプライアンスから起動できるようにします。

タスク	方法
ドライバの更新	KBEで必要なドライバを追加し、Dellドライバを自動更新するためにドライバフィードを有効にします。
DHCPサーバーの設定	K2000からターゲットデバイスをネットワーク起動するために、DHCPサーバーをセットアップします。
ブート環境のテスト	アプライアンスからターゲットデバイスを起動できることを確認します。
ユーザーファイルと設定の移行	Windows User State Migrationツール ( USMT ) のバージョン5.0を使用して、デバイスからユーザープロファイルをキャプチャします。
オペレーティングシステムのソースファイルのアップロード	メディアマネージャを使用して、K2000にOSソースファイルをアップロードします。
OSの展開	スクリプト形式のインストールまたはシステムイメージの展開を使用してOSを展開します。

## K2000コンポーネントについて

イメージ展開をサポートするK2000コンポーネントには、物理アプライアンスと仮想アプライアンス、ブート環境を構築するユーティリティ、サポートポータル、およびリモートデバイスをネットワーク起動するための仮想リモートサイトアプライアンス ( RSA ) があります。

K2000は、以下のコンポーネントで構成されています。

オプション	説明
物理アプライアンス/仮想アプライアンス	<p>K2000は、物理的またはハードウェアベースのアプライアンスとして、および仮想アプライアンスとして使用できます。仮想アプライアンス ( VK2000 ) は、VMware®インフラストラクチャを使用します。物理アプライアンスと仮想アプライアンスのどちらでも、同じシステム管理機能が利用できます。仕様詳細については、以下を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><a href="http://documents.quest.com/k2000-systems-deployment-appliance/technical-specifications-for-physical-appliances/">http://documents.quest.com/k2000-systems-deployment-appliance/technical-specifications-for-physical-appliances/</a></li> <li><a href="http://documents.quest.com/k2000-systems-deployment-appliance/technical-specifications-for-virtual-appliances/">http://documents.quest.com/k2000-systems-deployment-appliance/technical-specifications-for-virtual-appliances/</a></li> </ul>
コマンドラインコンソール	<p>K2000アプライアンスのターミナルウィンドウのインターフェイスはコマンドラインコンソールです。これは主にアプライアンスのネットワーク設定を構成するためのインターフェイスです。</p>

オプション	説明
管理者コンソール	管理者コンソールは、K2000アプライアンスを操作するために使用するWebベースのインターフェイスです。管理者コンソールにアクセスするには、 <code>http://&lt;K2000_hostname&gt;/admin</code> にアクセスします（<K2000_hostname>はアプライアンスのホスト名です）。
サポートポータル	サポートポータルは、ヘルプを依頼したり、問題を報告したりするためのチケットを送信できるようにするWebベースのインターフェイスです。また、ネットワーク接続をテストしたり、問題をトラブルシューティングするためにQuest KACEテクニカルサポートが一時的にお客様のアプライアンスにアクセスすることを可能にしたりできます。
K2000メディアマネージャ	ブート環境の構築、オペレーティングシステムのソースファイルのアップロード、およびユーザープロファイルをアプライアンスにアップロードするためのWindowsユーザー状態移行ツール（USMT）へのアクセスを可能にするユーティリティです。
リモートサイトアプライアンス（RSA）	K2000アプライアンスライセンスを使用して仮想リモートサイトアプライアンス（RSA）にリンクすることにより、リモートデバイスをネットワーク起動できます。リモートサイトアプライアンスは読み取り専用です。

## 管理者コンソールへのログイン

ネットワーク設定を構成し、アプライアンスを再起動すると、ローカルエリアネットワーク（LAN）上のすべてのデバイスから管理者コンソールにログインできます。

この時点でデフォルトの管理者アカウントはアプライアンス上で唯一のアカウントになります。Quest KACEテクニカルサポートのアクセスを有効にしていないときにパスワードを忘れた場合は、設定画面からSSHルートログインを有効にしてテクニカルサポートにお電話でお問い合わせをして、パスワードをリセットしてください。

- Webブラウザを開き、アプライアンスの管理者コンソールのURL（`http://ホスト名`）を入力します。例：`http://k2000`  
初期設定ウィザードページが表示されます。
- 初期設定ウィザードで、次のオプションのいずれかを選択してアプライアンスモードを選択します。
  - K2000として使用
  - リモートサイトアプライアンスとして使用する
- 次へ をクリックします。
- 次の情報を入力します。

設定	説明
ライセンスキー	Quest KACEからの案内のEメールに記載されているライセンスキーを入力します。ダッシュも含めてください。ライセンスキーがない場合は、Quest KACEテクニカルサポート（ <a href="https://">https://</a>

	support.quest.com/contact-support ) までご連絡ください。
管理者パスワード	<p>デフォルトのadminアカウントのパスワードを入力してください。アプライアンスの管理者コンソールにログインするには、このアカウントを使用します。このパスワードを忘れないでください。このパスワードがないと、管理者コンソールにログインできません。</p> <p><b>i</b> 注: 複数のアプライアンスを使用する場合には、すべてのアプライアンスのadminアカウントに同じパスワードを使用することをお勧めします。これにより、後でアプライアンス同士をリンクすることが可能になります。</p>
登録データ	アプライアンスからのログと通知を受け取る会社またはグループの名前、および担当者またはグループのEメールアドレスを入力します。
ネットワーク接続	K2000および仮想K2000アプライアンスは、ライセンス情報を検証するためにネットワーク接続されている必要があります。
タイムゾーン	アプライアンスが設置されている地域のタイムゾーンを選択します。
<p>5. (オプション) 考えが変わり、K2000またはRSAモードに切り替えなくなった場合は、仮想アプライアンスモードの変更をクリックしてアプライアンスの種類を選択します。</p> <p><b>i</b> 重要: アプライアンスを設定および再起動したら、その他の仮想アプライアンスモードに切り替えることはできません。</p> <p>6. 設定を保存して続行する をクリックします。</p> <p>7. 表示された データストレージ ページで、提供された情報を確認し、必要に応じて次のオプションのいずれかを選択することにより、アプライアンスが収集したデータを保存する場所を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 仮想アプライアンス上 ( オンボードストレージ )</li> <li>◦ オフボードストレージデバイス: 仮想ディスク</li> </ul> <p>8. (オプション) 考えが変わり、K2000またはRSAモードに切り替えなくなった場合は、仮想アプライアンスモードの変更 をクリックしてアプライアンスの種類を選択します。</p> <p><b>i</b> 重要: アプライアンスを設定および再起動したら、その他の仮想アプライアンスモードに切り替えることはできません。</p> <p>9. 次の手順のいずれかを実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 設定を完了するには、アプライアンスを設定して再起動する をクリックします。アプライアンスが再起動します。次の手順に進みます。</li> <li>◦ 設定を完了させたくない場合は、アプライアンスの電源をオフにする をクリックします。アプライアンスの電源がオフになります。</li> </ul> <p>10. アプライアンスが再起動したら、ブラウザページを更新します。</p> <p>11. エンドユーザー使用許諾契約 ( EULA ) に同意し、次に、ログインID adminとパスワード ( 初期設定ページで選択したもの ) を使用してログインします。</p>	

設定が完了してK2000アプライアンスにログインすると、管理者コンソールで使用可能なすべてのページにアクセスできます。ただし、RSAで提供されるリモートサイトコンソールでは、RSAモードに適用されるページの

みにアクセスが制限されています。たとえば、リモートサイトコンソールでは、左側のナビゲーションペインにホーム、設定、サポート メニューオプションのみが表示されて、そこから関連ページにアクセスできます。

## 言語設定の構成

アプライアンスコンソールのテキスト用に使用する言語の設定、日付などの数値用に使用するデフォルト文字セットを決定するための地域設定の構成、およびWindows用のK2000ブート環境 ( KBE ) で使用するテキスト用のフォントの選択を行うことができます。

1. 左側のナビゲーションペインで、設定 をクリックしてセクションを展開し、次に 言語設定 をクリックして 言語設定 ページを表示します。  
**i** | 注: スクリプト形式のインストールの地域設定は、スクリプト形式のインストールのソースメディアの言語と一致する必要があります。それ以外の場合、メッセージは正しい言語で表示されません。
2. 言語 ドロップダウンリストで、アプライアンスコンソールのテキスト用に使用する言語のロケールを選択します。  
デフォルト オプションを選択すると、管理者コンソールの言語は、ブラウザの言語と一致します。
3. 地域 ドロップダウンリストで、日付などの数値用に使用するデフォルト文字セットを決定するためのロケールを選択します。
4. KBEオプションフォントサポート で、Windows用のK2000ブート環境 ( KBE ) でテキスト用に使用する言語を決定するためのロケールを選択します。  
アジア系フォントを追加する場合は、メディアマネージャを使用してKBEを再構築してください。
5. オプション : キャンセル をクリックして、ページを閉じます。
6. 保存 をクリックします。

選択した言語が適用されます。管理者コンソールにログインする管理者には、ローカライズバージョンが表示されます。これは、ターゲット言語もブラウザ設定で選択されている場合に限りです。

# ダッシュボードの使用

---

ダッシュボードは、アプライアンスのアクティビティの概要、共通タスクへのリンク、およびライブラリリソースを提供します。警告と、ニュース記事およびサポート技術情報記事へのリンクも提供します。ダッシュボードは、必要に応じて、ウィジェットを表示または非表示にするようにカスタマイズできます。

## ダッシュボードのカスタマイズ

ダッシュボードは、必要に応じてカスタマイズして、ウィジェットを追加できます。

1. KACEシステム展開アプライアンス管理者コンソールにログインして、ダッシュボードを表示します。
2. ウィジェットをマウスでポイントし、次のオプションのいずれかを使用します。
  - ウィジェットの情報を更新します。
  - ウィジェットに関する情報を表示します。
  - ウィジェットを非表示にします。
  - ウィジェットをページ上の別の場所にドラッグします。
  - ウィジェットのサイズを変更します。
3. ページの右上隅にある **カスタマイズ** ボタンをクリックすると、使用可能なウィジェットが表示されます。
4. 現在非表示のウィジェットを表示するには、**インストール** をクリックします。

# K2000の設定

K2000のネットワークの初期設定には、モニタとキーボードが必要です。アプライアンスをネットワークに接続した後に、デフォルトパスワードの変更、アプライアンスへのリンク、リンクの集約、データ共有の基本設定およびその他の設定の構成を実行できます。

## ネットワークの初期設定の構成

モニタとキーボードをアプライアンスに直接接続して、アプライアンスを初めて起動した後に、K2000ネットワークセットアップコンソールからK2000アプライアンスのネットワーク設定を構成できます。

仮想KACEシステム展開アプライアンス管理者コンソールから仮想K2000アプライアンスのネットワーク設定を構成し、仮想RSA管理者コンソールからRSAを設定します。

1. アプライアンスにモニタとキーボードを直接接続します。
2. アプライアンスの電源をオンにします。初回のスタートアップは5分から10分かかります。  
ログイン画面が表示されます。
3. ログインプロンプトの ログイン と パスワード の両方にkonfigと入力します。
4. コンソールで使用する言語を選択します。上矢印キーと下矢印キーを使用してフィールド間を移動します。
5. 以下のネットワーク設定を構成します。フィールド内のオプションを選択するには、右矢印キーと左矢印キーを使用します。フィールド間を移動するには、上矢印キーと下矢印キーを使用します。

フィールド	説明
ホスト名	アプライアンスのホスト名を入力します。デフォルトはk2000です。
ドメイン名	アプライアンスが参加しているドメインを入力します。例: example.com。
IPアドレス	アプライアンスの静的IPアドレスを入力します。
ネットワーク速度	ネットワークの速度を選択します。LANスイッチの設定と同じ速度にする必要があります。自動ネゴシエートを選択した場合、システムは最適の値を自動的に決定します。ただし、LANスイッチがオートネゴシエーションに対応している場合に限りです。
デフォルトゲートウェイ	アプライアンスのネットワークゲートウェイを入力します。
サブネットマスク	アプライアンスが参加しているサブネット (ネットワークセグメント) を入力します。例: 255.255.255.0
プライマリDNS	アプライアンスがホスト名の解決に使用するプライマリDNSサーバーのIPアドレスを入力します。



フィールド	説明
セカンダリDNS	オプション：アプライアンスがホスト名の解決に使用するセカンダリDNSサーバーのIPアドレスを入力します。
プロキシ	<p>オプション：プロキシサーバーの情報を入力します。</p> <p><b>i</b> 注: このアプライアンスでは、ユーザー名とパスワードを要求するレルムベースの基本認証を使用するプロキシサーバーをサポートしています。プロキシサーバーが他の種類の認証を使用する場合は、プロキシサーバーの例外リストにアプライアンスのIPアドレスを追加してください。</p>

アプライアンスデータを保存	<p>アプライアンスデータを保存 設定を使用すると、新たにVirtual K2000アプライアンスおよびリモートサイトアプライアンスの初期設定を行う際に、アプライアンスデータをオフボード仮想ディスクに保存できます。また、管理者コンソールを使用してVK2000およびRSA用のオフボードストレージを後から設定することもできます。</p> <p>物理K2000アプライアンスの場合は、初期設定時にアプライアンスデータを保存 設定を使用できません。物理K2000アプライアンスを設定して、管理者コンソールからオフボードストレージデバイスにアプライアンスデータを保存します。</p> <p>次のいずれかのチェックボックスをオンにします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>仮想アプライアンス上 ( オンボードストレージ )</li> <li>オフボードストレージデバイス ( 仮想ディスク )</li> </ul> <p><b>i</b> 注: 接続できる仮想ディスクは1つだけです。</p>
---------------	--

6. 下矢印キーを使用してカーソルを 保存 に移動し、EnterキーまたはReturnキーを押します。

アプライアンスが再起動します。

7. ネットワークケーブルを以下のポートに接続します。



## ネットワークの初期設定の修正

K2000ネットワークセットアップコンソールから設定したネットワークの初期設定を修正できます。

- 左側のナビゲーションペインで、設定 をクリックしてコントロールパネル を表示し、次に ネットワーク設定 をクリックして ネットワーク設定 ページを表示します。
- 以下のネットワーク設定を構成します。

フィールド	説明
ホスト名	アプライアンスのホスト名を入力します。デフォルトはk2000です。
ドメイン名	アプライアンスが参加しているドメインを入力します。例: example.com。
IPアドレス	アプライアンスの静的IPアドレスを入力します。
ネットワーク速度	ネットワークの速度を選択します。LANスイッチの設定と同じ速度にする必要があります。自動ネゴシエートを選択した場合、システムは最適の値を自動的に決定します。ただし、LANスイッチがオートネゴシエーションに対応している場合に限りです。
デフォルトゲートウェイ	アプライアンスのネットワークゲートウェイを入力します。
サブネットマスク	アプライアンスが参加しているサブネット (ネットワークセグメント) を入力します。例: 255.255.255.0
プライマリDNS	アプライアンスがホスト名の解決に使用するプライマリDNSサーバーのIPアドレスを入力します。
セカンダリDNS	オプション: アプライアンスがホスト名の解決に使用するセカンダリDNSサーバーのIPアドレスを入力します。
プロキシ	オプション: プロキシサーバーの情報を入力します。



注: このアプライアンスでは、ユーザー名とパスワードを要求するレルムベースの基本認証を使用するプロキシサーバーをサポートしています。プロキシサーバーが他の種類の認証を使用する場合は、プロキシサーバーの例外リストにアプライアンスのIPアドレスを追加してください。

3. オプション: オンボードDHCPサーバーを有効にする チェックボックスをオンにします。
4. オプション: NetBootサーバー ( Mac OS Xクライアント用 ) を有効にする チェックボックスをオンにします。
5. オプション: プロキシサーバーの使用 チェックボックスをオンにします。
6. オプション: SMTPサーバーの使用 チェックボックスをオンにします。
7. 保存 をクリックします。

## デフォルトパスワードの変更

Quest KACEでは、アプライアンスの初期セットアップ時に、管理者、K2000 Samba共有ディレクトリ、および起動マネージャのデフォルトパスワードを変更することをお勧めします。

K2000には、4つのパスワードが関連しています。

パスワード	説明
管理者	デフォルトパスワードはadminです。新しいパスワードは、6文字以上にする必要があります。
K2000 Samba共有パスワード、メディアマネージャ、K2000ブート環境 ( KBE )	デフォルトパスワードはadminです。ドライバのアップロード、およびライブラリコンポーネント、スクリプト形式のインストール、システムイメージ、ブート環境、ネットワークインベントリ、そしてネットワークスキャンのバックアップと復元で使用されます。  <b>i</b>   注: K2000メディアマネージャの K2000ホスト名 フィールドには、このパスワードを入力する必要があります。
<b>i</b>   注: すべて同じパスワードを使用します。	
VNC	ネットワーク起動されたターゲットデバイスへの接続を有効にします。
NetBoot	Macデバイスにのみ使用されます。
<b>i</b>   注: KBEリモートVNCパスワードには7ビットのASCII文字のみを使用できます。	

## Samba共有パスワードの変更

K2000 Samba共有パスワードを変更することができます。Samba共有のdriversとrestoreディレクトリはドライバのアップロード、およびライブラリコンポーネント、スクリプト形式のインストール、システムイメージ、ブート環境、ネットワークインベントリ、およびネットワークスキャンのバックアップと復元に使用します。

**i** | 注: デフォルトのアカウント名はadminで、デフォルトのパスワードもadminです。

1. 左側のナビゲーションペインで、設定 をクリックして コントロールパネル を表示し、次に 一般設定 をクリックして 一般設定 ページを表示します。
2. K2000 Samba共有パスワード に、新しいパスワードを入力します。
3. 保存 をクリックします。

これでSamba共有のアカウントパスワードが変更されました。

## VNC®パスワードの設定

K2000ブート環境 ( KBE ) には、Java® VNCクライアントが含まれているため、アプライアンスからリモートデバイスに接続して起動できます。Mac OS X®デバイスにNetBoot環境を作成すると、VNCパスワードがMac OS X NetBoot環境に保存されます。

1. 左側のナビゲーションペインで、設定 をクリックして コントロールパネル を表示し、次に 一般設定 をクリックして 一般設定 ページを表示します。
2. VNCパスワード に、パスワードを入力します。
3. 保存 をクリックします。

次回、アプライアンスからデバイスが起動する際は、新しいVNCパスワードを使用して接続します。


# アプライアンスの日付と時刻設定の構成

アプライアンスの展開動作、定期バックアップ、エクスポート、およびオフボード転送は、システムクロックの日付と時刻に基づいて実行されます。K2000システムクロックは、デフォルトでQuest KACEタイムサーバと同期するように設定されています。システムクロック設定はタイムゾーンに一致するよう変更できます。

## 日付と時刻の設定

K2000アプライアンスは、アプライアンスのシステムクロックの日付と時刻に基づいて展開操作をログに記録します。タイムゾーンに一致するようシステムクロックを設定すると、リソースを大量に使用するバックアップ処理をネットワーク活動の多い時間帯に実行するような予期しない動作を防ぐことができます。

1. 左側のナビゲーションペインで、設定 をクリックして コントロールパネル を表示し、次に 日付と時刻の設定 をクリックして 日付と時刻の設定 ページを表示します。
2. 次の設定を指定します。

オプション	説明
タイムゾーン	ドロップダウンリストでタイムゾーンを選択します。
時刻設定	オプションを選択します。 <ul style="list-style-type: none"><li>• インターネットタイムサーバとの自動同期: インターネットタイムサーバを使用します。このオプションを選択した場合、サーバ フィールドにサーバのWebアドレスを入力します。</li><li>• K2000上でクロックを手動で設定: アプライアンスのクロックを手動で設定します。ドロップダウンリストで時間と日付を指定します。時間 ドロップダウンリストでは、24時間制が使用されています。</li></ul>
タイムサーバ	インターネットタイムサーバを使用して、アプライアンスの時間を設定します。テキストボックスにタイムサーバのWebアドレスを入力します。 例: time.example.com。 システムクロックは、デフォルトでQuest KACEタイムサーバと同期するように設定されています。  注: <a href="http://tf.nist.gov/tf-cgi/servers.cgi">http://tf.nist.gov/tf-cgi/servers.cgi</a> でNISTインターネットタイムサーバを使用して、システムクロックの同期プロセスで使用可能なタイムサーバを検索できます。

3. 保存 をクリックします。

Webサーバが再起動し、設定が適用されます。

アクティブな接続は、再起動中にドロップされる場合があります。変更を保存すると、15秒後にページが自動的に更新されます。アプライアンスWebサーバの再起動後、更新された日付と時刻が管理者コンソールの右下に表示されます。

# リンクアグリゲーションを有効にする

デフォルトでは、K2000アプライアンスのリンクアグリゲーションは有効になっていません。アプライアンスでリンクアグリゲーションを使用するには、ご使用のスイッチがLACP ( 802.3ad ) 接続に対応している必要があります。

リンクアグリゲーションを有効にする前に、LACPネゴシエーションをアクティブに行うようにスイッチを設定します。詳細については、スイッチベンダのマニュアルを参照してください。パッシブネゴシエーションモードは機能しません。パッシブモードで動作するようにスイッチを設定した場合、スイッチはK2000 LACP接続ネゴシエーションを行うことができません。IOSオペレーティングシステムを実行し、アクティブモードに設定されているCisco®スイッチの設定の例は、オンライン ( [FreeBSD® Handbook.](#) ) で確認できます。

各EtherChannelのすべてのインターフェイスは、速度と通信方式が同一である必要があります。

## 集約リンクの作成

物理K2000アプライアンスには、2つのポートがあります。両方のポートをネットワーク ( LAN ) に接続して、リンクアグリゲーションを有効にできます。オフボードストレージが設定されていると、リンクアグリゲーションを有効にできません。

1. 左側のナビゲーションペインで、設定 をクリックして コントロールパネル を表示し、次に ネットワーク設定 をクリックして ネットワーク設定 ページを表示します。
2. リンクアグリゲーションを有効にする チェックボックスをオンにします。
3. 保存 をクリックします。
4. リンクアグリゲーションのIPアドレス を入力します。

K2000が再起動し、IPアドレスが入力したリンクアグリゲーションのIPアドレスに変更されます。



注: サブネットマスクがNICと一致するよう変更されます。

## データ共有の基本設定の構成

データ共有の基本設定により、K2000の情報がどれくらいQuest KACEと共有されるかが決まります。また、データ共有の基本設定により、ITNinjaからの情報が管理者コンソールに表示されるかが決まります。

エンドユーザー使用許諾契約 ( EULA ) に同意すると、Questがユーザーのアプライアンスの使用に関する情報を収集、保存、集計、および分析できることに同意したことになります。

アプライアンスはデフォルトでは、以下のデータを収集および保存して、Questと共有します。

- サーバーフィールド: MACアドレス、会社名、シリアルナンバー、モデル、ネットワークアドレス ( 外部カスタマ )、ネットワークアドレス ( 内部カスタマ )。
- ライセンス: 製品バージョン、有効なモジュール、ノード数、ネットワークアドレス ( 内部カスタマ )、ライセンスキー。
- EULA同意ログ
- ステータス/稼働時間/負荷の平均
- 現在のテーブル使用状況: スクリプト形式のインストール、システムイメージ、プレインストールタスク、ポストインストールタスク、ユーザープロファイルなどの数。
- マシン/製造元/モデル: 製造元、モデル、およびマシンの数。
- K2000ディスク情報: RAIDステータス、物理ドライブ、アダプタ情報など。ディスク情報は、物理K2000アプライアンスでのみ提供されます。

## 基本的なアプライアンスデータ使用率の共有

Questとアプライアンス使用率サマリデータを共有するか、基本的なアプライアンス使用率データのみを共有するようにアプライアンスを設定できます。

1. 左側のナビゲーションペインで、設定 をクリックして コントロールパネル を表示し、次に 一般設定 をクリックして 一般設定 ページを表示します。
2. Questと共有する で、最初のチェックボックスハードウェア、ソフトウェア、およびアプライアンスの使用率サマリデータをQuestと共有する をオフにします。

最初のチェックボックスをオフにすると、2番目のチェックボックス詳細な使用率データとクラッシュレポートを共有する ( ITNinjaコミュニティ機能が必要 ) が自動的に無効になります。

3. 保存 をクリックします。

アプライアンスは以下の基本的な使用率データを収集します。

- サーバーフィールド: MACアドレス、会社名、シリアルナンバー、モデル、ネットワークアドレス ( 外部カスタマ )、ネットワークアドレス ( 内部カスタマ )。
- ライセンス: 製品バージョン、有効なモジュール、ノード数、およびライセンスキー。
- EULA同意ログ

## 詳細な使用率データの共有

アプライアンスの詳細な使用率データを共有することにより、Questでは、お客様の環境で製品がどのように稼働しているかを理解することができます。これによって、問題のトラブルシューティングに役立つより多くの情報をサポートチームに提供できるほか、製品の改善にも役立ちます。

ITNinjaコミュニティとの統合には、すべてのレベルのデータに対するアクセスが必要です。

1. 左側のナビゲーションペインで、設定 をクリックして コントロールパネル を表示し、次に 一般設定 をクリックして 一般設定 ページを表示します。
2. Questと共有する で、最初の2つのチェックボックス ( ハードウェア、ソフトウェア、およびアプライアンスの使用率サマリデータをQuestと共有する と 詳細な使用率データとクラッシュレポートを共有する ( ITNinjaコミュニティ機能が必要 ) ) をオンにします。
3. 保存 をクリックします。

詳細な使用率データを共有する場合、アプライアンスはデフォルトの情報に加えて、以下のデータを収集します。

- K2000サーバークラッシュログ
- UIアクセスの統計

## Quest KACEアプライアンスのリンク

複数のQuest KACEアプライアンスがある場合は、これらのアプライアンスをリンクできます。アプライアンスをリンクすることで、管理者コンソールの右上隅にあるドロップダウンリストから1つのアプライアンスにログインしたり、各アプライアンスに個別にログインすることなく、リンクされたすべてのアプライアンスにアクセスしたりできます。

各Kシリーズアプライアンスでリンクを有効にして、各アプライアンスでリンク接続の名前およびキーなどを設定する必要があります。追加するアプライアンスでSSLが有効になっている場合は、SSLを使用して正常な接続を確立します。

リモートサイトアプライアンス (RSA) にリンクすることで、アプライアンスのリンク相手としてRSAを確立します。これにより、リモートサイトで使用するコンポーネントを同期できます。また、ネットワーク起動、システムイメージおよびスクリプト形式のインストールの展開、リモートサイトのデバイスへのユーザープロファイルの移行を実行できます。

リンク先アプライアンス間では、リソースまたはコンポーネントは転送できません。詳細については、[アプライアンスコンポーネントのインポートとエクスポート](#)を参照してください。



注: K3000アプライアンスにリンクするには、各アプライアンスにLDAP認証をセットアップする必要があります。詳細については、[LDAPサーバーでのユーザー認証の設定](#)を参照してください。

## アプライアンスリンクを有効にする

各アプライアンスの管理者ユーザーアカウントのパスワードが同じであれば、リンクを有効にして1つのアプライアンスにログインし、1つの管理者コンソールから複数のリンク先K2000アプライアンスまたはリモート (RSA) アプライアンスにアクセスできます。

1. 左側のナビゲーションペインで、設定 をクリックして **コントロールパネル** を表示し、次に **KACEリンク** をクリックして **KACEリンク ページ** を表示します。
2. **KACEリンク** を有効にする **チェックボックス** をオンにして、**接続設定** を表示します。
3. **ホスト名** で、このK2000アプライアンスまたはリモート (RSA) アプライアンスを識別する固有のロジカルネームを入力します。アプライアンスがリンクされている場合、この名前がページの右上隅にあるドロップダウンリスト (ログイン情報の隣) に表示されます。
4. **リモートログインの有効期限** に、リンクを開いたままにする期間を分単位で入力します。この期間が終了した後にリンク先アプライアンスに切り替える場合は、ログイン資格情報を入力します。デフォルトは120分です。
5. **要求タイムアウト** に、リンク先アプライアンスがリンク要求に応答するまで、このアプライアンスが待機する時間を秒単位で入力します。デフォルトは10秒です。
6. **保存** をクリックします。

KACEリンクキーフィンガープリント と KACEリンクキー (このサーバー) が表示されます。

7. **名前** フィールドのテキストと **キー** フィールドのテキストをコピーして、メモ帳ファイルなどの中央的な場所に貼り付けます。

メモ帳に貼り付けるテキストは、1つのアプライアンスの **名前** および **キー** からコピーして、別のリンク先アプライアンスの対応するフィールドに貼り付けるテキストです。

8. リンク先の各アプライアンスで、上記の手順を繰り返します。

リンクを有効にしたすべてのアプライアンスに対して、名前とキーを追加します。詳細については、[名前とキーのアプライアンスへの追加](#)を参照してください。

## 名前とキーのアプライアンスへの追加

アプライアンスでリンクを有効にした後、各アプライアンスでリンクを設定するには、リモートアプライアンスの KACEリンク ページからリンクキーを中央サイトにコピーして、リンク先アプライアンスにそのキーを貼り付ける必要があります。

1. 左側のナビゲーションペインで、**設定** をクリックして **コントロールパネル** を表示し、次に **KACEリンク** をクリックして KACEリンクを有効にする **チェックボックス** をオンにします。

リンク先アプライアンスの **管理 オプション** が **コントロールパネル** から使用できるようになります。

2. **アクションの選択 > 新規作成** を選択し、リンク先アプライアンスの **追加** ページを表示します。
3. **ホスト名** に、リンク先アプライアンスの IP アドレスを入力します。

RSA とアプライアンスがリンクしている場合、ホスト名は RSA の **ネットワーク設定** ページで設定したホスト名と一致する必要があります。

4. **リンクキー** で、中央的な場所にコピーしたキーをリンク先アプライアンスに貼り付けます。
5. **保存** をクリックします。
6. 両方のリンクが作成されたら、リンク先アプライアンス詳細の **編集** ページに移動し、**接続のテスト** をクリックして、2つのリンク先アプライアンス間の接続を確認します。

リンク先アプライアンス ページが表示されます。

アプライアンスに次回ログインすると、ページの右上隅にあるドロップダウンリスト ( ログイン情報の隣 ) にリンク先アプライアンスが表示されます。別のアプライアンスに切り替えるには、切り替えるアプライアンスの名前をドロップダウンリストで選択してください。

## リンク先アプライアンスを無効にする

必要に応じて、リンクを無効にできます。アプライアンスリンクを無効にした後でも、ログオフするまでは、リンクされた K2000 アプライアンスまたはリモート ( RSA ) アプライアンス間での切り替えを継続できます。

1. 左側のナビゲーションペインで、**設定** をクリックして **コントロールパネル** を表示し、次に **KACEリンク** をクリックして **KACEリンク** ページを表示します。
2. **KACEリンク** を有効にする **チェックボックス** をオフにします。
3. **保存** をクリックします。



# ユーザーアカウントおよびユーザー認証のセットアップ

K2000アプライアンスにユーザーアカウントを追加して、ローカル認証を使用するようにセットアップできます。LDAPサーバーやActive Directory®サーバーなど外部のユーザー認証が必要な場合、外部サーバーを設定して、ユーザーがそれらのドメイン資格情報を使用して管理者コンソールにログインできるようにすることができます。

## ローカル認証

デフォルトのローカル認証法は、使用している環境でActive DirectoryなどのLDAPサービスを使用できない場合に使用してください。

## 外部LDAPサーバー認証

ドメイン資格情報を使用して管理者コンソールにログインします。詳細については、「[認証でのLDAPサーバーの使用](#)」を参照してください。



注: リンク先アプライアンスがあり、すべてのリンク先アプライアンスで同じログインIDとパスワードを使用している場合、シングルサインオンを使用できます。

## ローカル管理者アカウントの追加または編集

ローカル管理者ユーザーアカウントを作成および編集できます。ユーザーをK2000データベースに追加すると、ユーザー情報がローカルに保存されます。ユーザーを追加する操作では、ユーザー名、Eメールアドレス、パスワード、および権限のみが必要です。

1. 左側のナビゲーションペインで、**設定** をクリックして **コントロールパネル** を表示し、次に **ユーザー** をクリックして **ユーザー ページ** を表示します。
2. **アクションの選択 > 新規作成** を選択して、**ユーザー詳細 ページ** を表示します。
3. **ユーザーアカウント フォーム** に入力します。

オプション	説明
ユーザー名	必須: ログインIDを入力します。
フルネーム	必須: ユーザーの姓名を入力します。
Eメール	必須: ユーザーのEメールアドレスを入力します。
ドメイン	ユーザーが使用しているドメインを入力します。
予算コード	オプション: ユーザーが所属している部門の予算コードを入力します。
場所	オプション: ユーザーのサイトまたは場所を入力します。

オプション	説明
パスワード	必須: ユーザーのデフォルトパスワードを入力します。パスワードはユーザーをアクティブにするのに必要です。パスワードフィールドが空白の場合、ユーザーは管理者コンソールにログインできません。
パスワードの確認入力	パスワードを再入力します。
権限	<p>このアプライアンス上でのユーザーの役割。管理者は、すべての読み取り/書き込み権限を持ちます。読み取り専用管理者は、ログインして設定を表示したり、レポートを実行したりできますが、管理者コンソールにアクセスできません。</p> <p>権限を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>管理者: 管理者コンソールに対する読み取り/書き込み権限。</li> <li>読み取り専用管理者: すべてのページを表示する権限があります。ただし変更権限はありません。</li> </ul>

4. オプション: キャンセル をクリックして、ページを閉じます。
5. 保存 をクリックします。

ユーザーがローカルアカウントリストに表示されます。これで、ユーザーは管理者コンソールにログインできます。

ユーザーグループにラベルを適用できます。

## LDAPサーバーでのユーザー認証の設定

LDAP認証を使用するには、K2000アプライアンス用のログインアカウントをLDAPサーバーに作成する必要があります。アプライアンスは、このアカウントを使用して、LDAPサーバーからユーザー情報を読み取り、インポートします。このアカウントには、LDAPサーバーのベースDNの検索フィールドに対する読み取り専用のアクセス権が必要です。アプライアンスはLDAPサーバーに書き込みを行わないため、このアカウントに書き込み権限は必要ありません。

ユーザーアカウントをK2000アプライアンスに追加する方法の詳細については、[ローカル管理者アカウントの追加または編集](#)を参照してください。



**注:** LDAPが有効になっているときには、管理者アカウントを除くローカルアカウントはすべて、アクティブでなくなります。

ログイン時に、アプライアンスはリストされた外部サーバーを自動的に照会します。サーバーのタイムアウトは約10秒です。ログイン遅延を短縮するために、サンプルLDAPサーバを削除することをお勧めします。

1. 左側のナビゲーションペインで、設定 をクリックし、次に ユーザー認証 をクリックして 認証設定 を表示します。
2. 外部LDAPサーバー認証 を選択して、新しいサーバーの追加 をクリックします。  
すべてのサーバーが有効なIPアドレスまたはホスト名を所有している必要があります。そのようにしないと、LDAP認証を使用するときにアプライアンスでタイムアウトが発生し、ログインに時間がかかります。
3. 次の情報を入力して、サーバーを追加します。

フィールド	説明
サーバーの分かりやすい名前	サーバーを識別するための名前。
サーバーのホスト名 ( またはIP )	<p>LDAPサーバーのIPアドレスまたはホスト名。IPアドレスが有効でない場合は、タイムアウトするまで待たなければならず、その結果LDAP認証中にログイン遅延が発生します。</p> <p><b>i</b> 注: SSL経由で接続するには、IPアドレスまたはホスト名を使用します。例 : ldaps://hostname。</p> <p>非標準のSSL証明書 ( 社内で署名された証明書やVeriSignのような大手の証明書プロバイダから発行されていないチェーン証明書など ) がLDAPサーバにインストールされている場合、サポートのためにQuest KACEテクニカルサポート ( <a href="https://support.quest.com/contact-support">https://support.quest.com/contact-support</a> ) に問い合わせてください。</p>
LDAPポート番号	LDAPポート番号。通常は、389 ( LDAP ) または636 ( セキュアLDAP ) です。
ベースDNの検索	<p>アプライアンスがユーザーの検索を開始するLDAPツリーの領域。例えば、ITグループを検索する場合、次を指定します。</p> <p>OU=it,DC=company,DC=com。</p>
検索フィルタ	<p>検索フィルタです。例えば、LDAP_attribute=KBOX_USER。ここで、LDAP_attributeは、固有のユーザーIDを含む属性の名前です。KBOX_USERは、実行時にユーザーが入力したログインIDに置き換えられる変数です。例えば、Active Directoryを使用する場合は、samaccountname=KBOX_USERと入力します。その他のLDAPサーバーの場合は通常、UID=KBOX_USERと入力します。</p>
LDAPログイン	<p>K2000がLDAPサーバーにログインして、アカウントを読み取るために必要なアカウントの資格情報です。例 : LDAP Login:CN=service_account,CN=Users,DC=company,DC=comユーザー名を指定していない場合は、匿名のバインドが試みられます。</p>
LDAPパスワード ( 必要に応じて )	<p>K2000がLDAPサーバーにログインするために必要なアカウントのパスワードです。</p>
ユーザー権限	<p>ユーザー権限です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>管理者 : 管理者コンソールに対する読み取り/書き込み権限。</li> <li>読み取り専用管理者 : すべてのページを表示する権限があります。ただし変更権限はありません。</li> </ul>

フィールド	説明
ユーザーパスワードのテスト	LDAPサーバーでテストするためのLDAPユーザー名およびパスワードです。詳細については、 <a href="#">LDAPサーバーのテスト</a> を参照してください。

ベースDNの検索条件と検索フィルタ条件を書き留めます。これと同じ情報を、ユーザーデータをインポートし、ユーザーインポートをスケジュールする際に使用します。

4. 推奨：環境内の実際のサーバーに対して設定されていない各外部サーバーの隣にある削除アイコンをクリックします。
5. 保存 をクリックします。

ユーザーの次回ログイン時に、リストに表示された順序でLDAPサーバーに対してユーザーが認証されます。



注: 管理者アカウントは、同じ名前を持つアカウントが外部LDAPに存在する場合でも、常に内部データベースに対して認証されます。

外部LDAPで認証をテストします。詳細については、[LDAPサーバーのテスト](#)を参照してください。

## LDAPサーバーのテスト

LDAPサーバーが認証を正常に実行できるかどうかを確認するために、有効なユーザー名とパスワードを使用して、LDAPサーバーで認証をテストできます。

1. LDAPプロファイルを選択します。
2. 検索フィルタ で、KBOX\_USER変数を、テストするのに有効なログインIDに置き換えます。構文は、samaccountname=usernameです。
3. LDAPアカウントに対応するパスワードを入力します。
4. 設定のテスト をクリックします。

このテストに成功すれば、テスト対象のユーザーおよび同じLDAPコンテナに属する他のユーザーに対する認証の設定が完了します。

5. 検索フィルタ のユーザー名をシステム変数KBOX\_Userに戻します。

## ユーザーアカウントの削除

ユーザーアカウントは削除できます。

1. 左側のナビゲーションペインで、設定 をクリックしてコントロールパネル を表示し、次に ユーザー をクリックして ユーザー ページを表示します。
2. 1つ以上のアカウントの隣のチェックボックスをオンにします。
3. アクションの選択 > 削除 を選択します。
4. はい をクリックして確定します。

# セキュリティ設定項目の設定

SSHを有効にすることにより、Quest KACEテクニカルサポートチームがリモートサポート用にアプライアンスにアクセスすることを許可できます。他のセキュリティ設定には、リモート管理を可能にするSNMPの有効化および外部プログラムからアプライアンスデータベースを利用できるようにするオフボードデータベースアクセスの有効化があります。オフボードデータベースアクセスはレポート作成に役立ちます。SSLを有効にすることにより、セキュアWebブラウザでK2000アプライアンスを実行できます。

## SNMP監視の有効化

K2000アプライアンスのSNMPエージェントは、アプライアンスのリモート管理を可能にします。

内部SNMPエージェントは標準のUDPポート161を使用します。TRAPおよびINFORM要求を使用して設定することはできません。別のデバイスにマスターSNMPエージェントが設定されている場合、このエージェントは、K2000アプライアンスにGET、GETNEXT、およびGETBULKの要求を送信して、アプライアンスが要求された情報を返せるようにすることができます。

1. 左側のナビゲーションペインで、設定 をクリックして コントロールパネル を表示し、次に セキュリティ をクリックして セキュリティ設定 ページを表示します。
2. SNMP監視を有効にする をクリックして、SNMPコミュニティ文字列 フィールドを表示します。
3. 固有のコミュニティ文字列 ( newStringなど ) を入力します。

コミュニティ名にスペースが含まれる場合は、引用符でコミュニティ名を囲みます。固有の文字列を作成することをお勧めします。デフォルトはpublicです。

4. 保存 をクリックします。

## 既存の証明書を使用してのSSL有効化

デフォルトでは、SSLは無効になっています。既存のSSL証明書、中間証明書、または自己署名証明書を使用して、K2000アプライアンスをセキュアWebブラウザ上で実行できます。既存の証明書を使用するには、SSLプライベートキーを所有している必要があり、さらにポート80が開いている必要があります。



**注:** 有効な証明書を取得していない場合、アプライアンスで証明書署名要求 ( CSR ) を生成し、証明書署名機関に送信することができます。プライベートキーをダウンロードして、安全な場所に保存できます。詳細については、[新しいSSL証明書プライベートキーの生成](#)を参照してください。

1. 左側のナビゲーションペインで、設定 をクリックして コントロールパネル を表示し、次に セキュリティ をクリックして セキュリティ設定 ページを表示します。
2. SSLを有効にする をクリックし、取得済みのSSL証明書を使用する をクリックします。
3. マイ証明書の使用 をクリックします。
4. SSL設定 ( オプション ) で、次の証明書タイプのいずれかを選択します。
  - プライベートキーと証明書 ( 最も一般的 ) 。
  - 中間証明書もある場合の対処
  - PKCS-12 ( .pkcs12、.pfx、.p12 )PKCS-12 SSL形式の証明書のパスワードを入力します。
5. キーまたは証明書を参照し、証明書の適用 をクリックします。

これで、httpsを使用するセキュアWebブラウザを使用できます。

## 新しいSSL証明書プライベートキーの生成

デフォルトでは、SSLは無効になっています。新しい証明書を生成した後で、プライベートキーを生成してSSLを有効にできます。プライベートキーファイルまたはPKCS-12ファイルを所有しており、プライベートキーと証明書が同じ証明書署名要求 (CSR) から生成されている場合、有効な自己署名証明書を使用できます。

アプライアンスによるキー生成を停止する必要があるエラーが発生した場合に備えて、K2000コンポーネントを別の場所にエクスポートし、SSHを有効にします。

1. 左側のナビゲーションペインで、設定 をクリックして コントロールパネル を表示し、次に セキュリティ をクリックして セキュリティ設定 ページを表示します。
2. SSLを有効にする をクリックして、新しい証明書または有効な自己署名SSL証明書を使用します。Quest KACEでは、自己署名証明書の使用をお勧めしていないことに注意してください。
  - 新しいSSL証明書の生成:
    1. 新しいSSL証明書の取得 をクリックして、K2000の高度なSSL設定ウィザードを表示します。
    2. フィールドに値を入力して、CSRを生成します。
    3. プライベートキーをダウンロードして安全な場所に保存し、証明書署名機関から有効な証明書を取得したときにSSLを有効にするために使用します。
    4. 生成したCSRをコピーするかダウンロードして、証明書署名機関に送信します。
  - 自己署名証明書の使用:
    - 自己署名証明書を使用する をクリックして、保存してApacheを再起動 をクリックします。

## SSLの無効化

SSL ( Secure Sockets Layer ) を無効にすることで、アプライアンスが動作しているセキュアWebブラウザを無効にすることができます。

1. 左側のナビゲーションペインで、設定 をクリックして コントロールパネル を表示し、次に セキュリティ をクリックして セキュリティ設定 ページを表示します。
2. 有効化されたポート: 80、443 ( 変更 ) をクリックします。
3. 次のチェックボックスをオフにします。
  - ポート443を有効にする ( HTTPS )
  - ポート80からポート443へ転送する
4. 変更の適用 をクリックします。

これで、HTTPSブラウザは使用できなくなります。

## データベースへのオフボードアクセスの有効化

オフボードデータベースアクセスを有効にすることにより、Crystal ReportsやExcel®などの外部プログラムからK2000データベースを照会して、独自のレポートを作成できます。デフォルトでは、アプライアンスはデータベースへの外部接続を許可しません。

データベースへの外部アクセスのアカウントは次のようになります。ユーザー名: report、パスワード: box747

1. 左側のナビゲーションペインで、設定 をクリックして コントロールパネル を表示し、次に セキュリティ をクリックして セキュリティ設定 ページを表示します。
2. オフボードデータベースアクセスの許可 チェックボックスをオンにします。
3. 保存 をクリックします。

外部プログラムからK2000アプライアンスデータベースを照会できるようにするには、アプライアンスの再起動が必要になる場合があります。

## SSHルートログインの有効化 ( KACEサポート )

SSHを有効にすることで、Quest KACEサポートチームがアプライアンスにリモートアクセスできるようになります。Quest KACEでは、アプライアンスを使用し始める前にSSHを有効にすることをお勧めします。アプライアンスからの応答がなくなった場合、サポートチームにとって、SSHリモートアクセスを使用するほかに問題を診断して解決する手段はありません。

1. 左側のナビゲーションペインで、設定 をクリックして コントロールパネル を表示し、次に セキュリティ をクリックして セキュリティ設定 ページを表示します。
2. SSHルートログインの許可 ( KACEサポート ) チェックボックスをオンにします。
3. 保存 をクリックします。

# 展開の準備

K2000展開は、20 %のディスク領域を必要とします。ブート環境を構築するために必要なツールのダウンロードとインストール、オペレーティングシステムのインストールソースメディアのアップロード、およびアプライアンスでのターゲットデバイスへの接続の有効化を行うことができます。

## 展開環境のセットアップ

ターゲットデバイス間のK2000アプライアンスネットワーク接続をセットアップして、ターゲットデバイスからアプライアンスへのPXEブート要求の送信、K2000ブート環境 (KBE) を構築するのに必要なツールのダウンロード、およびソースメディアとユーザープロファイルのアプライアンスへの読み込みを行うことができます。

1. 管理者用のデバイスをセットアップします。
2. DHCPサーバーを使用して、ターゲットデバイスとK2000アプライアンス間のネットワーク接続を作成し、ターゲットデバイスからアプライアンスにPXEブート要求を送信します。詳細については、[オンボードDHCPサーバーを有効にする](#)を参照してください。
  - a. ネットワーク上に既存のDHCPサーバーが存在しない場合、および閉じられた試験用環境でアプライアンスを使用している場合は、組み込みのK2000 DHCPサーバーを使用します。
  - b. アプライアンスが企業ネットワーク上にある場合は、既存のDHCPサーバーを使用します。
3. メディアマネージャをダウンロードします。詳細については、[K2000メディアマネージャのダウンロードおよびインストール](#)を参照してください。
  - a. メディアマネージャを使用して、K2000ブート環境を作成するために必要なWindows ADKをダウンロードし、インストールします。詳細については、[Windows ADKのダウンロードおよびインストール](#)を参照してください。
  - b. OSソースメディアをメディアマネージャにアップロードします。詳細については、[OSインストールまたはソースファイルのアップロード](#)を参照してください。
4. ユーザープロファイルをデバイスからキャプチャし、アプライアンスにアップロードして、ターゲットデバイスに移行します。詳細については、[アプライアンスからのUSMTソフトウェアのアップロード](#)を参照してください。

デバイスを準備してイメージをキャプチャします。詳細については、[システムイメージのキャプチャ](#)を参照してください。

## オンボードDHCPサーバーを有効にする

DHCPサーバーの存在しないプライベートネットワークまたは小規模な環境でK2000をテストする場合、このオプションをアプライアンスで有効にすることにより、K2000をDHCPサーバーとして動作させることができます。

ネットワーク上にDHCPサーバーは1台だけ存在することと、DHCP要求をアプライアンスに転送するようにルーターを設定していることを確認します。

1. 左側のナビゲーションペインで、[設定](#) をクリックして [コントロールパネル](#) を表示し、次に [ネットワーク設定](#) をクリックして [ネットワーク設定](#) ページを表示します。
2. [オンボードDHCPサーバーを有効にする](#) チェックボックスをオンにします。



DHCPの範囲のフィールドが表示されます。

3. DHCPプール開始 で、範囲内の最下位のIPアドレスを入力します。
4. DHCPプール終了 で、範囲内の最上位のIPアドレスを入力します。
5. 保存 をクリックします。

DHCPが有効になります。

## オフボードDHCPサーバーの設定

デバイスの電源を初めてオンにしたときには、BIOSのブートメニューからNICまたはネットワーク起動オプションを選択できます。Windows展開では、ターゲットデバイスをローカルドライブ以外の場所から起動する必要があります。NICまたはネットワーク起動オプションを選択すると、デバイスはPXE要求をDHCPサーバーに送信して、iPXEサーバーを見つけます。この場合、K2000がPXEサーバーです。オフボードDHCPサーバーを設定してアプライアンスを認識させ、ターゲットデバイスをK2000アプライアンスからUEFIブートすることができます。

手順は、使用しているサーバーによって異なる場合があります。任意のDHCPサーバー上で、066と067のオプションに次の設定を使用します。

Microsoft DHCPを使用しない場合は、追加情報については次のサポート技術情報記事を参照してください。<https://support.quest.com/k2000-systems-deployment-appliance/kb/112037>

1. DHCPサーバー用の設定アプリケーションを開きます。
2. K2000で起動できるようにする必要があるターゲットデバイスが存在する各サブネットまたはスコープに対して次のオプションを設定します。
  - Option 066 にK2000アプライアンスのIPアドレスを設定します。

このオプションは、Next-Server、起動サーバーホスト名、または TFTPサーバー名 として表示されることがあります。

**i** 注: 一部のCiscoネットワーク機器では、Option 66 を設定できない場合があります。代替の設定として、sname オプションと 244 オプションをK2000のIPアドレスに設定できます。
  - Option 067 を次の文字列に設定します。ipxe.efi ( UEFIデバイスの場合 )、およびundionly.kpxe ( BIOSデバイスの場合 )。

このオプションは、起動ファイル名として表示されることもあります。k2000.0文字列を 起動ファイル名 オプションとしてコピーおよび貼り付けます。

**i** 注: 1つのサブネットに1つのPXEサーバーまたはTFTPサーバーのみを設定できます。K2000をテストするサブネット上で他のイメージ処理ツールを無効にします。

これで、PXE準拠のWindowsデバイスが次回にネットワーク接続中に起動した場合、DHCPサーバーによって自動的にアプライアンスに転送されます。デバイスはブートストラップファイルをダウンロードし、環境セットアップを使用して起動します。

## K2000メディアマネージャのダウンロードおよびインストール

K2000メディアマネージャをK2000アプライアンスからWindows ADKがインストールされているデバイスにダウンロードして、インストールできます。K2000メディアマネージャは、Windows ADKを使用してK2000ブート環境 ( KBE ) をアップロードします。

メディアマネージャにはMicrosoft .NET 4.0の完全インストールが必要です。<http://www.microsoft.com/en-us/download/details.aspx?id=17851>から.NET 4.0をダウンロードしてインストールします。

1. 左側のナビゲーションペインで、ライブラリ をクリックして、ライブラリの概要 ページを表示します。
2. ソースメディア で、アクションの選択 > メディアマネージャのダウンロード を選択して メディアマネージャ ページを表示します。
3. Windows用のダウンロード をクリックします。  
ファイルのダウンロード ウィンドウが表示されます。
4. 実行 または 保存 をクリックして、デバイスにインストールファイルをダウンロードし、そのファイルをダブルクリックしてインストールを開始します。  
よろこ ウィンドウが表示されます。
5. スタート > すべてのプログラム > Quest > K2000メディアマネージャ製品 からメディアマネージャを実行します。

K2000ブート環境の構築詳細については、[Windowsブート環境の作成](#)を参照してください。

## Windows ADKのダウンロードおよびインストール

K2000ブート環境を構築するには、Windows 7以上およびWindows Server® 2012デバイス用のWindowsアセスメント&デプロイメントキット ( Windows ADK ) をインストールする必要があります。

ISOマウントソフトウェアまたは空のDVD、および管理者権限を使用できるWindowsデバイスまたはWindowsサーバーが必要です。

1. Windows ADKをダウンロードし、インストールする手順の詳細については、<http://www.microsoft.com/en-us/download/details.aspx?id=30652>を参照してください。
2. インストールする機能を選択します で、リストにある機能をすべて選択します。

Windows ADKをインストール済みのデバイスにK2000メディアマネージャをダウンロードして、インストールします。手順については、[K2000メディアマネージャのダウンロードおよびインストール](#)を参照してください。

## OSインストールまたはソースファイルのアップロード

K2000メディアマネージャを使用して、オペレーティングシステムのソースファイルとインストールファイルをK2000アプライアンスにアップロードできます。

ソースメディアのアップロードには以下が必要です。

- K2000メディアマネージャおよび.NET 4.0
- インストールディスクまたはマウントするISOイメージ



注: ソースファイルのアップロードは数時間かかる場合があります。

1. メディアマネージャがインストールされているデバイスのメディアドライブに、オペレーティングシステムのディスクを挿入します。
2. スタート、すべてのプログラム、Quest、K2000メディアマネージャ製品 の順にクリックして、K2000メディアマネージャを表示します。
3. K2000ホスト名 フィールドに、アプライアンスのホスト名またはIPアドレスを入力します。
4. Samba共有パスワード フィールドに、K2000 Samba共有用に入力するのと同じパスワードを入力します。
5. ソースメディアの名前 に、固有の論理名を入力します。

この名前によりアプライアンス上でイメージが識別されます。この名前を使用して、スクリプト形式のインストールおよびブートアクションにイメージが割り当てられます。

6. ソースメディアタイプ で、オペレーティングシステムの名前を選択します。
7. パスの 参照 をクリックし、イメージの場所を選択します。

メディアをRSAにアップロードしようとする、メディアマネージャに次のエラーが表示されます。「無効な応答です。指定したホスト名を確認してください。」

ホスト名またはIPアドレスが、K2000 ( RSAではない ) のホスト名またはIPアドレスであることを確認してください。

8. アップロードの開始 をクリックします。

プロセスが完了すると、K2000アプライアンスの ソースメディア ページにイメージが表示されます。

## ソースメディア詳細の表示

ファイルサイズやファイルがK2000アプライアンスにアップロードされた日付など、ソースメディアについての情報を表示できます。

1. 左側のナビゲーションペインで、ライブラリ をクリックしてセクションを展開し、次に ソースメディア をクリックして ソースメディア ページを表示します。
2. 名前 で、イメージを選択して、ソースメディア詳細 ページを表示します。



注: イメージの名前を修正し、イメージへの変更を示すメモを追加できます。

3. オプション : キャンセル をクリックして、ページを閉じます。
4. 削除 をクリックして、ソースメディアをアプライアンスから削除します。
5. 保存 をクリックします。

## 展開のタイプの選択

オペレーティングシステムを異なるデバイスモデルに展開できます。また、K2000アプライアンスは、スクリプト形式のインストールの展開用に、リソースライブラリからドライバを取得します。システムイメージの展開を実行するために、デバイスの状態についてドライブ、OSとシステム設定、プログラム、およびファイルなどのすべてをコピーできます。

スクリプト形式のインストールの展開

OS用にISOを使用する場合はスクリプト形式のインストールを使用し、展開用の応答ファイルを作成します。

## システムイメージの展開

デバイスドライブ、OS、システム設定、プログラム、およびファイルなどのすべてを含むデバイスから、イメージをキャプチャします。

### 展開方法

- 自動展開: ブートアクションを使用して、スクリプト形式のインストールとシステムイメージの展開を開始します。ユニキャスト展開とマルチキャスト展開をサポートします。
- 手動展開: ソースメディアから直接展開する場合、USBイメージ展開の場合、およびターゲットデバイスがネットワークに接続していない場合は、手動展開を使用します。



注: いずれの展開方法でも、K2000ブート環境またはNetBoot環境にデバイスが読み込まれて、展開が開始されます。Macデバイスの場合は、[Macデバイスのイメージ作成](#)を参照してください。

# サポートされるイメージのタイプ

Windows 7以上が動作するデバイスからWIMおよびK-Imageを、Windows 8以上が動作するデバイスからUEFIイメージをキャプチャできます。また、Mac OS XデバイスからDMGイメージをキャプチャできます。

## イメージのタイプ

### WIMイメージ

- WIMイメージファイルベースの形式では、情報がセクターではなくファイルとして保管されます。1つのWIMイメージに複数のファイルを追加できます。
- WIMイメージは、高速なOSインストールを実現します。
- マルチキャストWIMイメージ展開では、1つのイメージを同時に複数のデバイスにブロードキャストし、使用するネットワーク帯域幅を削減できます。ただし、ネットワークのルーターがマルチキャストをサポートしている場合に限り、ターゲットデバイスは、イメージ伝送に必要な帯域幅を持つ必要があります。
- 4 GBを超えるイメージをUSBフラッシュデバイスから展開することはできないため、4 GBを超えるUEFI WIMイメージを展開する場合は、ネットワークリソースからプロビジョニングする必要があります。
- WIMイメージの展開はハードウェアに依存しません。

### K-Image

- K-Imageファイルベースの形式では、ファイルがセクターとして保管されます。これにより簡単に編集ができ、さらに重複除外が使用されるため、イメージの再構築が不要になります。
- K-Imageにより、イメージ全体を再送信したり、イメージの再キャプチャや展開を行ったりすることなく、頻繁に変更されるベースイメージを編集することができます。
- K-Imageの展開はハードウェアに依存しません。

### UEFIイメージ

- WIM UEFIイメージとUEFI K-Imageをキャプチャできます。
- 4 GBを超えるイメージをUSBフラッシュデバイスから展開することはできないため、4 GBを超えるUEFI K-Imageの場合は、ネットワークリソースからプロビジョニングする必要があります。
- ターゲットデバイスはUEFI互換である必要があり、UEFIパーティションの作成 プレインストールタスクを使用してUEFIパーティションが作成される必要があります。

# デバイスインベントリの管理

デバイスがK2000ブート環境 ( KBE ) で起動すると、アプライアンスはデバイスをそのMACアドレスで識別し、デバイスインベントリ ページにリストします。アプライアンスは、ネットワーク上には存在するが、そのアプライアンスで起動していないデバイスを ネットワークインベントリ ページにリストします。

デバイスをK2000インベントリに追加する手順について:

- デバイスをコンマ区切り値 ( CSV ) 形式のファイルにリストし、そのファイルのアプライアンスにアップロードできます。
- ネットワークスキャンを実行して、ネットワーク上のデバイスを検出できます。
- Wake On LAN要求を発行して、リモートデバイスの電源をオンにすることができます。
- MACアドレスを入力して、デバイスをブートアクション展開に追加できます。
- デバイスアクションを実行できます。デバイスアクションは、管理対象デバイスで実行できるスクリプト形式のアクションです。
- デバイスを登録解除できます。

## ネットワークスキャンの構成と実行

ネットワークスキャンを設定するか、既存のスキャンを選択して実行することにより、ネットワーク上に存在するデバイスを検出できます。スキャンを実行すると、設定されているIP範囲で検出が行われ、範囲内のアドレスごとに1つのアイテムがアプライアンスの ネットワークインベントリ 内に作成されます。MACアドレスとポートステータスは、アプライアンスと同じサブネット上に存在するデバイスに対してのみ検出できます。

1. 左側のナビゲーションペインで、デバイスをクリックしてセクションを展開し、次に ネットワークスキャン をクリックして ネットワークスキャン ページを表示します。
2. 次のオプションを使用して、ネットワークスキャンを管理します。
  - アクションの選択 > 新規作成 を選択して ネットワークスキャン詳細 ページを表示し、スキャンのIP範囲を設定します。プロセスにより、設定したIP範囲がスキャンされ、範囲内のアドレスごとに1つのアイテムが ネットワークインベントリ 内に作成されます。
  - リストからスキャンを選択し、次に アクションの選択 > 今すぐ実行 を選択します。
3. 保存 をクリックします。

## ネットワークインベントリのアプライアンスへの追加

デバイスをコンマ区切り値 ( CSV ) 形式のファイルにリストし、そのCSVファイルのアプライアンスにアップロードすることにより、デバイスをアプライアンスに追加できます。アプライアンスはファイルにリストされているデバイスを、IPアドレス、MACアドレス、およびホスト名の順序で識別します。

CSVファイルの各行で、IPアドレス、MACアドレス(コロン付き)、およびホスト名(オプション)をコンマ区切り形式で指定する必要があります。例: 192.168.2.44,00:22:5f:51:eb:df,K2000。

1. 左側のナビゲーションペインで、デバイス をクリックし、次に ネットワークインベントリ をクリックして、ネットワークスキャンインベントリ ページを表示します。
2. アクションの選択 > アップロード を選択して、ネットワークインベントリのアップロード ページを表示します。
3. 参照 をクリックし、CSVファイルを選択します。
4. インベントリのアップロード をクリックして、ネットワークスキャンインベントリ ページでデバイスのリストを表示します。

アクションの選択 > Wake On LANの送信 を選択して、デバイスの電源をオンにし、その後ブートアクションを作成します。詳細については、[ブートアクションの作成](#)を参照してください。

## ネットワーク上のアクティブデバイスと非アクティブデバイスのスキャン

ネットワークスキャンの実行時に、デバイスがアクティブであるかないかに関係なくすべてのIPアドレスのリストをスキャンが表示するかどうかを指定できます。

1. 左側のナビゲーションペインで、設定 をクリックして コントロールパネル を表示し、次に 一般設定 をクリックして 一般設定 ページを表示します。
2. ネットワークスキャンの インベントリ内の空のスキャン結果の表示 チェックボックスをオンにして、デバイスがアクティブであるかないかに関係なく、指定した範囲内のすべてのIPアドレスについてレコードを作成して表示します。インベントリ内の空のスキャン結果の表示 チェックボックスをオンにしない場合、ネットワークスキャンは、そのIPアドレスが存在する範囲内で接続中のもののみを表示します。

## デバイスの手動追加

ブートアクションを作成または修正した場合、デバイスのMACアドレスを入力することにより、デバイスをシステムイメージおよびスクリプト形式のインストールの展開に追加できます。デバイスは、展開が開始されたときに、K2000インベントリに追加されます。

1. 左側のナビゲーションペインで、展開 をクリックして、自動展開 ページを表示します。
2. デバイスの追加先となる展開の名前を選択して、自動展開の詳細 ページを表示します。
3. オプション > スケジュール で、次のいずれかを選択して展開を実行します。
  - a. 次のブートで実行する: 次のネットワーク起動で展開を開始します。
  - b. 後で実行するようにスケジュールする: 日付と時刻を指定します。一度実行: 毎(日)、特定時刻に実行: H(時)、M(分)。繰り返し実行する を選択すると、指定した時間に展開が毎日実行されます。
4. 展開のタイプ を選択します。

マルチキャスト展開の場合は、デフォルトマルチキャスト設定の編集 をクリックして、この展開のマルチキャスト設定を変更します。すべてのマルチキャスト展開の設定を変更するには、[デフォルトマルチキャスト設定の編集](#)を参照してください。
5. デバイス で、1つ以上のMACアドレスをクリックまたは入力して、インベントリに存在しないデバイスを追加し、次へ をクリックします。複数のMACアドレスの貼り付け を選択して複数のアドレスを追加したり、すべて表示 ドロップダウンリストからタイプ別にデバイスを追加したりすることもできます。
6. 保存 をクリックします。

# 特定のターゲットデバイスモデルのアップロード

K2000ブート環境のメインメニューを使用して、特定のターゲットデバイスモデル用のドライバをアップロードできます。

1. ターゲットデバイスをK2000ブート環境でネットワーク起動して、起動マネージャ を表示します。
2. デバイスのハードウェアをサポートするKBEのアーキテクチャを選択して、KBEのメインメニュー を表示します。
3. KBEのメインメニューで、ハードウェアインベントリ をクリックします。
4. インベントリの収集とK2000へのアップロード をクリックします。

ハードウェア互換性レポートを実行して、デバイスが必要とするネットワークドライバを確認できます。詳細については、[ドライバの互換性詳細の表示](#)を参照してください。

## ドメインへのデバイスの参加

デバイスを設定し、名前を割り当てた後、ビルトインの例: ドメインへの参加 ポストインストールタスクを使用して、デバイスをドメインに参加させることができます。

次のコマンドラインパラメータを使用して、スクリプトをカスタマイズできます。my\_domain、admin\_user、admin\_password、およびprimary\_dns\_IP。



注: ビルトインの例: ドメインへの参加 ポストインストールアプリケーションタスクでは、join\_domain.vbs Visual Basicスクリプトが使用されます。join\_domain.vbsスクリプトは、Windows 7以上のバージョンを実行しているデバイスを参加させます。詳細については、<https://support.quest.com/kb/article/How-to-rename-a-computer-and-join-it-to-a-Windows-domain-Image-Deployment>を参照してください。

ドメインに参加させるためのコマンドラインパラメータ

パラメータ	説明
my domain	スクリプトがデバイスを参加させる先のドメイン名。
admin user	デバイスをドメインに参加させる権限を持つドメイン管理者のUID。
admin password	ドメイン管理者のアカウントのパスワード。
primary dns IP	オプション: プライマリDNSサーバーのIPアドレス。

1. ファイルで、置換 をクリックして、別のスクリプトをアップロードします。
2. 左側のナビゲーションペインで、ライブラリ をクリックしてセクションを展開し、次に ポストインストールタスク をクリックして ポストインストールタスク ページを表示します。
3. 例: ドメインへの参加 をクリックします。  
ポストインストールタスク詳細 ページが表示されます。
4. ページの一番下で 複製 をクリックします。

例: ドメインへの参加のコピー という名前の新しいタスクが作成されます。

5. 名前に、タスクの論理名 ( Join MyCompany Domain など ) を入力します。
6. コマンドライン で、my\_domain、admin\_user、および admin\_password を変更します。
7. アプライアンスを再起動してシーケンス内の次のタスクを実行するには、再起動が必要です のチェックボックスを選択します。
8. 保存 をクリックします。

これで、スクリプト形式のインストールまたは Sysprep を実行済みのシステムイメージの展開に、タスクを割り当てることができるようになりました。

## Wake On LAN 要求の発行

Wake On LAN を使用すると、K2000 アプライアンスからリモートにあるデバイスの電源をオンにすることができます。ネットワークに接続しているがアプライアンスで起動していないデバイスおよびアプライアンスで起動しているデバイスの電源をオンにすることができます。これは、デバイスに、Wake On LAN 対応のネットワークインターフェイスカード ( NIC ) と BIOS が装備されている場合に限りです。

デバイスは、ラベル内のグループ単位で、または個別に電源をオンにすることができます。詳細については、[ラベルの作成および適用](#) を参照してください。

1. 左側のナビゲーションペインで、デバイス > デバイスインベントリ を選択してアプライアンスで起動しているデバイスの電源をオンにするか、または ネットワークインベントリ を選択してアプライアンスで起動していないデバイスの電源をオンにします。
2. 電源をオンにするデバイスを選択します。
3. アクションの選択 > Wake On LAN の送信 を選択します。

デバイスの電源がオンになったら、左側のナビゲーションペインに移動し、展開 をクリックしてブートアクションを作成し、展開を今すぐ実行するか、展開を後で実行するようにスケジュールできます。

## K1000 インベントリ内のデバイスへの展開

K2000 アプライアンスが 1 台以上の K1000 シリーズ管理アプライアンス ( v5.4 以上 ) にリンクされている場合、K1000 インベントリ ページにリストされているデバイスに OS を展開できます。

1. 左側のナビゲーションペインで、デバイスをクリックし、次に K1000 インベントリ をクリックして、イメージを展開するデバイスを選択します。
2. アクションの選択 > 新しいブートアクション を選択します。
3. ブートアクションを作成します。詳細については、[ブートアクションの作成](#) を参照してください。

## ネットワークスキャンからのデバイスの詳細の表示

アプライアンスがデバイスに到達できたかどうかの情報、デバイスがアプライアンスからのネットワーク起動を要求したかどうかの情報、TCP と UDP ポートのステータス、および使用可能なドライバとデバイスが要求するドライバの対比を表示できます。

1. 左側のナビゲーションペインで、デバイスをクリックし、次に ネットワークインベントリ をクリックして、ネットワークスキャンインベントリ ページを表示します。
2. デバイスを選択して、次の詳細を表示します。



オプション	説明
pingステータス	アプライアンスがこのデバイスに到達できたかどうかを示します。
PXEステータス	このデバイス (MACアドレスにより識別) がアプライアンスにネットワーク起動を要求したことがあるかどうかを示します。
TCPポートステータス	このデバイスを含む前回のネットワークスキャン時にスキャンされたTCPポートの状態を示します。 開いています ステータスは、デバイス上で動作するネットワークサーバへの接続をアプライアンスが開始できたことを示します。
UDPポートステータス	このデバイスを含む前回のネットワークスキャンによってスキャンされたUDPポートの状態を示します。  <div style="border-left: 1px solid black; padding-left: 10px;"> <p><b>i</b> 注: 開いています/フィルタリングされていませ 状態は、アプライアンスがデバイスから「ポートが閉じた」というメッセージを受信せず、ステータスを決定できないことを示します。ほとんどのファイアウォールソフトウェアは、デバイスからの「ポートが閉じた」ことを知らせるメッセージを送信しません。したがって、結果が正しくないように見える場合があります。</p> </div>
ドライバ互換性レポート	スクリプト形式のインストールで使用可能なドライバとデバイスが要求するドライバの対比をリストします。

## K1000エージェントへのKUIDの適用

ターゲットデバイスの固有の識別子 (KUID) を維持することにより、複数のデバイスが同じKUID番号でアプライアンスにチェックインするのを防ぐことができます。KUIDを維持するためのビルトインのKUIDをK1000エージェントに適用ポストインストールタスクを使用できます。KUIDは、ターゲットデバイスにインストールされているK1000エージェントを識別します。ビルトインのKUIDをK1000エージェントに適用ポストインストールタスクのスクリプトを変更することもできます。

Windowsシステムの場合、K2000アプライアンスはシステムのKUIDを取得し一時的に保存してから、展開後にワークステーションにコピーします。

Macシステムの場合、K2000アプライアンスにはこのプロセスを実装するために使用できるスクリプトがいくつか含まれています。詳細については、<http://www.itninja.com/blog/view/maintain-kuid-of-a-macintosh-system-using-the-k200>を参照してください。

1. 左側のナビゲーションペインで、ライブラリ をクリックしてセクションを展開し、次に ポストインストールタスク をクリックして ポストインストールタスク ページを表示します。
2. KUIDをK1000エージェントに適用 をクリックして ポストインストールタスク詳細 ページを表示します。
3. 名前に、タスクを識別するための論理名を入力します。
4. 実行時環境を選択します。詳細については、[実行時環境について](#)を参照してください。
5. ファイル で、置換 をクリックして、別のスクリプトをアップロードします。

アップロードファイルは1つのファイルでも、複数のファイルが含まれるZIPアーカイブでも構いません。ZIPアーカイブは、展開の開始前にアプライアンス上で解凍されます。

6. ファイルのアップロードの隣にある **参照** をクリックして、該当するファイルを選択します。
7. アプライアンスを再起動してシーケンス内の次のタスクを実行するには、再起動が必要ですので **チェックボックス** を選択します。

システムイメージの展開へのタスクの割り当てまたはスクリプト形式のインストール展開へのタスクの割り当てを参照してください。

## コンピューター名の収集

プレインストールタスクを追加して、ターゲットデバイスの名前を収集できます。

1. 左側のナビゲーションペインで、**展開** をクリックし、次に **システムイメージ** をクリックして、**システムイメージ ページ** を表示します。
2. タスクの追加先となるイメージを選択します。  
システムイメージ詳細 ページが表示されます。
3. **インストールプラン > 使用可能なプレインストールタスク** で、**コンピューター名の収集** タスクを **実行するプレインストールタスク** 列に移動します。
4. **保存** をクリックします。

## コンピューター名の適用

コンピューター名の適用 **ポストインストールタスク** を展開に割り当てることができます。

1. 左側のナビゲーションペインで、**展開** をクリックし、次に **システムイメージ** をクリックして、**システムイメージ ページ** を表示します。
2. タスクの追加先となるイメージを選択します。  
システムイメージ詳細 ページが表示されます。
3. **インストールプラン > 使用可能なポストインストールタスク** で、**コンピューター名の適用** タスクを **実行するポストインストールタスク** 列に移動します。
4. **保存** をクリックします。

## デバイスインベントリからのデバイスの削除

デバイスを **デバイスインベントリ** から削除できます。デバイスインベントリには、K2000で起動されたすべてのデバイスが一覧表示されます。

1. 左側のナビゲーションペインで、**デバイス** をクリックして、**デバイスインベントリ ページ** を表示します。
2. 削除するデバイスを選択します。
3. **アクションの選択 > 削除** を選択し、**はい** をクリックして確定します。

# ネットワークインベントリからのデバイスの削除

デバイスをネットワークインベントリから削除できます。ネットワークインベントリには、ネットワークスキャン時に検出されたデバイス、KBEで起動しているデバイス、インベントリファイルからアップロードされたデバイス、およびMACアドレスを使用して追加されたデバイスを含む、すべての既知のデバイスが一覧表示されます。

KBEで起動しているデバイスをネットワークインベントリから削除すると、対応するデバイスインベントリデバイスも削除されます。MACアドレスをネットワークインベントリから削除すると、レコードがデバイスインベントリから削除され、対応するすべてのブートアクションも削除されます。

1. 左側のナビゲーションペインで、デバイスをクリックし、次にネットワークインベントリをクリックして、ネットワークスキャンインベントリページを表示します。
2. 削除するデバイスを選択します。
3. アクションの選択 > 削除を選択し、はいをクリックして確定します。

## デバイスの登録解除

デバイスをデバイスインベントリから削除することにより、デバイスを登録解除し、ライセンスされたシートを解放できます。デバイスをデバイスインベントリから削除すると、ネットワークインベントリの対応するデバイスも削除されます。ただし、ネットワークインベントリのデバイスがKBEで起動している場合に限り、MACアドレスをネットワークスキャンから削除すると、レコードがデバイスインベントリから削除され、対応するすべてのブートアクションも削除されます。

1. 左側のナビゲーションペインで、デバイスをクリックし、次にデバイスインベントリをクリックして、登録解除するデバイスを選択します。
2. アクションの選択 > 削除を選択し、はいをクリックして確定します。

## デバイスアクションアイコンについて

アプライアンスは、デバイスアクションアイコンを提供します。これらのアクションは、管理対象デバイスで実行できるスクリプト形式のアクションです。事前にプログラムされた複数のアクションがあります。デバイスアクションを実行するには、管理者コンソールをインターネットブラウザで開く必要があります。

Internet Explorer®では、これらのプログラムをローカルデバイスで起動するためにActiveXが必要です。他のブラウザではActiveXがサポートされていません。TelnetまたはVNC-Javaリモートコントロールは、Safari®やFirefox®などの他のブラウザで動作します。

デバイスアクションアイコン

リモートアクセスプログラム	ホストの要件	クライアントの要件	説明
SecureCRT	crt.exe	SSHクライアント	デフォルトでSSHをポート8443で使用してデバイスに接続します。

リモートアクセスプログラム	ホストの要件	クライアントの要件	説明
DameWare® Mini Remote Control	dwrcc.exe	DMRCクライアント	初めて接続が開いたときにデバイスにインストールされます。
Explorer	explorer.exe	Windows/SMB共有	デバイスの共有ディレクトリを表示します。スタートアップファイルのフルパスが必要です。
Microsoft Remote Desktop	mstsc.exe	リモートデスクトップ	デバイスでリモートデスクトップセッションを開始します。Windowsデバイスのみをサポートします。
ping	ping.exe	なし	デバイスがオンラインのときに接続要求を処理します。
PuTTY	putty.exe	なし	ブラウザのホストからターゲットデバイスへのSSH接続を開始します。
Telnet	telnet.exe	なし	ブラウザのホストからターゲットデバイスへのセッションを開始します。
TightVNC	vncviewer.exe	なし	ブラウザのホストからターゲットデバイスへのセッションを開始します。
VNC-Javaリモートコントロール	なし	VNC Javaクライアント	ブラウザホストから、KBEでネットワーク起動しているターゲットデバイスにセッションを開きます。Java仮想マシン ( JVM ) が必要です。

## デバイスでのアクションの実行

リモートからデバイス上で実行できるスクリプト形式のコマンドであるデバイスアクションを実行できます。リモートデバイスでデバイスアクションを実行するには、そのプログラムがデバイスにインストールされている必要があります。

1. 左側のナビゲーションペインで、設定 をクリックして コントロールパネル を表示し、次に 一般設定 をクリックして 一般設定 ページを表示します。
2. プログラムを アイコン: アクション: ドロップダウンリスト ( 1の隣 ) から選択するか、独自のアクションを追加します。
3. 独自のアクションを入力し、アイコン: デバイスアクション ( 2の隣 ) で、次のように入力します。

executable\_nameK2000\_host\_name | K2000\_host\_IP

K2000\_host\_nameとK2000\_host\_IPは、アプライアンスのホスト名とIPアドレスです。一部のプログラムでは、プロトコル、ポート、またはURLが必要になります。例えば、Internet Explorerでは、ネットワークアドレスを表すために、先頭にスラッシュが必要です (例: \\K2000\_host\_name)。

executable\_nameはブラウザホストでのプログラムスタートアップファイルのフルパスであり、アプライアンスのActiveXコンポーネントがセッションを開始するために実行するコマンドラインパラメータを含みます。セッションを開始するには、ブラウザホストおよびターゲットデバイスにソフトウェアが存在する必要があります。

**i** 注: 静的なホスト名またはIPアドレスを指定した場合、アイコンをクリックすると指定アドレスのセッションのみが開始されます。

4. 保存 をクリックします。

デバイスインベントリ ページのデバイスのホスト名またはIPアドレスの隣に、デバイスアクションアイコンがアプライアンスにより表示されます。

## VNCセッション経由でのリモートデバイスへのアクセス

事前にプログラムされたVNC-Javaリモートコントロールデバイスアクションを使用することにより、リモートデバイスにアクセスできます。

VNCプログラムを、アイコン: アクション: ドロップダウンリスト (一般設定 ページ) から選択している必要があります。詳細については、[デバイスでのアクションの実行](#)を参照してください。

1. ターゲットデバイスをK2000ブート環境で起動します。
2. KACEシステム展開アプライアンス管理者コンソールにログインします。
3. 左側のナビゲーションペインで、デバイスをクリックして、デバイスインベントリ ページを表示します。
4. メニューバーの ホスト/IPアドレス で、デバイスアクションをクリックします。

新たにブラウザが起動され、デバイスのホスト名またはIPアドレスが表示されます。デバイスが使用可能な場合は、パスワードのプロンプトが表示されます。

5. 正しいVNCパスワードを入力し、OK をクリックします。

VNCパスワードは変更できます。詳細については、[VNC®パスワードの設定](#)を参照してください。

ターゲットデバイスに起動マネージャが表示されます。展開とデバイスのトラブルシューティングを行うことができます。

# ラベルの使用

ラベルを使用すると、K2000コンポーネントを整理できます。ラベルは、新しいデバイスのグループ化と、展開タイプ、ユーザー、ユーザープロファイルテンプレート、およびユーザープロファイルとデータによるデバイスのグループ化を行うのに役立ちます。同じラベルを複数のコンポーネントに適用できます。

## ラベルの作成および適用

ユーザー、デバイス、スクリプト形式のインストール、システムイメージ、ユーザープロファイル、またはUSMTスキャンテンプレートに対して、環境固有の基準に基づいてラベルを手動で適用できます。

1. 左側のナビゲーションペインで、設定 をクリックして コントロールパネル を表示し、次に ラベル をクリックして ラベル ページを表示します。
2. アクションの選択 > 新規作成 を選択して、ラベル詳細 ページを表示します。
3. 名前をラベルに割り当てて、ラベルを識別するメモを追加します。

既存のラベルの名前を修正した場合は、そのラベルが適用されているすべてのコンポーネントについて、アプライアンスによってラベルが自動的に更新されます。

4. 保存 をクリックします。
5. ラベルを適用するコンポーネントのページに移動します。
6. ラベルを適用するコンポーネントの隣のチェックボックスをオンにします。
7. アクションの選択 > ラベルの適用 を選択して、ラベルの適用 ページを表示します。
8. 適用する1つ以上のラベルを選択してこれらのラベルを適用 セクションにドラッグし、ラベルの適用 をクリックします。

ラベル名がコンポーネントの隣に表示されます。

特定基準で表示 ドロップダウンリストからラベルを選択して、コンポーネントをフィルタリングできます。

## ラベルからのコンポーネントの削除

ラベルから、ユーザー、デバイス、スクリプト形式のインストール、システムイメージ、ユーザープロファイル、およびUSMTスキャンテンプレートを削除できます。

1. コンポーネントのページに移動し、ラベルから削除するコンポーネントを選択します。例えば、ラベルからデバイスを削除する場合は、次の手順を実行します。
  - a. 左側のナビゲーションペインで、デバイスをクリックして デバイスインベントリ ページを表示し、ラベルが適用されているデバイスを表示します。
  - b. ラベルから削除するデバイスを選択します。
2. アクションの選択 > ラベルの除去 を選択して ラベルの除去 ウィンドウを表示します。次にラベルを選択して、ラベルの除去 をクリックします。

## アプライアンスからのラベルの削除

ラベルをアプライアンスから削除すると、そのラベルが割り当てられていたすべてのコンポーネントが自動的に削除されます。

1. 左側のナビゲーションペインで、設定 をクリックして コントロールパネル を表示し、次に ラベル をクリックして ラベル ページを表示します。
2. 削除するラベルの隣にあるチェックボックスをオンにします。
3. アクションの選択 > 削除 を選択し、はい をクリックして確定します。

また、ラベル詳細 ページからラベルを削除することもできます。

## ラベルに割り当てられているコンポーネントの表示

ラベルに割り当てられているコンポーネントを表示できます。

1. ラベルを表示するコンポーネントのページに移動します。
2. 特定基準で表示 > ラベル を選択し、グループの下のラベル名をクリックします。

そのラベルに割り当てられているコンポーネントがリストに表示されます。

# Windowsブート環境を作成する

Windows 7以上およびWindows Server 2012のデバイスについて、K2000メディアマネージャとWindowsアセスメント&デプロイメントキット (Windows ADK) を使用して、K2000ブート環境 (KBE) を作成できます。

Windows ADKとK2000メディアマネージャを、K2000アプライアンスがインストールされている管理者デバイスにインストールします。Windows ADKは、KBEがターゲットデバイスを起動するために必要なネットワークカード用のドライバを提供します。ターゲットデバイスはK2000アプライアンスと同じネットワーク上に存在する必要があります。

KBEを別の場所からインポートできます。これを行うには、別のK2000アプライアンスからKBEをエクスポートし、K2000のrestoreディレクトリに、エクスポートした.pkgファイルを保存します。詳細については、[アプライアンスコンポーネントのインポート](#)を参照してください。



注: Windows用のKBEには、ほとんどのスクリプトに対応するフォント (ラテン文字、ギリシャ文字、キリル文字など) が含まれています。KBEを構築した後にアジア系フォントを追加する場合、アプライアンスではKBEの再構築が必要になります。KBEの埋め込み型フォントサポートは、デフォルトで無効になっています。言語 ページの言語オプションを使用して、フォントサポートを有効にすることができます。

## Windowsブート環境の作成

K2000メディアマネージャを使用して起動デバイスにK2000ブート環境 (KBE) またはNetBoot環境を作成し、イメージのキャプチャとオペレーティングシステムの展開が行えます。

K2000メディアマネージャをダウンロードして、インストールします。詳細については、[K2000メディアマネージャのダウンロードおよびインストール](#)を参照してください。

1. スタート > すべてのプログラム > Quest > K2000メディアマネージャ製品 からメディアマネージャを実行します。
2. 言語 ドロップダウンリストで、地域の言語を設定します。
3. K2000ホスト名 フィールドに、K2000アプライアンスのIPアドレスまたはホスト名を入力します。
4. K2000 Samba共有パスワード に、パスワードを入力します。このパスワードは、一般設定 ページのK2000 Samba共有パスワード に入力したパスワードと一致する必要があります。



注: 共有パスワードを変更する場合は、新しいパスワードを使用してKBEを作成します。

5. K2000ブート環境の作成 をクリックします。
6. 名前 に、アプライアンスでKBEを識別する固有の文字列を入力します。  
プロセスは、まずKBEを構築し、その後アップロードプロセス中にKBEの名前が固有であることを検証します。同じ名前のKBEが既にある場合、そのプロセスは失敗します。
7. アーキテクチャ で、起動するKBEアーキテクチャを選択します (例: x64またはx86)。
8. Windows ADK 8.1 Updateのパスが正しいことを確認します。
  - WinPE 4 Win8 x86 ADK C:\Program Files\Windows Kits\8.1
  - WinPE 4 Win8 x64 ADK C:\Program Files(x86)\Windows Kits\8.1

Windows ADKを別の場所にインストールした場合は、正しいパスを参照して、選択します。

9. アップロードを開始する前に、ターゲットデバイスをKBEで起動するために必要なWinPE関連のドライバを更新します。詳細については、[ドライバの更新](#)を参照してください。
10. アップロードの開始 をクリックします。



新しいKBEが ブート環境 ページと ソースメディア ページに表示されます。  
新しいデフォルトのKBEを設定します。

## 既存のソースメディアからのブート環境の作成

既存のソースメディアを新しいブート環境のベースとして使用して、ブート環境をISOまたはUSBフラッシュメディアにダウンロードできます。

1. 左側のナビゲーションペインで、展開 をクリックし、次に ブート環境 をクリックして、ブート環境 ページを表示します。
2. アクションの選択 > 新規作成 を選択します。次に、ブート環境の固有の名前を入力し、構築するブート環境のソースメディアを選択します。
3. 次へ をクリックします。
4. ブート環境をソースメディアから正常にコピーしたら、終了 をクリックします。

ブートアクションまたは別のブート環境を作成し、作成済みのブート環境の詳細を表示できます。

ブート環境をソースメディアからコピーしても、ドライバは追加されません。ドライバを更新するには、ドライバの管理 ページからKBEフォルダを再キャッシュします。例えば、K2000ブート環境の再キャッシュ ( Windows x86 ) を実行すると、kbe\_windows\_x86フォルダのドライバが更新されます。

## ドライバの更新

K2000ブート環境 ( KBE ) を構築するのに必要な、Windowsのプレインストール環境 ( WinPE ) に関連するドライバを更新し、それらのドライバをアプライアンスの該当するkbe\_windows\_x64共有ディレクトリまたはkbe\_windows\_x86共有ディレクトリに追加できます。

1. ドライバをダウンロードする方法については、<https://support.quest.com/kb/111717>を参照してください。サポート用の資格情報を使用してログインし、KBEドライバパック を選択します。
2. k2000/driver\_packsフォルダに移動し、適切なWinPEドライバパックをダウンロードします。
3. 次のディレクトリのいずれかにドライバを手動でコピーします。
  - `\\<K2 IP>\drivers\kbe_windows_x86`
  - `\\<K2 IP>\drivers\kbe_windows_x64`
4. ドライバを再キャッシュします。詳細については、[ドライバの再キャッシュ](#)を参照してください。

新しいデフォルトのKBEを設定します。

## 新しいデフォルトのKBEの設定

K2000ブート環境 ( KBE ) を構築する際に、そのKBEをデフォルトのKBEとして設定できます。

共有パスワードを変更する場合は、新しいパスワードを使用して新しいKBEを作成します。

1. 左側のナビゲーションペインで、設定 をクリックして コントロールパネル を表示し、次に 一般設定 をクリックして 一般設定 ページを表示します。
2. デフォルトK2000ブート環境 の下で、新しいKBEを選択します。
3. 保存 をクリックします。

# ドライバの管理

K2000ブート環境を構築するのに必要なネットワークドライバと大容量ストレージドライバをdrivers共有ディレクトリで管理できます。ドライバフィードを有効にすることにより、オペレーティングシステムが必要とするドライバを管理できます。ドライバフィードは、Dellドライバをdriver\_postinstallディレクトリにダウンロードしてインストールします。

## ネットワークドライバの管理

ドライバをdrivers共有ディレクトリに手動でダウンロードできます。このディレクトリは、サブディレクトリにまとめられます。driversディレクトリにはすべてのタイプのドライバを格納できますが、Quest KACEは、ネットワークドライバだけをこのディレクトリに格納することをお勧めします。

drivers共有ディレクトリには、2つのブート環境フォルダと、サポート対象のオペレーティングシステムごとに1つのフォルダがあります。KBEおよびオペレーティングシステムタイプは、それぞれ独自のドライババージョンを必要とします。

drivers共有ディレクトリは、次のディレクトリ構造を持ちます。

- kbe\_windows\_x32
- kbe\_windows\_x64

KBEフォルダの下にサブディレクトリを作成して、新しく追加したドライバをまとめることができます。

ドライバを追加するためのベストプラクティス

- デバイスのブランド名を使用してフォルダに名前を割り当て、次にドライバの名前を使用してサブフォルダを作成してドライバファイルを追加します。
- ドライバへのパスは、ドライバ名を含めて255文字を超えることはできません。また、ディレクトリとドライバの名前に特殊文字は使用できません。
- アプライアンスは、.exeファイルまたは.msiファイルをインストールしません。ファイルを抽出し、その後、ドライバをフォルダに追加します。
- Windows 7、Windows 8、Windows 8.1、およびWindows 10のドライバを同じKBEフォルダにまとめないでください。1つのプラットフォームタイプのドライバのみを1つのフォルダに追加できます。Windows 8.1用のドライバを使用するWinPE 5.0のドライバは、Windows 8.0用のドライバを使用するWinPE 4.0のフォルダに追加できません。

**i** 注: Windows ADK 8.0はWinPE 4.0をサポートします。Windows ADK 8.1はWinPE 5.0をサポートします。Windows ADK 10はWinPE 10.0をサポートします。

- 追加したドライバを再キャッシュし、メディアマネージャを使用して新しいKBEを構築します。メディアマネージャは、デバイスにインストールされているWindows ADKを使用してKBEを再構築し、自動的にドライバをKBEフォルダに追加します。
- すでに存在する名前を使用してKBEに名前を割り当てないでください。メディアマネージャは既存のKBEを上書きできません。

# ネットワークドライバとストレージドライバのダウンロード

Quest KACEサポートサイトにアクセスして、K2000ブート環境 ( KBE ) を構築するのに必要なネットワークドライバと大容量ストレージドライバをダウンロードできます。

1. drivers共有ディレクトリに現在格納されているすべてのドライバを別の場所に移動します。

**i** 注: WinPE KBEをあるバージョンから別のバージョンに切り替える場合、ドライバが類似していることで、ドライバフィードによりダウンロードされたすべてのドライバを削除します。展開速度が低下するのを防ぐために、環境に存在しなくなっているデバイス用のドライバを削除します。

2. ドライバの追加、再キャッシュ、および新しいKBEの構築の手順については、<https://support.quest.com/k2000-systems-deployment-appliance/kb/111717>を参照してください。

抽出プロセスでは、KBE\_driver\_packディレクトリと、その下にkbe\_windows\_x86ディレクトリとkbe\_windows\_x64ディレクトリが作成されます。kbe\_windows\_x86ディレクトリとkbe\_windows\_x64ディレクトリには、それぞれdell-winpe-a0xディレクトリとkaceディレクトリが作成されます。

3. K2000アプライアンスのdrivers共有ディレクトリには、UNCパス\\<k2000>\driversを使用してアクセスします。ここで、<k2000>は、K2000のIPアドレスまたはDNS名です。
4. KBE\_driver\_pack/kbe\_windows\_x86ディレクトリのコンテンツをアプライアンスの対応するkbe\_windows\_x86ディレクトリにコピーします。また、KBE\_driver\_pack/kbe\_windows\_x64ディレクトリのコンテンツをアプライアンスの対応するkbe\_windows\_x64ディレクトリにコピーします。
5. ドライバタイプ ( 例えば、.inf、.sys、および.cat ) のディレクトリ構造を作成します。

.infファイルがドライバを読み込むために必要な従属ファイルがある場合があります。または、ドライバパッケージにないドライバを追加することができます。Quest KACEでは、すべてのファイルを.infファイル、.sysファイル、および.catファイルと同じディレクトリに配置することをお勧めします。

Windowsからのコマンドラインタスクが完了したら、KACEシステム展開アプライアンス管理者コンソールにログインして、ドライバを追加したドライバディレクトリを再キャッシュすることができます。

6. 左側のナビゲーションペインで、ライブラリ をクリックしてセクションを展開し、次に ドライバ をクリックして ドライバ ページを表示します。
7. アクションの選択 > ドライバの追加 を選択して、ドライバを追加したディレクトリを再キャッシュします。

ドライバの再キャッシュでは、drivers共有ディレクトリだけがスキャンされます。drivers\_postinstallディレクトリを再キャッシュする必要はありません。

K2000メディアマネージャとWindows ADKの最新バージョンを使用して、Windows 7以上用のWinPE KBEを構築します。新しいKBEには、新しいドライバが含まれます。

## ドライバパッケージのインポート

ドライバを別のデバイスにインポートしたり、K2000アプライアンス間で共有したりできます。K2000は、restoreディレクトリで、拡張子.pkgでエクスポートされ保存されたドライバパッケージを一覧表示します。

ドライバのエクスポートの詳細については、[ドライバのエクスポート](#)を参照してください。

1. 左側のナビゲーションペインで、設定 をクリックしてセクションを展開し、次に パッケージ管理 をクリックして パッケージ管理 ページを表示します。
2. K2000パッケージのインポート をクリックして インポートリスト ページを表示します。このページには、restore共有ディレクトリのすべてのパッケージがリストされます。
3. インポートするパッケージを選択します。
4. アクションの選択 > 選択内容をインポート を選択します。

ドライバがネットワークドライバまたはストレージドライバの場合は、ドライバを再キャッシュします。詳細については、[ドライバの再キャッシュ](#)を参照してください。

## デバイスの互換性の表示

有人のスクリプト形式のインストールの場合は、ビルトインの **デバイスの互換性の表示** プレインストールタスクを追加できます。このタスクでは、オペレーティングシステムの展開先であるデバイスのハードウェア用のすべてのドライバが、スクリプト形式のインストールを実行する前にK2000アプライアンスに存在するかどうかを確認できます。ドライバが不足している場合、ドライバのないハードウェアのリストが表示され、スクリプト形式のインストールは停止します。

1. 左側のナビゲーションペインで、**展開** をクリックし、次に **スクリプト形式のインストール** をクリックして、スクリプト形式のインストール ページを表示します。
2. 該当するスクリプト形式のインストールを選択し、スクリプト形式のインストール詳細 ページを表示します。
3. **インストールプラン** で、**デバイスの互換性の表示** タスクを 実行するプレインストールタスク 列に追加します。次に、**ハードウェアインベントリ**をアップロードして、**互換性のないデバイスのリスト**をターゲットデバイスのコンソールに表示します。
4. **保存** をクリックします。

## ドライバの互換性詳細の表示

アプライアンスのK2000ブート環境 ( KBE ) でデバイスがネットワーク起動した後に、アプライアンスは自動的にデバイスのハードウェアインベントリを詳細に記録します。デバイスの詳細と **ドライバ互換性レポート** を表示できます。このレポートは、スクリプト形式のインストールで使用可能なドライバとデバイスが要求するドライバの対比をリストします。

デバイスをネットワーク起動します。

ドライバ互換性レポートはドライバを再キャッシュした後に構築されるので、レポートはdrivers共有ディレクトリのドライバのみを対象にします。

1. KACEシステム展開アプライアンス管理者コンソールにログオンします。
2. 左側のナビゲーションペインで、**デバイス** をクリックして、**デバイスインベントリ** ページを表示します。
3. デバイスのホスト名またはIPアドレスをクリックして、**デバイスの詳細** ページを表示します。
4. **ドライバ互換性レポート** で、**オペレーティングシステム**を選択し、**互換性の表示** をクリックします。

互換性レポートでは、デバイスに必要なドライバと、ソースメディアで使用可能なドライバが比較されます。不足しているドライバを追加できます。

## ドライバのエクスポート

アプライアンスは、ドライバを含む.pkgファイルと、.pkgファイルと同じ名前の.xmlファイルを作成します。.xmlファイルには、ドライバのメタデータが含まれます。.pkgファイルと.xmlファイルは、\K2000\_hostname\restoreディレクトリに保存されます。

1. 左側のナビゲーションペインで、**設定** をクリックしてセクションを展開し、次に **パッケージ管理** をクリックして **パッケージ管理** ページを表示します。
2. **K2000パッケージのエクスポート** をクリックして、**エクスポートリスト** ページを表示します。
3. エクスポートするドライバパッケージを選択します。
4. **アクションの選択 > 選択内容をエクスポート** を選択します。

エクスポートが進行しているときに別のパッケージのエクスポートを開始すると、後続のパッケージはキューで待機します。

パッケージングプロセスは、パッケージのサイズと個数により、数分で完了することもあるが、数時間かかることもあります。各エクスポートが完了すると、ステータス 列に完了したことが表示されます。

## ドライバの再キャッシュ

ドライバを再キャッシュすると、ドライバに対して更新が行われたことがアプライアンスに通知されます。

再キャッシュを行う前に、drivers/kbe\_windows\_x86またはdrivers/kbe\_windows\_x64のdriversディレクトリに、ドライバが存在することを確認します。ドライバの再キャッシュでは、drivers共有ディレクトリのみがスキャンされ、drivers\_postinstallディレクトリはスキャンされません。

1. 左側のナビゲーションペインで、設定 をクリックしてセクションを展開し、次に アプライアンスのメンテナンス をクリックして アプライアンスのメンテナンス ページを表示します。
2. ユーティリティ のドライバの再キャッシュ セクションで、すべてのドライバの再キャッシュ をクリックします。

特定のディレクトリを選択することにより、変更されたドライバのみを再キャッシュすることもできます。

## オペレーティングシステムドライバの管理

ドライバフィードを有効にすると、オペレーティングシステムに必要な最新のデルのドライバを取得できます。その後、ダウンロードするドライバを選択できます。モデルに固有のパッケージには、Windowsのスクリプト形式のインストール用のドライバが含まれています。

Windowsオペレーティングシステムドライバについて

- デバイスで<your\_k2000\_box>\drivers\_postinstall\feed\_tools\driver\_feed\_discovery\_tool.vbsスクリプトを実行して、モデルおよび製造元の名前を取得できます。
- ドライバフィードは、オペレーティングシステムおよび他のハードウェア関連のドライバをdrivers\_post\_installディレクトリに追加します。
- フォルダ構造は、<製造元名>\<OS名>\<モデル名>です。

## スクリプト形式のインストール用のドライバフィードを有効にする

最新のデルのドライバを取得するためにドライバフィードを有効にすると、ダウンロードするドライバを選択できます。K2000は、スクリプト形式のインストール展開でオペレーティングシステムが必要なドライバをデバイスモデル別に整理します。

Sysprepを実行済みのシステムイメージ用に ドライバフィード を有効にできます。詳細については、[システムイメージ用のドライバフィードを有効にする](#)を参照してください。

1. 左側のナビゲーションペインで、ライブラリ をクリックしてセクションを展開し、次に ドライバフィード をクリックします。
2. アクションの選択 > ドライバフィード設定の管理 を選択して、ドライバフィード設定 ページを表示します。
3. ドライバフィードを有効にする チェックボックスをオンにして、保存 をクリックします。
4. 更新の確認 をクリックします。
5. オプション：キャンセル をクリックして、ページを閉じます。
6. 保存 をクリックします。

ドライバフィードステータス に、更新を確認しています が表示されます。使用可能なドライバパッケージのリストをドライバフィード ページで表示し、パッケージをアプライアンスにダウンロードしてインストールできます。

## システムイメージ用のドライバフィードを有効にする

Sysprepを実行済みのシステムイメージ用の ドライバフィード を有効にして、不足しているドライバを取得できます。イメージをキャプチャしたデバイスにドライバをインストールし、イメージを再キャプチャして、イメージをアプライアンスにアップロードできます。Quest KACEは、システムイメージのドライバのインストールを回避するため、イメージをキャプチャするためのベストプラクティスを使用することをお勧めします。

Microsoft Sysprepツールを使用してイメージを汎用化し、重複したデバイス名や重複したセキュリティID ( SID ) を解決します。

イメージをキャプチャするためのベストプラクティスの詳細については、<https://support.quest.com/k2000-systems-deployment-appliance/kb/121734>を参照してください。

1. 左側のナビゲーションペインで、展開 をクリックし、次に システムイメージ をクリックして、システムイメージ ページを表示します。
2. 展開するイメージを選択して、システムイメージ詳細 ページを表示します。
3. 展開 オプションで、ドライバフィードを使用 ( Sysprepベースのイメージでのみ ) チェックボックスをオンにします。
4. オプション：キャンセル をクリックして、ページを閉じます。
5. オプション：複製 をクリックしてイメージをコピーし、必要に応じて編集します。
6. 保存 をクリックします。

## ドライバフィードを無効にする

ドライバフィード を無効にすることより、非Dellドライバ、別のK2000アプライアンスからのドライバ、および別のデバイスに格納されているドライバを手動でダウンロードしてインストールできます。

1. 左側のナビゲーションペインで、ライブラリ をクリックしてセクションを展開し、次に ドライバフィード をクリックします。
2. アクションの選択 > ドライバフィード設定の管理 を選択して、ドライバフィード設定 ページを表示します。
3. ドライバフィードを有効にする チェックボックスをオフにします。
4. オプション：キャンセル をクリックして、ページを閉じます。
5. 保存 をクリックします。

# オペレーティングシステムのドライバパッケージのダウンロード

ドライバフィードを有効にすると、利用できる最新のドライバパッケージのリストをドライバフィードから表示し、ドライバをアプライアンスにダウンロードしてインストールできます。

1. 左側のナビゲーションペインで、ライブラリ をクリックしてセクションを展開し、次にドライバフィード をクリックします。
2. ダウンロードしてインストールするパッケージを選択します。  
ドライバは、drivers\_postinstall共有ディレクトリにインストールされます。
3. アクションの選択 > パッケージのダウンロードとインストール を選択します。  
プロセスが完了したら、ステータス列にドライバ共有にインストールされました。 が表示されます。インストールされたドライバは、ドライバ ページで確認できます。
4. 左側のナビゲーションペインで、ライブラリ をクリックしてセクションを展開し、次にドライバ をクリックしてドライバ ページを表示します。

## ポストインストールタスクとしての、OSへのドライバの追加

複雑な設定または依存関係のあるドライバ用のドライバインストールファイルをアップロードできます。このようなドライバには、ハードウェア命令語を提供するチップセットドライバなどがあります。ドライバの.zipファイルを作成すると、ポストインストールタスクを使用してドライバをオペレーティングシステムに追加できます。

Quest KACEでは、ドライバフィードを有効にして最新のデルのドライバを取得し、ダウンロードするドライバを選択することをお勧めします。

1. 左側のナビゲーションペインで、ライブラリ をクリックしてセクションを展開し、次に ポストインストールタスク をクリックして ポストインストールタスク ページを表示します。
2. アクションの選択 > アプリケーションの追加 を選択し、ポストインストールタスク詳細 ページを表示します。
3. 名前 に、Install Dell E6410 Chipset Driversなど、タスクを識別する論理名を入力します。
4. 実行時環境を選択します。詳細については、[実行時環境について](#)を参照してください。
5. ファイルのアップロードの隣にある [参照](#) をクリックして、該当するファイルを選択します。
6. アプライアンスを再起動してシーケンス内の次のタスクを実行するには、再起動が必要です のチェックボックスを選択します。
7. メモ に、タスクを識別するためのメモを追加します。
8. 保存 をクリックします。

詳細については、[ポストインストールタスクの追加](#)を参照してください。

# イメージのキャプチャ

K2000ブート環境 ( KBE ) にキャプチャするイメージを使用してデバイスを起動した後に、UEFIイメージ、WIMイメージ、およびK-Imageをキャプチャできます。KBEからデバイスを起動すると、KBEのメインメニューがデバイスに読み込まれます。KBEのメインメニューを使用して、デバイスからイメージをキャプチャします。アプライアンスにイメージ用の十分なディスク領域があるかどうかの検証と、キャプチャ用のイメージの準備が行えます。

## キャプチャの準備

イメージが最新のものであること、アプライアンスにイメージ用の十分なディスク領域があることの確認など、イメージをキャプチャするためのベストプラクティスに従います。

Quest KACEサポートチームは、イメージをキャプチャするためのベストプラクティスを提供します。詳細については、<https://support.quest.com/k2000-systems-deployment-appliance/kb/121734>を参照してください。

展開用のイメージをキャプチャするための準備に関するベストプラクティス。

- アプライアンスに20 %の空き領域があることを確認します。
- OEMメディアではなくボリュームライセンスメディアのみを使用します。
- 管理者プロファイルを作成し、デフォルトの管理者ユーザーとしてセットアップします。
- イメージを元のデバイスに復元する必要がある場合は、Sysprepを実行していないバージョンのマスターイメージを最初にキャプチャします。
- イメージにSysprepを実行します。
- Sysprepを実行済みのイメージをK2000アプライアンスにキャプチャして、アプライアンスにイメージ用の十分な領域があるかどうかを確認します。

## システムイメージのキャプチャ

K2000ブート環境 ( KBE ) でデバイスを起動してから、K2000アプライアンスまたはリモート ( RSA ) アプライアンスを使用してイメージをキャプチャできます。

KBEからデバイスを起動する前に、イメージにSysprepツールを実行してシステム固有のすべての設定を削除できます。イメージを元のデバイスに復元する必要がある場合、Quest KACEでは、Sysprepを実行していないバージョンのゴールドイメージを最初にキャプチャすることをお勧めします。

デバイスをKBEから起動した後、ビルトインのVNCリモートコントロールソフトウェアにアクセスして、リモートデバイスからK2000にイメージをキャプチャできます。

1. KBEにキャプチャするイメージを使用してデバイスを起動します。デバイスの KBEのメインメニュー から、イメージ作成 をクリックします。



**ヒント:** この画面の下に表示される情報には、このKBEに接続したK2000アプライアンスまたはRSAの詳細 ( IPアドレス、OSバージョン、アーキテクチャ、ブートモード、Macアドレス、およびその他の関連データ ) が表示されます。



デバイスがKBEからではなくハードドライブから起動する場合は、KBEからデバイスを起動します。

2. このデバイスのイメージをキャプチャ をクリックします。
3. イメージ名 に、アプライアンス上でイメージを識別する名前を入力します。
4. イメージソース で、キャプチャするすべてのドライブがリストに表示されていることを確認します。
5. エラー発生時に操作を続行 をクリックして、警告や致命的なエラーが発生しても、キャプチャとアップロードプロセスが続行されるようにします。
6. ログにデバッグ出力を含める をクリックして、デバッグレベルのログ記録を有効にし、アプライアンスログ ページにログがアップロードされるようにします。

デバッグを有効にすると、イメージのキャプチャとアップロードにかかる時間が長くなる場合があります。

7. キャプチャの開始 をクリックします。
  - キャプチャプロセスでは、KACEシステム展開アプライアンス管理者コンソールの システムイメージ ページにシステムイメージエントリが追加されます。イメージがRSAを使用してキャプチャされた場合は、リモートサイトコンソールにも追加されます。
  - K2000アプライアンスはキャプチャされた各システムイメージにIDを割り当てます。

**i** **ヒント:** K2000アプライアンスでキャプチャした各システムイメージまたはリンク先RSAには一意のIDがあります。これにより、リンク先 ( K2000 ) アプライアンスまたはリモート ( RSA ) アプライアンスでキャプチャしたすべての異なるシステムイメージを追跡し、それらを編集する際、任意のイメージを同期できます。特定のシステムイメージのIDを確認するには、システムイメージ ページでシステムイメージ名をマウスオーバーします。IDは左下隅に表示されます。

**i** **注:** RSAでキャプチャされたイメージはRSAのみで保存され、K2000アプライアンスと同期しません。RSAからキャプチャされたイメージを設定した後、K2000アプライアンスでは展開前にそのRSAをK2000アプライアンスと同期します。

展開タスクシーケンスを使用して、すべての必要なファイル、ツール、およびソフトウェアでイメージを設定します。必要に応じて、いくつかのイメージを編集したり、展開タスクを指定したりできます。詳細については、次のトピックをお読みください。

- [システムイメージの編集](#)
- [システムイメージの展開へのタスクの割り当て](#)

## シングルパーティションの作成

ビルトインのシングルパーティションの作成 プレインストールタスクを追加して、プライマリパーティションを1つ作成できます。

1. 左側のナビゲーションペインで、ライブラリ をクリックしてセクションを展開し、次に プレインストールタスク をクリックしてプレインストールタスク ページを表示します。
2. シングルパーティションの作成 を選択して、プレインストールタスク詳細 ページを表示します。
3. オプション : 名前 で、タスクを識別するために名前を変更します。
4. スクリプトを入力してパーティションを作成します。
5. メモ に、タスクを識別するためのメモを追加します。
6. 保存 をクリックします。

これで、スクリプト形式のインストール、Sysprepを実行済みのシステムイメージ、およびSysprepを実行していないシステムイメージ展開にタスクを割り当てることができるようになりました。

# CドライブをNTFSとしてフォーマット

ビルトインの C:をNTFSとしてフォーマット プレインストールタスクを追加して、CドライブをNTFSファイルシステムとしてフォーマットし、設定できます。

1. 左側のナビゲーションペインで、ライブラリ をクリックしてセクションを展開し、次に プレインストールタスク をクリックしてプレインストールタスク ページを表示します。
2. C:をNTFSとしてフォーマット を選択して、プレインストールタスク詳細 ページを表示します。
3. オプション：名前 で、タスクを識別するために名前を変更します。
4. 保存 をクリックします。

これで、スクリプト形式のインストール、Sysprepを実行済みのシステムイメージ、およびSysprepを実行していないシステムイメージ展開にタスクを割り当てることができるようになりました。

# UEFIパーティションの作成

DiskPartスクリプトを使用するビルトインの UEFIパーティションの作成 プレインストールタスクを追加して、Windows 7 x64 SP1以降のx64 UEFI対応デバイス上でUnified Extensible Firmware Interface ( UEFI ) ハードドライブパーティションを作成できます。

NTFS形式はUEFI対応デバイスでは動作しません。UEFI対応デバイスはGUIDパーティションテーブル ( GPT ) を使用します。GPTはBIOSで一般的に使用されるマスターブートレコード ( MBR ) パーティションスタイルとは異なるグローバル一意識別子をデバイスに使用します。

1. 左側のナビゲーションペインで、ライブラリ をクリックしてセクションを展開し、次に プレインストールタスク をクリックしてプレインストールタスク ページを表示します。
2. リストから UEFIパーティションの作成 を選択して、プレインストールタスク詳細 ページを表示します。
3. オプション：名前 で、タスクを識別するために名前を変更します。
4. DISKPARTスクリプト で、コマンドラインオプションが、使用するコマンドラインオプションと一致していることを確認します。

K2000ブート環境 ( KBE ) では、UEFIイメージをキャプチャしている間に非表示のEFIパーティションが自動的に識別され、キャプチャ時にドライブ文字Sが割り当てられます。

DiskPartコマンドの詳細については、[共通のDiskPartコマンドラインオプション](#)を参照してください。

5. 保存 をクリックします。

これで、スクリプト形式のインストール、Sysprepを実行済みのシステムイメージ、およびSysprepを実行していないシステムイメージ展開にタスクを割り当てることができるようになりました。

中レベルのタスク UEFIパーティションの適用 を使用して、パーティションを適用します。

# UEFIパーティションの適用

プレインストールタスクとして作成したUEFIパーティションを適用できます。

1. 左側のナビゲーションペインで、ライブラリ をクリックしてセクションを展開し、次に ポストインストールタスク をクリックして ポストインストールタスク ページを表示します。
2. UEFIパーティションの適用 をクリックして、ポストインストールタスク詳細 ページを表示します。
3. 名前に、タスクを識別するための論理名を入力します。
4. 実行時環境を選択します。詳細については、[実行時環境について](#)を参照してください。
5. BATスクリプト で、スクリプトを確認し、必要な変更を行います。
6. 保存 をクリックします。

これで、スクリプト形式のインストール、Sysprepを実行済みのシステムイメージ、およびSysprepを実行していないシステムイメージ展開にタスクを割り当てることができるようになりました。

# ネイティブWIMイメージのキャプチャ

高速な展開のために、自動マルチキャスト展開を使用してWIMイメージをキャプチャし、同じWIMイメージを同時に複数のデバイスに送信できます。また、企業内のすべてのデバイス、およびK2000ブート環境 ( KBE ) のすべてのサイズのハードディスクにWIMイメージを展開できます。

キャプチャするイメージのあるデバイスは、展開用のターゲットデバイスと一致する必要はありません。ただし、イメージを展開する各デバイスモデルにはドライバが必要です。

1. KBEにキャプチャするイメージを使用してデバイスを起動します。デバイスの KBEのメインメニュー から、イメージ作成 をクリックします。

デバイスがKBEからではなくハードドライブから起動する場合は、KBEからデバイスを起動します。

2. このマシンのイメージキャプチャ をクリックします。
3. イメージ名 に、イメージを識別する名前を入力します。

K2000アプライアンスは、.wim拡張子を自動的に追加します。

4. イメージソース で、イメージをキャプチャするドライブ文字を選択します。

K2000により、ドライブ文字に自動的にコロンが追加されます ( C:など ) 。

5. イメージタイプとして Windows Imaging Format ( 高速圧縮 ) を選択します。
6. キャプチャの開始 をクリックして、イメージを システムイメージ ページにアップロードします。

# システムイメージの編集

K-Imageの名前変更、置換、削除、または編集ができます。

K-Imageを修正する前に、バックアップコピーを作成します。

K-Imageには、ファイルの参照 オプションのみが使用できます。

1. イメージの名前を選択し、システムイメージ詳細 ページを表示してイメージを編集します。
2. ファイルの参照 をクリックして、ファイルブラウザ ウィンドウを開き、次のオプションを使用してイメージを編集します。
  - ファイルまたはディレクトリの名前変更、削除、および置換を行うには、ドライブ文字をクリックします。
  - パーティションを追加するには、ドライブの追加 をクリックします。ドライブ名は、大文字1文字と末尾のコロンで構成する必要があります。



注: ファイルの参照 からファイルを別のファイルに置換した場合、アプライアンスにより、ファイルの内容が置換されますが、元のファイル名は維持されます。

3. 送信 をクリックして、元に戻す および コミット ボタンを表示します。

元に戻す ボタンをクリックすると、変更内容が元に戻ります。コミット ボタンをクリックすると、変更内容がイメージに反映されます。
4. オプション: 元のイメージをデバイスに復元する場合、および元のイメージにないデバイスでファイルが追加または修正されている場合、展開 オプションで、イメージ内にはないローカルファイルの削除 を選択します。

# ユーザープロファイルのキャプチャ

K2000アプライアンスは、Windowsユーザー状態移行ツール (USMT) を使用し、USMTの状態スキャンユーティリティと状態読み込みユーティリティを実行して、ユーザープロファイルを移行します。ユーザープロファイルに関してデバイスをスキャンする前に、USMTスキャンテンプレートを設定できます。USMTスキャンテンプレートは、状態スキャンユーティリティのパラメータを設定し、移行するデータおよびキャプチャから除外するデータの指定を可能にします。USMTは、K2000アプライアンスから、またはK2000メディアマネージャからアップロードしてインストールできます。

USMTの状態スキャンユーティリティ (Scanstate.exe) は、デバイスのデータをスキャンして、情報を.migファイルにキャプチャします。USMTの状態読み込みユーティリティ (Loadstate.exe) は、データと設定を.migファイルからターゲットデバイスにインストールします。また、状態読み込みユーティリティを使用すると、ユーザープロファイルをデバイスに手動で移行できます。

ユーザープロファイルのオフラインスキャン: ユーザープロファイルのオフラインスキャン プレインストールタスクを使用して、すべてのデバイスでユーザープロファイルをスキャンして、アプライアンスにアップロードできます。

ユーザープロファイルの展開: ユーザープロファイルの展開 ポストインストールタスクを使用して、ユーザープロファイルをターゲットデバイスに展開できます。

## アプライアンスからのUSMTソフトウェアのアップロード

ユーザープロファイルのスキャンでは、Windows ADK (自動展開キット) に含まれるWindowsユーザー状態移行ツールソフトウェア (USMT) が必要です。K2000アプライアンスから、USMTソフトウェアバージョン5.0を直接アップロードできます。アプライアンスは、デバイスでUSMTの状態スキャンユーティリティを実行して、ユーザープロファイルをキャプチャします。

アプライアンスからUSMTバージョン3.0.1をアップロードすることもできます。

1. 左側のナビゲーションペインで、ライブラリ をクリックしてセクションを展開し、次に ユーザープロファイル をクリックして ユーザー状態 ページを表示します。
2. アクションの選択 > アップロード を選択します。
3. ユーザープロファイルの展開先となる適切なOSを選択し、手順を表示 をクリックします。

# メディアマネージャからのUSMTソフトウェアのアップロード

USMTソフトウェアバージョン5.0を最新バージョンのメディアマネージャからアップロードしてインストールできます。

1. K2000メディアマネージャがインストールされているデバイスで、スタート > すべてのプログラム > Quest > K2000メディアマネージャ製品 からメディアマネージャを実行します。
2. K2000ホスト名で、アプライアンスのIPアドレスを入力します。
3. Samba共有パスワードに、ログインに使用したパスワードを入力します。
4. USMTのアップロードをクリックします。
5. 参照 をクリックし、該当するWindows ADKのパスが正しいことを確認します。

例：

- WinPE 10 Win10 x86 ADK C:\Program Files\Windows Kits\10
  - WinPE 10 Win8 x64 ADK C:\Program Files(x86)\Windows Kits\10
6. アップロードの開始 をクリックします。

## USMTスキャンテンプレートの作成

スキャンテンプレートを作成して、移行するデータを指定できます。例えば、ユーザー固有のファイルおよび設定を含める、およびユーザープロファイルとデータを除外するなどを指定できます。アプライアンスからのユーザープロファイルのオンラインおよびオフライン移行に対してテンプレートを使用できます。

1. KACEシステム展開アプライアンス管理者コンソールまたはKACEリモートサイトアプライアンスを開きます。
2. KACEリモートサイトアプライアンスのみ。次の手順が完了していることを確認します。
  - USMTツールキットがリンク先K2000アプライアンスにアップロードされます。
  - RSAがK2000アプライアンスと同期され、USMTツールキットがRSAにプッシュされます。
3. 左側のナビゲーションペインで、ライブラリ をクリックしてセクションを展開し、次に USMTスキャンテンプレート をクリックして USMTスキャンテンプレート ページを表示します。
4. アクションの選択 > スキャンテンプレートの追加 を選択して、USMTスキャンテンプレート詳細 ページを表示します。
5. 名前 に、テンプレートを識別する固有の名前を入力します。
6. ユーザー選択 オプションを設定します。
  - すべての使用可能なユーザープロファイルのスキャン チェックボックスをオンにして、デバイス上のすべてのユーザープロファイルのスキャンします。
  - 除外するユーザーの指定 チェックボックスをオンにして、ユーザープロファイルのセットをスキャンから除外します。除外するユーザープロファイルをコンマ区切りのリストでconfig.xmlファイルに記述できます。このファイルは、ScanStateツールの/genconfigオプションを使用して作成されます。
7. アプライアンスがスキャンを実行するために使用する コマンドライン オプションを設定します。ほとんどの場合で、デフォルトのコマンドラインオプションを使用します。
8. コンテンツ設定 オプションを設定し、カスタマイズしたconfig.xml設定ファイルを使用してキャプチャおよび移行するデータを制御します。この機能を使用すると、Windowsとドキュメントのコンポーネントのみを除外します。ユーザープロファイルのスキャン元のデバイスと同じファイルとフォルダ、アプリケー

ション、およびコンポーネントセットアップを使用して、ワークステーション上で設定ファイルを生成します。

- ファイルの除外 チェックボックスをオンにして、除外するファイルタイプを選択します。また、ファイル拡張子をコンマ区切りリストで指定することもできます。
- configファイルの指定 チェックボックスをオンにして、対象に含める、または対象から除外するWindowsコンポーネントを選択します。

9. 保存 をクリックします。

テンプレートは、USMTスキャンテンプレート ページのリストに表示されます。

## ユーザープロファイルのスキャン

新しいユーザープロファイルのスキャン元のデバイスから移行する、または除外するデータと設定を指定できます。K2000アプライアンスまたは任意のリンク先RSAアプライアンスを使用してユーザープロファイルをキャプチャできます。

USMTスキャンテンプレートを作成または修正して、移行または除外するデータおよび設定を指定します。Windows 7以上が動作しているデバイスをスキャンする場合、次の設定を構成します。

- シンプルなファイル共有またはファイアウォールを無効にします。
  - デフォルトの管理者アカウントを有効にします。
  - Windows Defenderを無効にします。
  - ファイルおよびプリンタ共有を有効にします。
  - ユーザーアカウントコントロール ( UAC ) を 通知しない に設定します。
1. KACEシステム展開アプライアンス管理者コンソールまたはKACEリモートサイトアプライアンスを開きます。
  2. KACEリモートサイトアプライアンスのみ。次の手順が完了していることを確認します。
    - USMTツールキットがリンク先K2000アプライアンスにアップロードされます。
    - RSAがK2000アプライアンスと同期され、USMTツールキットがRSAにプッシュされます。
  3. 左側のナビゲーションペインで、ライブラリ をクリックしてセクションを展開し、次に ユーザープロファイル をクリックして ユーザー状態 ページを表示します。
  4. アクションの選択 > 新規作成 を選択して、新しいユーザープロファイルのスキャン ページを表示します。
  5. USMTのバージョンとテンプレートを選択します。
  6. クライアントデバイスの詳細 情報の設定を完了します。

オプション	説明
ホスト名/IP	スキャン先のデバイスの完全修飾ホスト名またはIPアドレス。一定範囲のデバイスを入力する場合は、区切り文字としてコンマ、セミコロン、または改行を使用します。
ドメイン	スキャン先のデバイスがドメインに接続している場合は、ドメイン名。
ユーザー名	スキャン中のデバイスに対する管理者権限。

7. 次へ をクリックします。

プロセスが正常に完了すると、プロファイルのリストが表示されます。

8. アプライアンスに移行するプロファイルを選択し、次へ をクリックします。

結果ログが表示されます。

9. 終了 をクリックします。

スキャンが失敗した場合、設定 > アプライアンスログ に移動して、USMTエラーログをチェックします。例えばWindows Defenderなど、実行する必要のないすべてのプロセスを終了します。

- ・ キャプチャプロセスにより、KACEシステム展開アプライアンス管理者コンソールの ユーザープロファイル ページにイメージへのユーザーエントリが追加されます。ユーザープロファイルがRSAを使用してキャプチャされた場合は、リモートサイトコンソールにも追加されます。
- ・ K2000アプライアンスはキャプチャされた各ユーザープロファイルにIDを割り当てます。



**ヒント:** K2000アプライアンスでキャプチャされた各ユーザープロファイルまたはリンク先RSAには一意のIDがあります。これにより、リンク先物理 ( K2000 ) アプライアンスまたはリモート ( RSA ) アプライアンスでキャプチャしたすべての異なるユーザープロファイルを追跡し、それらを編集する際、任意のユーザープロファイルを同期できます。ユーザープロファイルのIDを確認するには、ユーザープロファイル ページでユーザープロファイルをマウスオーバーします。IDは左下隅に表示されます。

選択したユーザープロファイルがアプライアンスにアップロードされ、ユーザープロファイル ページのリストに表示されます。ユーザープロファイルの展開 ポストインストールタスクをスクリプト形式のインストールまたはシステムイメージの展開に割り当てて、ユーザープロファイルをターゲットデバイスに展開できます。

## ユーザープロファイルのオフラインスキャン

ユーザープロファイルのオフラインスキャンを使用することにより、展開に割り当てられているデバイスからユーザープロファイルをキャプチャできます。アプライアンスは、ユーザープロファイルのオフラインスキャンプレインストールタスクがスクリプト形式のインストールまたはシステムイメージに割り当てられているとユーザープロファイルをキャプチャし、ユーザープロファイルの展開 ポストインストールタスクを使用して、選択されたユーザープロファイルを展開します。ユーザープロファイルのスキャン時には、アプライアンスで使用可能なその他のユーザープロファイルを読み込むことも選択できます。

1. 次の手順のいずれかを実行します。

- ・ 左側のナビゲーションペインで、展開 > システムイメージ を選択し、システムイメージ ページを表示します。次に、システムイメージ名をクリックして、システムイメージ詳細 ページを表示します。
- ・ 左側のナビゲーションペインで、展開 > スクリプト形式のインストール を選択し、スクリプト形式のインストール ページを表示します。次に、スクリプト形式のインストール名をクリックし、スクリプト形式のインストール詳細 ページを表示します。

2. ユーザープロファイルの移行先のスクリプト形式のインストールまたはシステムイメージの展開の名前を選択します。

スクリプト形式のインストール詳細 ページまたは システムイメージ詳細 ページが表示されます。

3. インストールプラン で、ユーザープロファイルのオフラインスキャン プレインストールタスクを使用可能なプレインストールタスク 列から 実行するプレインストールタスク 列に移動します。ユーザープロ



ファイルのオフラインスキャン ガリストの先頭にあり、ユーザープロファイルの展開 ポストインストール タスクが追加されていることを確認します。

ターゲットデバイスのユーザープロファイルが既存のユーザープロファイルレコードのユーザープロファイルと一致すると、プロセスは既存のレコードを上書きします。

4. 保存 をクリックします。

アプライアンスにより、スクリプト形式のインストールまたはシステムイメージが再構築されます。

## ターゲットデバイスへのユーザープロファイルの自動展開

アプライアンスは、ユーザープロファイルのオフラインスキャン プレインストールタスクがスクリプト形式のインストールまたはシステムイメージの展開に割り当てられているとユーザープロファイルをキャプチャし、ユーザープロファイルの展開 ポストインストールタスクを使用して、キャプチャされたユーザープロファイルを読み込みます。

1. 次の手順のいずれかを実行します。
  - 左側のナビゲーションペインで、展開 > システムイメージ を選択し、システムイメージ ページを表示します。次に、システムイメージ名をクリックして、システムイメージ詳細 ページを表示します。
  - 左側のナビゲーションペインで、展開 > スクリプト形式のインストール を選択し、スクリプト形式のインストール ページを表示します。次に、スクリプト形式のインストール名をクリックし、スクリプト形式のインストール詳細 ページを表示します。

2. ユーザープロファイルの展開先のスクリプト形式のインストールまたはシステムイメージの展開の名前を選択します。

スクリプト形式のインストール ページまたは システムイメージ詳細 ページが表示されます。

3. インストールプラン で、ユーザープロファイルの展開 ポストインストールタスクを使用可能なポストインストールタスク 列から 実行するポストインストールタスク 列に移動します。
4. 保存 をクリックします。

アプライアンスにより、スクリプト形式のインストールまたはシステムイメージの展開が再構築されます。

## ターゲットデバイスへのユーザープロファイルの手動展開

デバイスをスキャンし、ユーザープロファイルをK2000アプライアンスにキャプチャすると、USMTは、デバイスのユーザープロファイルを含む.migファイルを作成します。.migファイルをアプライアンスからダウンロードして、新しいユーザープロファイルを使用して更新するターゲットデバイスの任意の場所にコピーできます。

USMT ScanStateユーティリティは、バックアップを実行し、.migファイルを生成します。USMT LoadStateユーティリティは、.migファイルを使用して、復元プロセスを実行します。LoadStateユーティリティを管理者モードで実行すると、ユーザープロファイルがターゲットデバイスに読み込まれます。

1. 左側のナビゲーションペインで、ライブラリ をクリックしてセクションを展開し、次に ユーザープロファイル をクリックして ユーザー状態 ページを表示します。
2. プロファイルを選択して、ユーザープロファイル詳細 ページを表示します。
3. ユーザープロファイルファイルのダウンロード をクリックします。

USMT.MIGを開く ダイアログボックスが表示されます。

4. ファイルの保存 をクリックして、任意の場所にファイルを保存します。
  5. .migファイル全体をターゲットデバイスにコピーします。
    - a. ターゲットデバイスにMyUserStatesのようなローカルストアを作成し、サブフォルダUSMTを作成して、.migファイルをUSMTフォルダにコピーします。
    - b. ターゲットデバイスのUSMTフォルダで、loadstate.exeを実行します。
- ユーザープロファイルを展開するには、次のコマンドラインオプションを使用します。
- ローカルアカウント: loadstate.exe StorePath /i:miguser.xml /i:migapp.xml /lac /lae
  - ドメインアカウント: loadstate.exe StorePath /i:miguser.xml /i:migapp.xml

# スクリプト形式のインストールを作成する

スクリプト形式のインストールウィザードを使用した応答ファイルの作成、既存の応答ファイルのアップロード、またはサーバーベースの有人セットアップの使用を行うことができます。

スクリプト形式のインストールの準備:

- 旧式のデバイス用にPXEブートを手動で設定します。
- リモートサイトネットワークが調整を必要としないことを確認します。
- ドライバの互換性を確保するために、各デバイスモデルに個別にインストールする必要があることに注意してください。
- 同じデバイスモデルで異なるサイズのハードドライブが実装されている場合は、スクリプト形式のインストールをコピーおよび修正してハードドライブサイズを指定します。

## スクリプト形式のインストールの作成

スクリプト形式のインストールの作成 ウィザードに表示される手順に従って、スクリプト形式のインストールを定義します。config.xmlファイルで指定する設定は、ハードウェアと互換性がある必要があります。ハードウェアがこの設定を処理できない場合に、Windowsインストーラを実行すると、無人のスクリプト形式のインストールが失敗します。

OSのISOファイルを独自のディレクトリに抽出し、メディアマネージャを使用してそのディレクトリをソースメディアとしてK2000サーバーにアップロードします。その後、必ずドライバを再キャッシュします。

1. 左側のナビゲーションペインで、展開 をクリックし、次に スクリプト形式のインストール をクリックして、スクリプト形式のインストール ページを表示します。
2. アクションの選択 > 新規作成 を選択します。

スクリプト形式のインストールの作成ウィザードにより示される手順に従います。



**注:** UEFI対応のデバイスに対するスクリプト形式のインストールの展開では、UEFIパーティションの作成 プレインストールタスクを使用してUEFIパーティションを作成し、UEFIを起動可能なFAT32形式でフォーマットされたUSBフラッシュデバイスを使用して起動する必要があります。

応答ファイルを作成するか、既存の応答ファイルをアップロードするか、またはサーバーベースの有人セットアップを使用します。

# 応答ファイルの作成

スクリプト形式のインストールを有人で実行中に一般的に応答を求める設定タスクに対して、独自の応答ファイルを作成したり、既存の応答ファイルを修正したりすることができます。

1. 左側のナビゲーションペインで、**展開** をクリックし、次に **スクリプト形式のインストール** をクリックして、スクリプト形式のインストール ページを表示します。
2. **アクションの選択 > 新規作成** の順に選択して、スクリプト形式のインストールの作成 ページを表示します。
3. **名前** に名前を入力し、**ソースメディア ドロップダウンリスト** からソースファイルを選択します。次に、**次へ** をクリックして応答ファイルを作成するために使用する方法を選択します。
  - 無人セットアップ用の応答ファイルの作成について説明する: 無人インストールウィザードを使用して、設定ファイルを作成します。
  - 無人セットアップ用の既存応答ファイルのアップロード: 無人インストールの設定ファイルをアップロードします。
  - 応答ファイルはありません。これはサーバベースの有人セットアップになります: インストールの完了に必要な情報の入力を要求する、基本的な設定ファイルを作成します。
4. **無人セットアップ用の応答ファイルの作成について説明する** をクリックして、**次へ** をクリックします。
5. 応答フォームに入力します。

応答ファイルに次の値を設定して、ログイン時のWindows 8アニメーションを無効にします。値を設定すると、ターゲットデバイスに **タスクエラー** ページが表示されます。

- EnableFirstLogonAnimationレジストリキーを0 (ゼロ) に設定します。



**注:** ポストインストールタスクを実行するには、応答ファイルにOemPreinstall="yes"を設定します。

6. **次へ** をクリックして **プレインストールタスクとポストインストールタスク** ページを表示し、必要なプレインストールタスクとポストインストールタスクを追加します。
7. **タスクのエラー処理 オプション** で、エラーが発生した場合のアプライアンスの動作を選択します。
8. **次へ** をクリックします。

スクリプト形式のインストールの作成 ページに結果が表示されます。応答ファイルを表示するには、スクリプト形式のインストール詳細 ページに移動し、**構成のセットアップ** で **表示** をクリックします。

スクリプト形式のインストールを **自動展開** から **自動展開する** か、または **KBEメインメニュー** から **手動** で展開します。KBEメインメニューは、ターゲットデバイスがKBEで起動した後にターゲットデバイスに表示されます。

# 登録データ設定

登録データ設定は、オペレーティングシステムまたは使用したソースメディアにより異なります。

フィールド	説明
名前	ライセンスが割り当てられたユーザーを識別します。
組織	会社または組織を識別します。
プロダクトキー	製品のライセンス認証キーを入力します。

フィールド	説明
ボリュームライセンスまたはマルチライセンス認証	ボリュームライセンスの場合、MAK ( Multiple Activation Key ) またはKMS ( Key Mgt System ) セットアップキーを入力します。
イメージのインストール	Windows 7以降およびWindows Server 2012。プロダクトキーを使用してインストールイメージが自動的に検出されます。

## Administratorアカウント設定

ローカルAdministratorアカウントをインストールプロセス中に作成し、デバイスの再起動後にデバイスがそのアカウントで自動的にログインするかどうかを設定します。デバイスの名前の変更やソフトウェアのインストールなどを実行するポストインストールタスクには、管理者アカウントを使用してデバイスに自動でログインし直すスクリプトが必要です。

フィールド	説明
ユーザー名	Administratorアカウントのユーザー名を入力します。このアカウントはインストールプロセス中に作成されます。
パスワード	Administratorアカウントのパスワードを入力します。パスワードがない場合、このフィールドを空白のままにします。起動後にAdministratorアカウントを使用してターゲットデバイスに自動的にログインします。
Administratorアカウントを使用してコンピューターが自動的にログイン	起動後にAdministratorアカウントを使用してターゲットデバイスに自動的にログインします。このチェックボックスをオンにすると、少なくとも最初の起動では、ポストインストールタスクが自動的に実行されます。
この後の自動ログインを無効にする: デバイスの起動	指定した回数の起動後に管理者アカウントの自動ログインを無効にします。

## 一般設定

言語とデバイス画面設定を構成します。

フィールド	説明
タイムゾーン	デバイスのタイムゾーンを選択します。
地域および言語オプション	デバイスのオペレーティングシステムのデフォルト言語を選択します。

フィールド	説明
画面色	デバイスの画面色を選択します。すべてのターゲットデバイスに同一の設定が必要であることが明確でない場合、推奨設定は Windows デフォルトです。
画面領域	デバイスの画面領域を選択します。すべてのターゲットデバイスに同一の設定が必要であることが明確でない場合、推奨設定は Windows デフォルトです。
更新頻度	デバイス画面のリフレッシュレートを選択します。すべてのターゲットデバイスに同一の設定が必要であることが明確でない場合、推奨設定は Windows デフォルトです。

## ネットワーク設定

ネットワーク設定は、ネットワーク関連の初期設定を制御します。推奨される設定は、ランダムな名前が生成されるように デバイス名 フィールドを空白のままにし、コンピューターを ワークグループ に参加させて、スク립ト形式のインストールをその他のターゲットデバイスで展開できるようにすることです。ポストインストールタスクを使用して、コンピューター名を変更し、コンピューターをドメインに参加させることができます。

フィールド	説明
デバイス名	デバイス名を入力するか、名前が自動で生成されるようにフィールドを空白のままにします。
ワークグループ	ワークグループにデバイスを参加させます。
ドメイン	ターゲットデバイスがドメインに参加している場合は、このチェックボックスをオンにします。
ドメイン内のコンピューターアカウントの作成	ドメイン内にデバイスアカウントを追加するには、このチェックボックスをオンにします。
ドメイン管理者	ドメイン管理者の名前を入力します。 <b>i</b> 注: この管理者には、デバイスをドメインに追加する権限が必要です。デバイスをドメインに参加させるときには、ローカル管理者を無効にします。
パスワード	ドメイン管理者のパスワード。

## Windowsコンポーネント設定

自動更新を有効にする チェックボックスをオンにすると、インストール中に Windows 更新機能が有効になります。

# スクリプト形式のインストールの設定 ファイルの修正

オペレーティングシステムの展開に使用されるインストール設定ファイルを修正できます。

1. 左側のナビゲーションペインで、**展開** をクリックし、次に **スクリプト形式のインストール** をクリックして、スクリプト形式のインストール ページを表示します。
2. リストからスクリプト形式のインストールを選択し、**スクリプト形式のインストール詳細** ページを表示します。
3. **構成のセットアップの隣の表示** をクリックして、変更を入力します。
4. **保存** をクリックします。

## Vista MBRのインストール

ビルトインの Vista/2008/7/8/2012 MBRのインストール プレインストールタスクを追加して、Windows Vista、Windows 2008、Windows 7以上、およびWindows Server 2012を実行しているデバイスのブートセクターを復元できます。

1. 左側のナビゲーションペインで、**ライブラリ** をクリックしてセクションを展開し、次に **プレインストールタスク** をクリックしてプレインストールタスク ページを表示します。
2. Vista/2008/7/8/2012 MBRのインストール を選択して、**プレインストールタスク詳細** ページを表示します。
3. オプション：名前 で、タスクを識別するために名前を変更します。
4. メモ に、タスクを識別するためのメモを追加します。
5. **保存** をクリックします。

これで、スクリプト形式のインストール、Sysprepを実行済みのシステムイメージ、およびSysprepを実行していないシステムイメージにタスクを割り当てることができるようになりました。

## XP 2003 MBRのインストール

ビルトインの XP 2003 MBRのインストール プレインストールタスクを追加して、Windows 2000、Windows XP、またはWindows Server 2003を実行しているデバイスのブートセクターを復元できます。

1. 左側のナビゲーションペインで、**ライブラリ** をクリックしてセクションを展開し、次に **プレインストールタスク** をクリックしてプレインストールタスク ページを表示します。
2. XP 2003 MBRのインストール を選択して、**プレインストールタスク詳細** ページを表示します。
3. オプション：名前 で、タスクを識別するために名前を変更します。
4. メモ に、タスクを識別するためのメモを追加します。
5. **保存** をクリックします。

これで、スクリプト形式のインストール、Sysprepを実行済みのシステムイメージ、およびSysprepを実行していないシステムイメージにタスクを割り当てることができるようになりました。

# タスクシーケンスの作成

すべてのタスクを含めてタスクシーケンスを作成して、オペレーティングシステムイメージを構築およびキャプチャできます。K2000タスクエンジンは、ターゲットデバイス上でタスクを信頼性の高い順序で実行し、K2000アプライアンスおよびターゲットデバイスに関する展開のフィードバックをレポートします。タスクシーケンスを使用すると、どのイメージがどのデバイスに展開されたのかを表示し、デバイスで実行されているタスクの進行状況を表示できます。タスクが失敗した場合、ターゲットデバイスでそのタスクを編集できます。

ビルトインプレインストールタスクおよびビルトインポストインストールタスクを使用して、プレインストールタスクまたはポストインストールタスクとして実行できる独自のタスクをスクリプトに追加し、タスクシーケンスを作成できます。自動ブートアクションのスクリプト形式のインストール展開およびシステムイメージ展開用のタスクシーケンスを作成できます。また、マルチキャスト展開および手動展開用のタスクシーケンスも作成できます。

タスクシーケンスは、インストールプランのシステムイメージ詳細またはスクリプト形式のインストール詳細ページで作成します。タスクシーケンスを構築する場合、前提条件を必要とするアプリケーションの前に、前提条件を配置してください。

## プレインストールタスクの追加

ビルトインプレインストールタスクを追加し、アクションの選択メニューの選択肢を使用して、独自のタスクをスクリプトに追加し、プレインストールタスクとして実行できます。アプライアンスは、指定したランタイム環境でタスクを実行します。また、1つのファイルまたは複数のファイルを含むZIPアーカイブをアップロードして、プレインストールタスクとして実行することもできます。ビルトインタスクは複製およびカスタマイズできます。

## アプリケーションの追加

1つのファイルまたは複数のファイルを含むZIPアーカイブをアップロードして、プレインストールタスクとして実行できます。

1. 左側のナビゲーションペインで、ライブラリをクリックしてセクションを展開し、次にプレインストールタスクをクリックしてプレインストールタスクページを表示します。
2. アクションの選択 > アプリケーションの追加を選択し、プレインストールタスク詳細ページを表示します。
3. 名前に、タスクの論理名 ( Install Adobe Reader 11など ) を入力します。
4. 実行時環境を選択します。詳細については、[実行時環境について](#)を参照してください。
5. アップロードの隣にある参照をクリックして、該当するファイルを選択します。
6. パラメータで、タスクのコマンドラインパラメータを入力します。
7. アプライアンスを再起動してシーケンス内の次のタスクを実行するには、再起動が必要かどうかのチェックボックスを選択します。
8. メモに、タスクを識別するためのメモを追加します。
9. 保存をクリックします。

これで、スクリプト形式のインストール、Sysprepを実行済みのシステムイメージ、およびSysprepを実行していないシステムイメージ展開にタスクを割り当てるできるようになりました。



## BATスクリプトの追加

オペレーティングシステムのインストールまたはターゲットデバイスのイメージの再作成を実行する前に、独自のバッチスクリプトを作成して、K2000ブート環境 ( Windows ) でプレインストールタスクとして実行できます。

1. 左側のナビゲーションペインで、ライブラリ をクリックしてセクションを展開し、次に プレインストールタスク をクリックしてプレインストールタスク ページを表示します。
2. アクションの選択 > BATスクリプトの追加 を選択して、プレインストールタスク詳細 ページを表示します。
3. 名前 に、タスクを識別するための論理名を入力します。  
タスクはK2000ブート環境 ( Windows ) で実行されます。
4. BATスクリプト にスクリプトを入力します。

K2000ブート環境 ( KBE ) 内から使用可能な、一般的に使用される次のコマンドを使用できます。

- bcdedit.exe
- bootsect.exe
- chkdsk.exe
- format.com

5. メモ に、タスクを識別するためのメモを追加します。
6. 保存 をクリックします。

これで、スクリプト形式のインストール、Sysprepを実行済みのシステムイメージ、およびSysprepを実行していないシステムイメージ展開にタスクを割り当てることができるようになりました。

システムイメージの展開へのタスクの割り当てまたはスクリプト形式のインストール展開へのタスクの割り当てを参照してください。

## Windowsスクリプトの追加

K2000ブート環境 ( Windows ) の実行時環境で、Windowsスクリプトをプレインストールタスクとして実行できます。

1. 左側のナビゲーションペインで、ライブラリ をクリックしてセクションを展開し、次に プレインストールタスク をクリックしてプレインストールタスク ページを表示します。
2. アクションの選択 > Windowsスクリプトの追加 を選択し、プレインストールタスク詳細 ページを表示します。
3. 名前 に、タスクの論理名 ( Collect computer information before formattingなど ) を入力します。
4. アップロード の隣にある 参照 をクリックして、VBScriptまたはJavaScriptなどの適切なファイルを選択します。
5. メモ に、タスクを識別するためのメモを追加します。
6. 保存 をクリックします。

これで、スクリプト形式のインストール、Sysprepを実行済みのシステムイメージ、およびSysprepを実行していないシステムイメージ展開にタスクを割り当てることができるようになりました。

## シェルスクリプトの追加

オペレーティングシステムの展開またはターゲットデバイスのイメージの再作成を実行する前に、独自のシェルスクリプトを作成して、K2000ブート環境 ( Mac OS X ) でプレインストールタスクとして実行できます。

1. 左側のナビゲーションペインで、ライブラリ をクリックしてセクションを展開し、次に プレインストールタスク をクリックしてプレインストールタスク ページを表示します。
2. アクションの選択 > シェルスクリプトの追加 を選択し、プレインストールタスク詳細 ページを表示します。
3. 名前 に、タスクを識別するための論理名を入力します。  
タスクをK2000ブート環境 ( Mac OS X ) で実行します。
4. シェルスクリプト に、スクリプトを入力します。
5. メモ に、タスクを識別するためのメモを追加します。
6. 保存 をクリックします。

これで、スクリプト形式のインストール、Sysprepを実行済みのシステムイメージ、およびSysprepを実行していないシステムイメージ展開にタスクを割り当てることができるようになりました。

## DiskPartスクリプトの追加

K2000ブート環境 ( KBE ) から起動したWindowsデバイスに、DiskPartスクリプトを追加し、プレインストールタスクとして実行して、ハードドライブまたはパーティション上のすべてのデータを消去し、新しいパーティションを作成してドライブ文字を割り当てることができます。

このタスクの実行前に、保存するコンポーネントをバックアップします。

詳細については、[共通のDiskPartコマンドラインオプション](#)を参照してください。

1. 左側のナビゲーションペインで、ライブラリ をクリックしてセクションを展開し、次に プレインストールタスク をクリックしてプレインストールタスク ページを表示します。
2. アクションの選択 > DISKPARTスクリプトの追加 を選択し、プレインストールタスク詳細 ページを表示します。
3. 名前 に、このタスクを識別するための名前を入力します。例: Single NTFS Partition C。  
この名前は、スクリプト形式のインストール詳細 ページと システムイメージ詳細 ページに表示されるタスクの識別子です。
4. DISKPARTスクリプト で、次の例のように、デバイス上で作成するパーティションに従ってスクリプトを入力します。
  - ```
select disk 0
clean
create partition primary
select partition 1
active
assign
exit
```
5. メモ に、タスクを識別するためのメモを追加します。
6. 保存 をクリックします。

[スクリプト形式のインストール展開へのタスクの割り当て](#)または[システムイメージの展開へのタスクの割り当て](#)を参照してください。

## 共通のDiskPartコマンドラインオプション

DiskPartスクリプトを使用すると、オブジェクトの選択、ディスクのパーティションの削除、パーティションの作成、パーティションのアクティブ化、およびドライブ文字の割り当てを実行できます。

### オブジェクトの選択

- `select disk=[n]`
- `select partition=[n]`
- `select volume=[{n}d]`

パラメータnを使用して、選択するオブジェクトの数を指定します。また、dのようにドライブ文字を指定して、ボリュームを選択することもできます。

### ディスクのクリーンアップ

- `clean [all]`

ディスクからすべてのパーティションを削除します。allパラメータを指定すると、ディスク上のあらゆるセクターがゼロで埋められます。

### パーティションの作成

- `create partition primary [size=n] [offset=n]`
- `create partition extended [size=n] [offset=n]`
- `create partition logical [size=n] [offset=n]`

プライマリ、拡張、または論理パーティションを作成します。sizeを指定しない場合は、残りの使用可能な領域がパーティションに使用されます。offsetを指定しない場合は、最初の使用可能な領域でパーティションが作成されます。パーティションの作成後、そのパーティションは選択されます。

### 起動パーティションのマーク

- `active`

現在選択されているパーティションはactive、つまり起動可能なパーティションとしてマークされます。

### ドライブ文字の割り当て

- `assign [letter=d]`
- 現在選択されているパーティションにドライブ文字を割り当てます。letterを指定しない場合は、最初の使用可能な文字 (Cから開始) が使用されます。

## ポストインストールタスクの追加

ビルトインポストインストールタスクを追加し、アクションの選択メニューの選択肢を使用して、独自のタスクをスクリプトに追加し、ポストインストールタスクとして実行できます。アプライアンスは、指定したランタイム環境でタスクを実行します。また、1つのファイルまたは複数のファイルを含むZIPアーカイブをアップロードして、ポストインストールタスクとして実行することもできます。ビルトインタスクは複製およびカスタマイズできます。

## アプリケーションの追加

1つのファイルまたは複数のファイルを含むZIPアーカイブをアップロードして、ポストインストールタスクとして実行できます。

1. 左側のナビゲーションペインで、ライブラリ をクリックしてセクションを展開し、次に ポストインストールタスク をクリックして ポストインストールタスク ページを表示します。
2. アクションの選択 > アプリケーションの追加 を選択し、ポストインストールタスク詳細 ページを表示します。
3. 名前 に、タスクの論理名 ( Install Adobe Reader 11など ) を入力します。
4. 実行時環境を選択します。詳細については、[実行時環境について](#)を参照してください。
5. ファイルのアップロード の隣にある 参照 をクリックして、該当するファイルを選択します。
6. パラメータ で、タスクのコマンドラインパラメータを入力します。
7. アプライアンスを再起動してシーケンス内の次のタスクを実行するには、再起動が必要です のチェックボックスを選択します。
8. メモ に、タスクを識別するためのメモを追加します。
9. 保存 をクリックします。

これで、スクリプト形式のインストール、Sysprepを実行済みのシステムイメージ、およびSysprepを実行していないシステムイメージ展開にタスクを割り当てることができるようになりました。

## BATスクリプトの追加

オペレーティングシステムのインストールまたはターゲットデバイスのイメージの再作成を実行した後に、独自のバッチスクリプトを作成して、Windows用のK2000ブート環境またはWindows実行時環境でポストインストールタスクとして実行できます。

1. 左側のナビゲーションペインで、ライブラリ をクリックしてセクションを展開し、次に ポストインストールタスク をクリックして ポストインストールタスク ページを表示します。
2. アクションの選択 > BATスクリプトの追加 を選択します。  
ポストインストールタスク詳細 ページが表示されます。
3. 名前 に、タスクの論理名を入力します。
4. 実行時環境を選択します。詳細については、[実行時環境について](#)を参照してください。
5. BATスクリプト にスクリプトを入力します。
6. アプライアンスを再起動してシーケンス内の次のタスクを実行するには、再起動が必要です のチェックボックスを選択します。
7. メモ に、タスクを識別するためのメモを追加します。
8. 保存 をクリックします。

これで、スクリプト形式のインストール、Sysprepを実行済みのシステムイメージ、およびSysprepを実行していないシステムイメージ展開にタスクを割り当てることができるようになりました。

## 命名規則の追加

命名データベーステキストファイルをセットアップして、デバイスに名前を割り当て、ポストインストールタスクを使用して、ファイルをアプライアンスにアップロードできます。

次の形式を使用して、命名データベースファイルをセットアップします。

```
mac_address = hostname
```

例 : 001122334455 = workstation55

アプライアンスは、Workstation Name Changerツールを使用します。このツールは、互換性のあるテキストファイルで、命名データベースで指定したコマンドラインパラメータを使用して、デバイスに固有の名前を割り当てます。詳細については、<http://newstuff.clarke.co.nz/wsname>を参照してください。

1. 左側のナビゲーションペインで、ライブラリ をクリックしてセクションを展開し、次に ポストインストールタスク をクリックして ポストインストールタスク ページを表示します。
2. アクションの選択 > 命名規則の追加 を選択し、ポストインストールタスク詳細 ページを表示します。
3. 名前に、タスクの論理名 ( Assign name to workstation など ) を入力します。
4. ファイルのアップロード の隣にある 参照 をクリックして、該当するファイルを選択します。
5. アプライアンスを再起動してシーケンス内の次のタスクを実行するには、再起動が必要 です のチェックボックスを選択します。
6. 保存 をクリックします。

これで、スクリプト形式のインストール、Sysprepを実行済みのシステムイメージ、およびSysprepを実行していないシステムイメージ展開にタスクを割り当てることができるようになりました。

[スクリプト形式のインストール展開へのタスクの割り当てまたはシステムイメージの展開へのタスクの割り当て](#)を参照してください。

## K1000エージェントインストーラーの追加

K1000エージェントファイルをローカルディレクトリにダウンロードして、インストーラーを1つのファイルまたはZIPアーカイブとしてアップロードし、ポストインストールタスクとして実行できます。アプライアンスは、指定したランタイム環境でタスクを実行します。

ターゲットデバイスにインストールしたK1000エージェントのKUIDが維持されていない場合、KUIDをK1000エージェントに適用 ポストインストールタスクを割り当てて、K1000アプライアンスの資産の重複を防止できます。K1000エージェントソフトウェアは、\\K1000\_host\_name\client\agent\_provisioningディレクトリにあります。使用できるコマンドラインオプションとエージェント設定のプロパティについては、『K1000管理者ガイド』を参照してください。K1000エージェント5.4以降では、インストールに.NET 4.0は不要です。

1. 左側のナビゲーションペインで、ライブラリ をクリックしてセクションを展開し、次に ポストインストールタスク をクリックして ポストインストールタスク ページを表示します。
2. アクションの選択 > K1000エージェントインストーラーの追加 を選択し、K1000エージェントインストーラー詳細 ページを表示します。
3. 名前 で、タスクを識別するために名前を変更します ( 例: K1000 Agent for Windows )。
4. 実行時環境を選択します。詳細については、[実行時環境について](#)を参照してください。
5. アップロード の隣にある 参照 をクリックして、該当するファイルを選択します。
6. パラメータ で、タスクのコマンドラインパラメータを入力します。
7. アプライアンスを再起動してシーケンス内の次のタスクを実行するには、再起動が必要 です のチェックボックスを選択します。
8. 保存 をクリックします。

これで、スクリプト形式のインストール、Sysprepを実行済みのシステムイメージ、およびSysprepを実行していないシステムイメージ展開にタスクを割り当てることができるようになりました。

[スクリプト形式のインストール展開へのタスクの割り当てまたはシステムイメージの展開へのタスクの割り当て](#)を参照してください。

## カスタムHAL置換タスクの追加

ポストインストールタスクを使用して、ハードウェア抽象レイヤ ( HAL ) を置換し、ターゲットデバイスのHALをカスタマイズできます。

HAL置換は、システムイメージのみをサポートします。

1. 左側のナビゲーションペインで、ライブラリ をクリックしてセクションを展開し、次に ポストインストールタスク をクリックして ポストインストールタスク ページを表示します。
2. アクションの選択 > カスタムHAL置換タスクの追加 を選択し、ポストインストールタスク詳細 ページを表示します。
3. 名前 に、タスクの論理名を入力します。  
タスクはK2000ブート環境 ( Windows ) で実行されます。
4. 参照 をクリックして、次のファイルをアップロードします。
  - HAL DLLのアップロード
  - NTKRNLP.A.EXEのアップロード
  - NTOSKRNL.EXEのアップロード

**i** 注: ファイル名が アップロード フィールドに表示されている名前と異なる場合、ファイルをアプライアンスにアップロードすると、ファイル名が変更されます。

これらのファイルは、このポストインストールタスクの一部としてターゲットデバイスのWindows \System32ディレクトリにコピーされます。

5. メモ に、タスクを識別するためのメモを追加します。
6. 保存 をクリックします。

これで、スクリプト形式のインストール、Sysprepを実行済みのシステムイメージ、およびSysprepを実行していないシステムイメージ展開にタスクを割り当てることができるようになりました。

詳細については、[システムイメージの展開へのタスクの割り当て](#)を参照してください。

## Windowsスクリプトの追加

K2000ブート環境 ( Windows ) の実行時環境またはWindows実行時環境で、Windowsスクリプトをポストインストールタスクとして実行できます。

1. 左側のナビゲーションペインで、ライブラリ をクリックしてセクションを展開し、次に ポストインストールタスク をクリックして ポストインストールタスク ページを表示します。
2. アクションの選択 > Windowsスクリプトの追加 を選択し、ポストインストールタスク詳細 ページを表示します。
3. 名前 に、タスクの論理名 ( Install Adobe Reader 11など ) を入力します。
4. 実行時環境を選択します。詳細については、[実行時環境について](#)を参照してください。
5. ファイルのアップロード の隣にある 参照 をクリックして、該当するファイルを選択します。
6. アプライアンスを再起動してシーケンス内の次のタスクを実行するには、再起動が必要です のチェックボックスを選択します。
7. メモ に、タスクを識別するためのメモを追加します。
8. 保存 をクリックします。

これで、スクリプト形式のインストール、Sysprepを実行済みのシステムイメージ、およびSysprepを実行していないシステムイメージ展開にタスクを割り当てることができるようになりました。

## サービスパックの追加

サービスパックは、オペレーティングシステムで使用可能になると、ローカルネットワークおよびリモートネットワーク上のデバイスに自動的にインストールできます。別の場所にサービスパックを保存している場合、それらのサービスパックを参照し、手動でアップロードできます。

サービスパックタスクは、オペレーティングシステムから起動した後に、Windows環境で実行します。

1. 左側のナビゲーションペインで、ライブラリ をクリックしてセクションを展開し、次に ポストインストールタスク をクリックして ポストインストールタスク ページを表示します。
2. アクションの選択 > サービスパックの追加 を選択し、ポストインストールタスク詳細 ページを表示します。
3. 名前 に、タスクを識別するための論理名を入力します。
4. サービスパックを自動または手動でダウンロードします。

- サービスパック ドロップダウンリストから、サービスパックを選択し、サービスパックを自動ダウンロード をクリックします。

コマンドライン フィールドには、サービスパックの選択に基づいて推奨パラメータが自動的に入力されます。このコマンドラインを修正する場合は、サービスパックのファイル名を含めます。

- サービスパックの手動アップロード を選択し、参照 をクリックしてファイルをアップロードします。詳細については、[ファイルのアップロードについて](#)を参照してください。

**i** 注: サービスパックを手動でアップロードする場合は、パラメータ でコマンドラインパラメータを入力してサービスパックを実行します。

5. アプライアンスを再起動してシーケンス内の次のタスクを実行するには、再起動が必要であるのチェックボックスを選択します。
6. 保存 をクリックします。

これで、スクリプト形式のインストール、Sysprepを実行済みのシステムイメージ、およびSysprepを実行していないシステムイメージ展開にタスクを割り当てることができるようになりました。

[スクリプト形式のインストール展開へのタスクの割り当てまたはシステムイメージの展開へのタスクの割り当て](#)を参照してください。

## ファイルのアップロードについて

1つのファイルまたは複数のファイルを含むZIPアーカイブをアップロードして、プレインストールタスクまたはポストインストールタスクとして実行できます。アプライアンスは、指定したランタイム環境でタスクを実行します。

## 実行時環境について

K2000アプライアンスタスクエンジンがいつタスクを実行するかは、実行時環境によって決定されます。

| 実行時環境                   | 説明                                        |
|-------------------------|-------------------------------------------|
| K2000ブート環境 ( Windows )  | オペレーティングシステムの初回起動前に実行します。                 |
| Windows                 | Windowsオペレーティングシステムの初回起動後に実行します。          |
| K2000ブート環境 ( Mac OS X ) | オペレーティングシステムの初回起動前に実行します。                 |
| Mac OS X                | ログインフックを使用して、Macオペレーティングシステムの初回起動時に実行します。 |

# タスクのエラー処理オプションの設定

Windowsオペレーティングシステムを搭載したデバイスに、タスクのエラー処理を設定し、エラー発生時にプロンプトを表示するか、処理を続行するかを設定できます。また、キャンセル ボタンを有効にすると、ターゲットデバイスに表示して、失敗したタスクをキャンセルすることもできます。

1. 次の手順のいずれかを実行します。
  - 左側のナビゲーションペインで、展開 > システムイメージ を選択し、システムイメージ ページを表示します。次に、システムイメージ名をクリックして、システムイメージ詳細 ページを表示します。
  - 左側のナビゲーションペインで、展開 > スクリプト形式のインストール を選択し、スクリプト形式のインストール ページを表示します。次に、スクリプト形式のインストール名をクリックし、スクリプト形式のインストール詳細 ページを表示します。
2. 名前 に、エラー処理オプションを設定する展開を選択します。  
スクリプト形式のインストール詳細 ページまたは システム詳細 ページが表示されます。
3. 以下からタスクのエラー処理オプションを選択します。
  - エラー発生時のプロンプト: タスクエラー ページを開きます。このページでは、キャンセルまたは続行するオプションを使用して、ターゲットデバイスの編集、タスクの再試行、展開の再開、またはデバイスの再起動を行うことができます。
  - エラー発生時に操作を続行: プロンプトを表示せずに展開を続行します。
4. クライアントに「キャンセル」ボタンを表示 チェックボックスをオンにして、ターゲットデバイスの タスクエンジン ページに キャンセル ボタンを表示します。

## システムイメージの展開へのタスクの割り当て

システムイメージの展開を実行するために必要な ( または必須の )、K2000またはリモート ( RSA ) アプライアンスで実行する手順を設定できます。プレインストールタスクはオペレーティングシステムのセットアップを開始する前に実行されます。ポストインストールタスクはオペレーティングシステムが展開され、ターゲットデバイスへの最初のログインが行われた後に実行されます。

1. 左側のナビゲーションペインで、展開 をクリックし、次に システムイメージ をクリックして、システムイメージ ページを表示します。
2. イメージを選択して、システムイメージ詳細 ページを表示します。
3. インストールプラン で、タスクを実行順に追加します。
  - a. 使用可能なプレインストールタスク 列から 実行するプレインストールタスク 列にタスクを追加します。

**i** 注: Cのフォーマット タスクが シングルパーティションの作成 タスクの後にあることを確認してください。

  - b. 使用可能な中レベルのタスク 列から 中レベルのタスクを実行する 列にタスクを追加します。
  - c. 使用可能なポストインストールタスク 列から 実行するポストインストールタスク 列にタスクを追加します。
4. 保存 をクリックします。
5. RSAのみ。新しく編集されたシステムイメージを展開する前に、そのイメージを保存して関連するK2000アプライアンスと同期する必要があります。



- a. K2000アプライアンス管理者コンソールの左側のナビゲーションペインで、展開 > リモートサイトの順にクリックします。
- b. リモートサイト ページで、編集したシステムイメージのキャプチャに使用したRSAをクリックします。
- c. 表示された リモートサイト詳細 ページで、保存と同期 をクリックします。

編集したシステムイメージがRSAから展開できるようになります。システムイメージの展開方法の詳細については、[イメージの手動展開](#)を参照してください。

## スクリプト形式のインストール展開へのタスクの割り当て

スクリプト形式のインストール展開を実行するためにアプライアンスが実行する手順を設定できます。プレインストールタスクはオペレーティングシステムのセットアップを開始する前に実行されます。ポストインストールタスクはオペレーティングシステムが展開され、ターゲットデバイスへの最初のログインが行われた後に実行されます。

1. 左側のナビゲーションペインで、展開 をクリックし、次に スクリプト形式のインストール をクリックして、スクリプト形式のインストール ページを表示します。
  2. スクリプト形式のインストールを選択して、スクリプト形式のインストール詳細 ページを表示します。
  3. インストールプラン で、タスクを実行順に追加します。
    - a. 使用可能なプレインストールタスク 列から 実行するプレインストールタスク 列にタスクを追加します。
- i** | 注: Cのフォーマット タスクが シングルパーティションの作成 タスクの後にあることを確認してください。
- b. 使用可能な中レベルのタスク 列から 中レベルのタスクを実行する 列にタスクを追加します。
  - c. 使用可能なポストインストールタスク 列から 実行するポストインストールタスク 列にタスクを追加します。
4. 保存 をクリックします。


## 展開タスクの編集


システムイメージまたはスクリプト形式のインストール展開に関連付けられたタスクを編集できます。各タスクは、システムイメージまたはスクリプト形式のインストール展開を実行するためにアプライアンスが実行する手順を表します。プレインストールタスクはオペレーティングシステムのセットアップを開始する前に実行されます。ポストインストールタスクはオペレーティングシステムが展開され、ターゲットデバイスへの最初のログインが行われた後に実行されます。

システムイメージ展開タスクのみ。K2000アプライアンス管理者コンソールを使用している場合、システムイメージ展開タスクのみを編集できます。KACEリモートサイトアプライアンスでは、タスクパラメータを編集できません。これは、KACEリモートサイトアプライアンスのシステムイメージ詳細 ページには関連するK2000ア

プライアンスに存在するすべてのタスクが表示されるので、K2000アプライアンスの管理者コンソールでのみこれらのタスクを編集できるためです。

1. 次の手順のいずれかを実行します。
  - 左側のナビゲーションペインで、展開 > システムイメージ を選択し、システムイメージ ページを表示します。次に、システムイメージ名をクリックして、システムイメージ詳細 ページを表示します。
  - 左側のナビゲーションペインで、展開 > スクリプト形式のインストール を選択し、スクリプト形式のインストール ページを表示します。次に、スクリプト形式のインストール名をクリックし、スクリプト形式のインストール詳細 ページを表示します。

2. インストールプラン で、編集するタスクを指定して  をクリックします。

 **注:** タスクに添付されているファイルのみ置き換えが可能です。または、タスクのパラメータを変更できます。タスク名と実行時環境は変更できません。

ダイアログボックスが開き、タスクの詳細が表示されます。

3. 必要に応じてタスクを編集します。

| オプション | 説明                                               |
|-------|--------------------------------------------------|
| ファイル  | タスクに関連付けられたファイルを置き換えるには、置換 をクリックし、適切なファイルを選択します。 |
| パラメータ | 必要に応じて、タスクパラメータを編集します。                           |
| メモ    | タスクに関するメモを追加します。例: Johnのパーティション作成のタスク            |

4. BAT スクリプトのみ。BATスクリプト ボックスに、BATスクリプトの名前を入力します。
5. DISKPART スクリプトのみ。DISKPARTスクリプト ボックスに、DISKPARTスクリプトの名前を入力します。
6. 保存 をクリックしてダイアログボックスを閉じます。
7. システムイメージ詳細 または スクリプト形式のインストール詳細 ページで、保存 をクリックします。

# 展開の自動化

K2000ブートアクションは、スクリプト形式のインストール、システムイメージ、およびマルチキャストWIMとDMGイメージの展開を自動化します。これは、次回、ターゲットデバイスがスケジュールされた時刻にK2000ブート環境 ( KBE ) またはNetBoot環境でネットワーク起動するときに、展開を開始することによって達成されます。

アプライアンスのブートプロセスでは、アプライアンスがデバイスをMACアドレスで識別するので、デバイスのネットワークインターフェイスカード ( NIC ) がBIOSのブート順に登録されている必要があります。

ブートアクションは1台のデバイス用または複数台のデバイス用に作成できます。また、ブートアクションのスケジュールを管理することにより、複数のブートアクションを同じデバイスに割り当てることもできます。

既存のブートアクションを変更すると、以前の情報を持つブートアクションが自動的に削除されます。

## ブートアクションの作成

ブートアクションを作成して、デバイスインベントリ や ネットワークインベントリ にあるデバイス、スキャンされたデバイス、または既知のMACアドレスを持つ任意のデバイスに対するスクリプト形式のインストール、システムイメージ、K2000ブート環境およびNetBoot環境の展開を自動化できます。

1. 左側のナビゲーションペインで、展開 をクリックして、自動展開 ページを表示します。
2. アクションの選択 > 新しいブートアクション を選択して、自動展開の詳細 ページを表示します。



**注:** 展開のスケジュールを管理することにより、複数のブートアクションを同じデバイスに割り当てることができます。

3. ブートアクションの詳細 で以下を実行します。
  - a. ブートアクションに 名前 を割り当てます。
  - b. 取得元 ボックスで、K2000または自動化する展開を含んだリンク先RSAアプライアンスを選択します。
  - c. 展開 ドロップダウンリストから展開を選択します。

システムイメージのみ。システムイメージのリストは、取得元 ボックスでの選択内容に応じて異なります。

- K2000アプライアンスを選択した場合、リストにはアプライアンスに存在するすべてのシステムイメージが表示されます。
- RSAを選択した場合、RSAと同期されたすべてのイメージと、RSAがキャプチャしたすべてのイメージが表示されます。

Windowsマルチキャスト展開の場合はWIMイメージのみを使用し、Mac OS Xマルチキャスト展開の場合はDMGのみを使用してください。

- d. メモ を追加し、ブートアクションを識別できるようにします。
4. オプション > スケジュール で、次のいずれかを選択して展開を実行します。
    - a. 次のブートで実行する: 次のネットワーク起動で展開を開始します。
    - b. 後で実行するようにスケジュールする: 日付と時刻を指定します。一度実行: 毎 ( 日 )、特定時刻に実行: H ( 時 )、M ( 分 )。繰り返し実行する を選択すると、指定した時間に展開が毎日実行されます。
  5. オプション > タイプ で、ユニキャスト展開またはマルチキャスト展開を選択します。



注: マルチキャストASR展開を後で実行するようにスケジュールすることはできません。

6. マルチキャスト展開を選択する場合:
  - a. オプション: 接続の「受信準備完了」状態待機のタイムアウトでタイムアウト値を増やして、ターゲットデバイスがネットワーク起動するのに許容される時間を長くします。デフォルトは10分です。
  - b. 高度な設定の表示をクリックして、デフォルトのマルチキャストアドレス、コントロールチャンネルポート、マルチキャストホップ、伝送速度、およびログレベルを変更します。
  - c. これらの設定を使用して自動展開を実行するには、これらをデフォルト設定にするチェックボックスを選択します。

マルチキャスト設定の詳細については、[デフォルトマルチキャスト設定の編集](#)を参照してください。

7. オプション: マルチキャスト展開の場合、接続の受信準備完了状態待機のタイムアウトでタイムアウト値を増やして、ターゲットデバイスがネットワーク起動するのに許容される時間を長くします。デフォルトは10分です。高度な設定の表示をクリックして、この展開のデフォルトのマルチキャストアドレス、コントロールチャンネルポート、および伝送速度を変更します。
8. デバイスで、1つまたは複数のMACアドレスを入力するか、すべて表示ドロップダウンリストからデバイスを選択して、デバイスを展開に追加します。

タイプ別にデバイスをフィルタリングして、指定された条件を満たすデバイスを表示できます。

9. 保存をクリックします。

自動展開 ページにブートアクションがリストされます。

## 次回のネットワーク起動での展開の実行

1台または複数台のターゲットデバイスが次回K2000ブート環境 (KBE) で起動するときに、オペレーティングシステムのスクリプト形式のインストールまたはシステムイメージの展開を開始できます。

1. 左側のナビゲーションペインで、展開 をクリックして、自動展開 ページを表示します。
2. 名前 で、ブートアクションを選択して、自動展開の詳細 ページを表示します。
3. 次回のネットワーク起動時にイメージを展開するには、オプション > スケジュール で 次のブートで実行する を選択します。
4. 保存 をクリックします。

左側のナビゲーションペインで、進行状況 をクリックして現在実行中の自動展開のステータスを表示するか、監査ログ をクリックして完了した自動展開のステータスを表示します。

## ブートアクションの修正

デバイスへのブートアクションの追加、デバイスの削除、スケジュールオプションの変更、WIMとDMGイメージに関するユニキャスト展開とマルチキャスト展開の切り替え、およびブートアクションの名前変更を行うことができます。ブートアクションのイメージを変更することはできません。

1. 左側のナビゲーションペインで、展開 をクリックして、自動展開 ページを表示します。
2. 名前 で、ブートアクションを選択して、自動展開の詳細 ページを表示します。
3. ブートアクションに必要な変更を行います。
4. 保存 をクリックします。

自動展開 ページにブートアクションがリストされます。

# デフォルトのブートアクションの設定

デフォルトでは、K2000のデバイスインベントリにないデバイスは、K2000のメインメニューから起動します。例えば、スキャンされたネットワーク上のデバイスは、K2000ネットワークインベントリに表示されます。K2000デバイスインベントリまたはK2000ネットワークインベントリにないデバイスに対してはハードドライブから起動するようにブートアクションを設定できます。

1. 左側のナビゲーションペインで、設定 をクリックして コントロールパネル を表示し、次に 一般設定 をクリックして 一般設定 ページを表示します。
2. デフォルトのブートアクション を次のいずれかのオプションに設定します。
  - K2000デバイスインベントリにないデバイスに対しては、K2000メインメニューで起動。
  - KBEで起動したことがないデバイスに対しては、ハードドライブで起動。ネットワークインベントリにないデバイスも同様です。
3. 保存 をクリックします。

# 展開のスケジュール

1台または複数台のデバイスに対して、システムイメージまたはスクリプト形式のインストール展開を後で実行するようにスケジュールできます。また、同一のデバイスに複数の展開をスケジュールすることもできます。Mac OS Xのイメージ展開を後で実行するようにスケジュールすることはできません。

展開をスケジュールするときに、デバイスを追加または削除できます。

1. 左側のナビゲーションペインで、展開 をクリックして、自動展開 ページを表示します。
2. アクションの選択 > 新しいブートアクション を選択するか、既存のブートアクションを選択して、自動展開の詳細 ページを表示します。
3. オプション > スケジュール で、次のいずれかを選択して展開を実行します。
  - a. 次のブートで実行する: 次のネットワーク起動で展開を開始します。
  - b. 後で実行するようにスケジュールする: 日付と時刻を指定します。一度実行: 毎 ( 日 )、特定時刻に実行: H ( 時 )、M ( 分 )。繰り返し実行する を選択すると、指定した時間に展開が毎日実行されます。
4. 保存 をクリックします。

# ブートアクションの削除

ブートアクションが不要になった場合またはディスク領域を節約するために、ブートアクション展開を削除できます。

1. 左側のナビゲーションペインで、展開 をクリックして、自動展開 ページを表示します。
2. 削除するブートアクション展開を選択します。
3. アクションの選択 > 削除 を選択します。
4. はい をクリックして確定します。

# マルチキャストWIMイメージの展開の作成

WIMイメージのマルチキャスト展開を作成して、1つのイメージを複数のデバイスに同時に送信できます。ネットワーク上のルーターがマルチキャストに対応し、ターゲットデバイスのハードディスクにイメージを保持するための空き領域がある場合は、マルチキャスト展開によりネットワーク帯域幅が削減されます。マルチキャスト展開でサポートされているのは、シングルパーティションイメージだけです。

マルチキャストするWIMイメージごとにブートアクションを作成します。

**i** | 注: マルチキャスト展開は、一度に1回のみ実行できます。

マルチキャストイメージがターゲットデバイスに到達できるようにするためのハードウェア設定変更が、使用しているネットワークで必要かどうかを確認します。マルチキャストDMGイメージ展開の作成の詳細については、[マルチキャストDMGイメージの展開の作成](#)を参照してください。

**i** | 注: 固有のルーターおよびスイッチの詳細については、<http://www.itninja.com/community/dell-kace-k2000-deployment-appliance>を参照してください。

1. 左側のナビゲーションペインで、展開 をクリックして、自動展開 ページを表示します。
2. 名前 で、リストから展開を選択して、自動展開の詳細 ページを表示します。リストに展開が表示されない場合は、[ブートアクションの作成および展開のスケジュール](#)を参照してください。
3. オプション: ブートアクションの詳細 で、ブートアクションを識別するために、名前を変更するか、メモを追加します。
4. オプション > タイプ で マルチキャスト を選択します。

オプション: 高度な設定の表示 をクリックして、この展開用にデフォルトのマルチキャスト設定を変更します。すべてのマルチキャスト展開の設定を変更するには、[デフォルトマルチキャスト設定の編集](#)を参照してください。

5. デバイス > 選択したデバイス で、MACアドレスをクリックするか選択します。複数のMACアドレスの貼り付け を選択して複数のアドレスを貼り付けたり、タイプ別にデバイスをフィルタして、すべて表示 ドロップダウンリストから特定の基準に一致するデバイスを表示したりすることもできます。
6. 保存 をクリックします。

自動展開 ページにブートアクションがリストされます。

左側のナビゲーションペインで、展開 をクリックします。次に システムイメージ をクリックし、ブートアクションに割り当てられているイメージを選択してプレインストールタスクとポストインストールタスクを追加し、エラー処理を設定します。

## デフォルトマルチキャスト設定の編集

デフォルトマルチキャスト設定に対して行った変更は、すべての新規マルチキャスト展開に適用されます。

マルチキャスト設定は、展開ごとに変更できます。展開 ページに移動し、ブートアクションを選択して自動展開の詳細 ページを表示します。次に 高度な設定の表示 をクリックします。

1. 左側のナビゲーションペインで、設定 をクリックしてコントロールパネルを表示し、次に デフォルトマルチキャスト設定 をクリックしてデフォルトマルチキャスト設定 ページを表示します。
2. すべてのターゲットデバイスが接続するまでアプライアンスが待機する時間について、接続の受信準備完了状態待機のタイムアウトを変更します。デフォルトは10分です。



注: タスクの実行またはデバイスの起動に要する可能性のある接続時間を考慮します。タイムアウトを10分に設定し、5分後に1台のデバイスだけが接続した場合、アプライアンスは、残りのデバイスが接続するまで待機する時間を10分にリセットします。

3. Multicast Protocolは、ご使用の環境の必要に応じて以下のいずれかを選択します。

- Pragmatic General Multicast (PGM)
- NACK-Oriented Reliable Multicast (NORM)

PGMでは高速のデータ転送が提供されるようですが、NORMでは通常、より高い伝送速度での処理が可能であり、一般的にはより信頼性が高くなります。適切なプロトコルを選択します。

4. 別のサービスがデフォルトアドレスを使用している場合は、別のIPv4マルチキャストアドレスを設定します。
5. ネットワーク上の別のデバイスがポート2112を使用している場合、コントロールチャンネルポート フィールドに別のポート番号を指定します。
6. マルチキャストホップ フィールドには、サブネットでのマルチキャストホップ数を入力します。デフォルト値は1ですが、必要に応じて変更できます。
7. 必要に応じて、伝送速度 をより低い値に設定します。

伝送速度によっては、展開が成功したり失敗したりします。デフォルトは8 MBです。

8. デフォルトのインストールの設定に戻すには、出荷時設定の再適用 をクリックします。
9. 次のいずれかのオプションを選択して、ログレベル を必要に応じて調整します。
- 致命的なエラーのみ
  - 致命的なエラーと警告
  - トレースロギング
  - 詳細ロギング
  - Verboseロギング
10. 保存 をクリックします。

## 進行中の自動展開の表示

現在実行中の自動展開の進行状況、割り当てられたタスクのステータス、およびどのイメージがどのデバイスに展開されたかを表示できます。

1. 左側のナビゲーションペインで、進行状況 をクリックして現在実行中の展開を表示します。
2. 名前 で、ブートアクションを選択して、自動展開の詳細 ページを表示します。
3. デバイス メニューバーで、詳細 をクリックして、割り当てられたタスクのステータスを表示します。

左側のナビゲーションペインで、監査ログ をクリックして、完了した自動展開の成功または失敗を表示します。

## 完了した自動展開の表示

完了した自動展開の成功または失敗、割り当てられたタスクのステータス、およびどのイメージがどのデバイスに展開されたかを表示できます。

1. 左側のナビゲーションペインで、監査ログ をクリックします。
2. 名前 で、ブートアクションを選択して、ブートアクションログの詳細 ページを表示します。
3. デバイス メニューバーで、詳細 をクリックして、割り当てられたタスクのステータスを表示します。

展開が失敗したデバイスに対しては、イメージを個別に再展開する必要があります。

## 失敗したタスクの編集

タスクが失敗した場合、失敗したデバイスからタスクを編集できます。

VNCまたはリモートデスクトップ接続を使用して、ターゲットデバイスに接続します。



注: クライアントタスクエラー画面が表示されるのは、Windowsオペレーティングシステムを搭載したターゲットデバイスのみです。

1. 次のいずれかのオプションを選択します。
  - コマンドプロンプトを開き、デバイスでコマンドを実行します。
  - メモ帳を開き、ファイルを修正します。
  - Tasks.xmlファイルのメモ帳による編集を開き、Tasks.xmlファイルを変更します。
  - レジストリの編集で、OS設定情報を変更します。
  - 失敗したタスクの再試行で、タスクを再実行します。
  - タスク実行の再開で、失敗したタスクにより展開を続行します。
  - マシンの再起動で、展開を再開します。
  - マシンのシャットダウンで、デバイスの電源をオフにします。



注: アプライアンスの監査ログページで失敗したタスクを表示することができます。

## 自動展開イメージ詳細の表示

自動ブートアクション展開に割り当てられているイメージの詳細を表示できます。

1. 左側のナビゲーションペインで、進行状況をクリックして、自動展開の進行状況ページを表示します。
2. 展開メニューオプションで、ブートアクション用のイメージを選択してシステムイメージ詳細ページまたはスクリプト形式のインストール詳細ページを表示します。



# 手動展開の実行

USBフラッシュデバイスを使用することにより、イメージを手動で展開できます。手動展開は、ターゲットデバイスがネットワークに接続されていない場合、ソースメディアから直接展開する場合、およびUEFIイメージを展開する場合に役立ちます。

K2000ブート環境またはNetBoot環境をUSBデバイスに読み込んだ後に、イメージをアプライアンスからUSBデバイスにダウンロードできます。

ブート環境およびイメージをUSBデバイスに読み込んだ後に、USBデバイス上でK2000ドライバの共有ディレクトリ構造を作成し、必要なドライバを追加します。ブート環境、イメージ、およびドライバに関するUSBデバイスの設定が完了したら、ターゲットデバイスをブート環境で起動できます。

WindowsデバイスをK2000ブート環境で起動すると、KBEのメインメニューがすぐに表示され、イメージのキャプチャおよび展開を行うためのメニューオプションが表示されます。

Mac OS XデバイスをNetBoot環境で起動すると、K2000イメージングユーティリティがすぐに表示され、イメージのキャプチャおよび展開を行うためのメニューオプションが表示されます。

## USBデバイスへのブート環境のインストール

UEFIイメージの展開用およびデバイスがネットワークに接続されていない場合の手動展開用に、K2000ブート環境 (KBE) をUSBフラッシュデバイスにダウンロードできます。

K2000ブート環境をダウンロードする場合、ダウンロードするKBEにすべての必須ドライバが含まれていることを検証します。KBEをダウンロードする前にドライバの追加または削除を行った場合、KBEを再構築する必要があります。

1. 左側のナビゲーションペインで、展開 をクリックし、次に ブート環境 をクリックして、ブート環境 ページを表示します。
2. USBフラッシュデバイスにインストールするブート環境を選択して、ブート環境詳細 ページを表示します。
3. このブート環境用の起動可能なUSBフラッシュドライブイメージの作成 チェックボックスをオンにして、ファイルを保存します。

このプロセスは起動可能なUSBイメージを作成し、ステータスに 完了しました と表示します。

4. ブート環境詳細 ページで この起動環境用の起動可能なUSBフラッシュドライブイメージのダウンロードを選択し、保存 をクリックします。
5. ダウンロードした.zipファイルが格納されているディレクトリに移動し、ファイルを解凍します。
6. USBフラッシュデバイスをイメージのコピー元となるデバイスに挿入します。
7. 抽出したファイルが格納されているディレクトリに移動し、install.exeをクリックします。

ブート環境 ページが表示されます。

8. フラッシュドライブを選択し、次に、NTFSまたはFAT32/UEFIのいずれかのファイルシステムフォーマットを選択して、フォーマットとインストール をクリックします。

フラッシュデバイスにブート環境が作成されます。

# USBフラッシュデバイスへのイメージのコピー

K2000ブート環境を読み込み済みの起動可能なUSBフラッシュデバイスを作成したら、イメージをアプライアンスからUSBデバイスにコピーして、イメージをUSBデバイスから手動で展開できます。

展開するキャプチャ済みのイメージが、Dドライブではなく、Cドライブからキャプチャされていることを確認します。Dドライブからキャプチャされていると、USBデバイスをターゲットデバイスに挿入したときに、K2000 USBイメージは、イメージをCドライブではなく、USBデバイスにインストールします。

1. 左側のナビゲーションペインで、展開 をクリックし、次に システムイメージ をクリックして、システムイメージ ページを表示します。
2. 名前 で、該当するイメージを選択して、システムイメージ詳細 ページを表示します。
3. このシステムイメージ用の起動可能なUSBフラッシュドライブイメージの作成 チェックボックスをオンにします。
4. 保存 をクリックします。

バックグラウンドプロセスが、このシステムイメージ用のインストーラの構築を開始します。

USBフラッシュドライブインストーラー ページに、USBイメージをフラッシュドライブに構築するための手順が表示されます。

## USBデバイスドライバディレクトリの作成

USBデバイスは、K2000アプライアンスの共有ディレクトリのドライバに対して接続およびマウントを行います。USBデバイスにdrivers共有ディレクトリ構造を手動で作成して、アプライアンスのdrivers共有ディレクトリのコンテンツをUSBデバイスにコピーできます。

バージョン3.6以上の場合:

1. usb:\KACE\を参照し、drivers\_postinstallディレクトリが存在することを確認します。存在しない場合、drivers\_postinstallディレクトリを作成します。
2. アプライアンスのdrivers\_postinstall共有ディレクトリ (例えば、\\k2000\drivers\_postinstall ) にアクセスします。
3. feed\_toolsディレクトリのコンテンツをK2000のdrivers\_postinstallディレクトリからUSBデバイスのdrivers\_postinstallディレクトリにコピーします。

## USBイメージへのドライバの追加

イメージをUSBデバイスから展開し、デバイスがアプライアンスのdrivers\_postinstall共有ディレクトリに対して接続およびマウントを行っていない場合、ドライバをUSBデバイスに手動でコピーできます。これを行うには、ドライバをアプライアンスにインポートし、ドライバを追加するための中レベルのポストインストールタスクを作成します。

USBイメージ展開へのドライバの追加の詳細については、<https://support.quest.com/kb/SOL111365>を参照してから、KACEシステム展開アプライアンス管理者コンソールにログインしてください。

1. 左側のナビゲーションペインで、**設定** をクリックしてセクションを展開し、次に **パッケージ管理** をクリックして K2000パッケージのインポート をクリックします。
2. インポートするパッケージを選択します。
3. アクションの選択 > 選択内容をインポート を選択します。
4. 左側のナビゲーションペインで、**展開** をクリックし、次に **システムイメージ** をクリックして、システムイメージ ページを表示します。
5. イメージを選択して、システムイメージ詳細 ページを表示します。
6. インストールプラン で、ドライバに追加するために作成したタスクを 使用可能な中レベルのタスク 列から 中レベルのタスクを実行する 列に移動します。
7. 他の必要なプレインストールタスクおよびポストインストールタスクのすべてを追加して、展開を設定します。  
  
( USBデバイスにキャプチャするイメージを持つターゲットデバイス上で ) アプライアンスのIPアドレスをInternet Explorerの 信頼済みサイト セクションに追加して、デバイスがOSで再起動した後にポストインストールタスクが正常に実行されるようにします。
8. **保存** をクリックします。

起動可能なUSBフラッシュドライブイメージを作成します。詳細については、[USBデバイスへのブート環境のインストール](#)を参照してください。

## ブート環境を起動可能なISOファイルとしてダウンロード

K2000ブート環境 ( KBE ) 用またはNetBoot環境用の起動可能なISOをUSBフラッシュドライブにダウンロードできます。

K2000ブート環境をダウンロードする場合、ダウンロードするKBEにすべての必須ドライバが含まれていることを検証します。KBEをダウンロードする前にドライバの追加または削除を行った場合、KBEを再構築する必要があります。

1. 左側のナビゲーションペインで、**展開** をクリックし、次に **ブート環境** をクリックして、ブート環境 ページを表示します。
2. ブート環境を選択して、ブート環境詳細 ページを表示します。
3. このブート環境用の起動可能なUSBフラッシュドライブイメージの作成 チェックボックスをオンにして、**保存** をクリックします。
4. このブート環境用の起動可能なISOのダウンロード をクリックして、ダウンロードを開始します。

## ターゲットデバイスのネットワーク起動

ターゲットデバイスをK2000ブート環境 ( KBE ) でネットワーク起動し、KBEのメインメニューにアクセスして、オペレーティングシステムを手動で展開する必要があります。

ターゲットデバイスをKBEで起動する前に、起動マネージャがターゲットデバイスでアクティブである時間を変更して、起動シーケンスが中断されるのを防ぐことができます。中断は、ユーザーがローカルドライブから起動

するために起動シーケンスオプションを変更した場合などに発生します。詳細については、[起動マネージャのタイムアウトの設定](#)を参照してください。

1. ターゲットデバイスをKBEで起動します。
  - ローカルデバイスの場合は、ターゲットデバイスでBIOSに移動して、ネットワークコントローラを選択し、ターゲットデバイスをKBEでネットワーク起動します。
  - リモートデバイスの場合、リモートデスクトップ接続を開始するか、デバイスでVNC-Javaリモートコントロールセッションを開いて、ターゲットデバイスをKBEでネットワーク起動します。
2. デバイスのネットワークインターフェイスカード (NIC) が内蔵グラフィックスをサポートするかどうかに応じて、起動マネージャ (黒い画面) のインターフェイスを選択します。
  - グラフィカルメニュー: 矢印キーを使用してオプションを選択できます。
  - テキストメニュー: 内蔵グラフィックスには対応していないが方向キーの使用に対応している古いNICをサポートしています。
  - 基本メニュー: 内蔵グラフィックスに対応しておらず矢印キーを認識できないNICをサポートしています。
3. デバイスのハードウェアをサポートする、KBEのアーキテクチャを選択します。  
デバイスはK2000ブート環境で起動し、KBEのメインメニューが表示されます。

## イメージの手動展開

KBEのメインメニューから、スクリプト形式のインストールまたはシステムイメージの展開を手動で実行できます。

デバイスをKBEでネットワーク起動して、KBEのメインメニューを表示します。デバイスが起動したら、VNC-Javaリモートコントロールセッションを使用して、デバイスにリモートアクセスできます。詳細については、[VNCセッション経由でのリモートデバイスへのアクセス](#)を参照してください。



**注:** ネットワークの帯域幅、タスクの数、および展開するイメージのサイズにより、手動展開が完了するまで数分から数時間かかることがあります。

1. KBEのメインメニューから、展開タイプ (例えば、イメージ作成) をクリックします。
2. このデバイスにイメージを展開 をクリックします。
3. イメージ名 で、このマシンにインストールするイメージの名前をクリックします。

選択したKBEのアーキテクチャに関連するシステムイメージのみが、リストに表示されます。

- K2000アプライアンスを使用してシステムイメージを展開する場合、表示されるリストにはK2000アプライアンスによってキャプチャされた関連するイメージが表示されます。
  - RSA (リモートサイトアプライアンス) を使用してシステムイメージを展開する場合、表示されるリストにはRSAによってキャプチャされたイメージと関連するK2000アプライアンスから同期されたイメージのみが表示されます。
4. 展開後に自動的に再起動 をクリックして、イメージの適用後にデバイスが再起動されるようにします。
  5. 展開の開始 をクリックします。

KBEでタスクが実行されている間はVNC-Javaリモートコントロールセッションは開いた状態のままです。このセッションから、プレインストールタスクおよびイメージのインストールタスクの進行状況を表示できます。また、接続を再確立して、KBEで実行されるすべてのポストインストールタスクの進行状況を確認できます。

## 進行中の手動展開の表示

進行中の手動展開のリストと展開に関して選択したブートアクションの詳細を表示して、どのイメージがどのデバイスに展開されたかを確認できます。

1. 左側のナビゲーションペインで、進行状況 をクリックし、次に 手動展開 をクリックして、手動展開の進行状況 ページを表示します。
2. 名前 で、展開のブートアクションを選択して、展開の詳細 ページを表示します。
3. デバイス メニューバーで、デバイスのMACアドレスの隣の 詳細 をクリックして、実行中のタスクの進行状況を表示します。

## 完了した手動展開の表示

完了した手動展開のリストと選択したブートアクションの詳細を表示して、どのイメージがどのデバイスに展開されたかを確認できます。

1. 左側のナビゲーションペインで、監査ログ をクリックしてセクションを展開し、次に 手動展開 をクリックして 手動展開ログ ページを表示します。
2. 名前 で、展開のブートアクションを選択して、展開の詳細 ページを表示します。
3. デバイス メニューバーで、デバイスのMACアドレスの隣の 詳細 をクリックして、展開用に実行したタスクの成功または失敗を確認します。

# Macデバイスのイメージ作成

K2000では、イメージのキャプチャとユニキャスト展開の実行を可能にするK2000イメージングユーティリティが提供されています。ネットワーク設定がマルチキャストルーティングをサポートしている場合は、KACEシステム展開アプライアンス管理者コンソールからマルチキャスト展開を実行できます。

K2000メディアマネージャを使用すると、K2000がメモリに読み込む、Mac OS XハードディスクのNetBootイメージを作成できます。NetBootイメージを使用すると、展開用のシステムイメージとしてイメージをキャプチャできます。内蔵NetBootサーバーを使用すると、K2000アプライアンスと同じサブネット上に存在するMacデバイスにネットワーク経由でイメージを展開できます。K2000リモートサイトアプライアンス (RSA) を使用して、別のサブネット上に存在するデバイスでイメージを起動できます。これは、RSAがアプライアンスとの間で同期されている場合に限りです。

Mac OS X展開では、ユーザープロファイルの移行、スクリプト形式のインストール、およびドライバ共有とドライバ互換性レポートはサポートされません。

## Mac OS X用のメディアマネージャのダウンロード

Mac OS X用のK2000メディアマネージャをアプライアンスからデバイスにダウンロードしてインストールできます。ただし、デバイスの管理者アカウントを使用する必要があります。メディアマネージャはMac OS XインストールメディアをK2000アプライアンスにアップロードし、Macデバイスをアプライアンスで起動するためのイメージとNetBoot環境を作成します。

メディアマネージャをK2000にアップロードする必要があるソースメディアと共にデバイスにダウンロードします。

1. 左側のナビゲーションペインで、ライブラリ をクリックしてセクションを展開し、次に ソースメディア をクリックして ソースメディア ページを表示します。
2. アクションの選択 > メディアマネージャのダウンロード を選択して、メディアマネージャ ページを表示します。
3. Mac OS X用のダウンロード をクリックします。  
メディアマネージャが ダウンロード フォルダにダウンロードされます。
4. Macから システム環境設定 を選択し、次に セキュリティとプライバシー をクリックおよびアンロックして、変更を行います。
5. 一般 タブを選択し、ダウンロードしたアプリケーションの実行許可: で すべてのアプリケーションを許可 チェックボックスをオンにします。
6. メディアマネージャ アプリケーションをクリックして実行します。

NetBoot環境イメージを作成します。

## NetBoot環境イメージの作成

Mac OS X用のK2000メディアマネージャを使用してNetBoot環境イメージを作成し、Macデバイスをアプライアンスで起動できます。

時刻の同期をオフにした状態でデバイスを再起動します。NetBootイメージ作成時のエラーを解決する方法の詳細については、<https://support.quest.com/kb/125875>を参照してください。

1. メディアマネージャを開いて、NetBootイメージの作成 をクリックします。
2. K2000ホスト名 に、アプライアンスのホスト名またはIPアドレスを入力します。
3. ソースメディアの名前 に、Mac OSバージョンを識別する名前を割り当てます。
4. バージョン10.12、10.11、10.10、および10.9のみ。ソースメディアパスで 参照 をクリックし、Mac OS Xのインストールソースメディアに移動し、K2000にアップロードします。例：/Applications/Install OS X Yosemite.app
5. バージョン10.8、10.7のみ
  - a. OS X Mavericks.appのインストール を右クリックしてから、パッケージコンテンツの表示 をクリックします。
  - b. コンテンツ > SharedSupport に移動し、InstallESD.dmg をダブルクリックして、イメージをデスクトップにマウントします。
  - c. ソースメディアのパス で、参照 をクリックしてマウントされたInstallESDボリュームに移動します。
6. OS X Mavericks.appのインストール を右クリックしてから、パッケージコンテンツの表示 をクリックします。
7. コンテンツ > SharedSupport に移動し、InstallESD.dmg をダブルクリックして、イメージをデスクトップにマウントします。

デスクトップに OS X Install ESD アイコンが表示されます。
8. NetBootパスワード にパスワードを入力し、パスワードの確認入力 にパスワードを再入力します。
9. 構築の開始 をクリックします。

NetBootイメージのアップロードが完了すると、イメージが作成され、ソースメディア ページと ブート環境 ページで使用できるようになります。

NetBootサーバーを有効にし、その後、システムイメージをキャプチャします。このイメージは、K2000イメージングユーティリティを使用して展開するために使用します。詳細については、[Mac OS Xイメージのキャプチャ](#)を参照してください。

## NetBootサーバーを有効にする

NetBootイメージを作成した後に、NetBootサーバーを有効にできます。ビルトインのNetBootサーバーは、Mac OS Xネットワークブートプロセスを有効にします。

1. 左側のナビゲーションペインで、設定 をクリックして コントロールパネル を表示し、次に 一般設定 をクリックして 一般設定 ページを表示します。
2. デフォルトK2000ブート環境 で、NetBootイメージを Mac OS X Intel ( NetBoot ) ドロップダウンリストから選択します。

リストにはさまざまなOS Xバージョンのイメージが表示されることがあるので、該当するイメージを選択していることを確認します。1つのOS X NetBootイメージしか使用できない場合、そのイメージはデフォルトで選択されます。
3. 左側のナビゲーションペインで、設定 をクリックして コントロールパネル を表示し、次に ネットワーク設定 をクリックして ネットワーク設定 ページを表示します。
4. NetBootサーバー ( Mac OS Xクライアント用 ) を有効にする チェックボックスをオンにします。

2つのBSDPフィールドボックスが表示されます。
5. デフォルトのBSDP設定を受け入れて、保存 をクリックします。

Mac Boot Service Discovery Protocol ( BSDP ) はDHCPの標準拡張で、Macのネットワークブートプロセスを有効にします。

6. Macデバイスで、システム環境設定 アイコンをクリックし、起動ディスク を選択します。次に、該当するK2000ネットワークを選択して、NetBootイメージで起動し、OSを再起動します。

K2000イメージングユーティリティが表示されます。

7. NetBootパスワードを入力します。

イメージをキャプチャします。

## キャプチャ実行前のイメージのカスタマイズ

展開用システムイメージとしてイメージをキャプチャする前に、ソースMacデバイスでイメージをカスタマイズできます。標準企業イメージが必要とするあらゆる非ネイティブアプリケーションおよびファイルを、イメージに追加できます。

1. 展開用システムイメージとしてイメージをキャプチャする前に、必要なすべての非ネイティブアプリケーションおよびファイルをイメージに追加します。例えば、AcrobatまたはOracle®アプリケーションを追加します。
2. 企業ユーザー向けの展開用システムイメージに含めたくないAppleアプリケーション ( 例えば、GuitarBand® GameCenter ) をすべて削除します。
3. ディスク領域を節約するために、/ApplicationsディレクトリにMac OS Xインストーラが存在する場合は削除します。例えば、/Applications/Install OS X Mavericks.appなどです。

展開用システムイメージとしてイメージをキャプチャします。

## Mac OS Xイメージのキャプチャ

K2000イメージングユーティリティを使用すると、K2000アプライアンスまたはRSAでネットワーク起動されたデバイスから、展開用のMacイメージをキャプチャできます。

複数のMacハードウェアデバイス間で使用できるシステムイメージをキャプチャできます。Mac OSイメージの最新のバージョンを使用します。古いバージョンを使用すると、Appleからの証明書が無効になっているために、エラーが発生することがあります。NetBoot環境とイメージを作成するデバイスで、日付を有効期限前の日付に変更できます。

1. ターゲットデバイスをNetBootイメージで起動し、K2000イメージングユーティリティを表示します。
2. DockでK2000イメージングユーティリティのアイコンをダブルクリックします。
3. イメージキャプチャ を選択します。
4. イメージ名 に、アプライアンスのイメージを識別する名前を入力します。例えば、K2000上のイメージをMacイメージとして識別するために、「ASR」または「DMG」と入力します。
5. キャプチャするボリュームを選択します。通常、ボリュームはMacintosh® HDです。
6. Macネイティブイメージ形式でイメージをキャプチャするには、Apple ASRフォーマットイメージのキャプチャ を選択します。
7. キャプチャの開始 をクリックします。
  - キャプチャプロセスでは、KACEシステム展開アプライアンス管理者コンソールのシステムイメージページにイメージエントリが追加されます。イメージがRSAを使用してキャプチャされた場合は、リモートサイトコンソールにも追加されます。
  - K2000アプライアンスはキャプチャされた各システムイメージにIDを割り当てます。





**ヒント:** K2000アプライアンスでキャプチャした各イメージまたはリンク先RSAには一意のIDがあります。これにより、リンク先 ( K2000 ) アプライアンスまたはリモート ( RSA ) アプライアンスでキャプチャしたすべての異なるシステムイメージを追跡し、それらを編集する際、任意のイメージを同期できます。特定のシステムイメージのIDを確認するには、システムイメージ ページでシステムイメージ名をマウスオーバーします。IDは左下隅に表示されます。

8. OK をクリックします。

キャプチャが終了しました プロンプトが表示されます。その後、アプライアンスにより、イメージが システムイメージ ページに表示されます。

9. イメージを選択し、その後、プレインストールタスクとポストインストールタスクを割り当てて、タスクシーケンスを作成します。また、独自のタスクをシェルスクリプトに追加して、スクリプトをプレインストールタスクまたはポストインストールタスクとして実行することもできます。

## 展開実行前のイメージのカスタマイズ

ビルトインのプレインストールタスクを使用してMac OS Xイメージをカスタマイズしたり、プレインストールタスクとして実行するシェルスクリプトに独自のカスタマイズを追加したりすることができます。

1. 左側のナビゲーションペインで、展開 をクリックし、次に システムイメージ をクリックして、システムイメージ ページを表示します。
2. 該当するMac OS Xイメージを選択して、システムイメージ詳細 ページを表示します。
3. インストールプラン セクションの 使用可能なプレインストールタスク で、実行する必要のあるすべてのタスクを実行するプレインストールタスク セクションに移動します。

他のタスク (例えば、デバイス名を収集するタスク) を追加できます。必要な場合は、システムイメージ詳細 ページで任意のタスクを編集することもできます。タスクを追加および編集する作業が完了したら、イメージを展開します。

## シングルHFS+パーティションの作成

disk0上でのシングルHFS+パーティションの作成 プレインストールタスクを割り当てることにより、APMまたはGPTフォーマットのいずれかを使用して、HFS+フォーマットでシングルパーティションを作成できます。

1. 左側のナビゲーションペインで、展開 をクリックし、次に システムイメージ をクリックして、システムイメージ ページを表示します。
2. タスクの追加先となるイメージを選択します。  
システムイメージ詳細 ページが表示されます。
3. インストールプラン > 使用可能なプレインストールタスク で、disk0上でのシングルHFS+パーティションの作成 タスクを実行するプレインストールタスク 列に移動します。
4. 保存 をクリックします。

## Mac OS X ByHost環境設定の適用

Mac OS X ByHost環境設定の適用 ポストインストールタスクを追加して、MacデバイスのByhostディレクトリに格納されているアプリケーション環境設定ファイルを削除できます。

ファイル名に含まれる数字は、デバイスのMACアドレスまたはシステムのUUIDです。

1. 左側のナビゲーションペインで、展開 をクリックし、次に システムイメージ をクリックして、システムイメージ ページを表示します。
2. タスクの追加先となるイメージを選択します。

システムイメージ詳細 ページが表示されます。

3. インストールプラン > 使用可能な中レベルのタスク で、Mac OS X ByHost環境設定の適用 タスクを 中レベルのタスクを実行する 列に移動します。
4. 保存 をクリックします。

## Mac OS Xコンピューター名の収集

Mac OS Xコンピューター名の収集 プレインストールタスクを割り当てて、Mac OS Xデバイスの名前をキャプチャできます。Mac OS Xのコンピューター名の適用 ポストインストールタスクを割り当てることにより、ホスト名をMACアドレスに関連付けることができます。

1. 左側のナビゲーションペインで、展開 をクリックし、次に システムイメージ をクリックして、システムイメージ ページを表示します。
2. タスクの追加先となるイメージを選択します。  
システムイメージ詳細 ページが表示されます。
3. インストールプラン > 使用可能なプレインストールタスク で、Mac OS Xコンピューター名の収集 タスクを実行するプレインストールタスク 列に移動します。
4. 保存 をクリックします。

## Mac OS Xコンピューター名の適用

Mac OS Xのコンピューター名の適用 ポストインストールタスクを割り当てて、Mac OS Xコンピューター名の収集 プレインストールタスクを使用して収集した名前を適用できます。タスクを複製および保存して、別の展開用に修正および使用することもできます。

1. 左側のナビゲーションペインで、展開 をクリックし、次に システムイメージ をクリックして、システムイメージ ページを表示します。
2. タスクの追加先となるイメージを選択します。  
システムイメージ詳細 ページが表示されます。
3. インストールプラン > 使用可能な中レベルのタスク で、Mac OS Xのコンピューター名の適用 タスクを 中レベルのタスクを実行する 列に移動します。
4. 保存 をクリックします。

## Mac OS Xコンピューター名の変更

例: コンピューター名の変更 Mac OS X ポストインストールタスクを割り当てて、Mac OS Xコンピューターの名前を変更できます。ビルトインの 例: コンピューター名の変更 Mac OS X ポストインストールタスクテンプレートを、カスタマイズしてから使用できます。

1. 左側のナビゲーションペインで、展開 をクリックし、次に システムイメージ をクリックして、システムイメージ ページを表示します。
2. タスクの追加先となるイメージを選択します。  
システムイメージ詳細 ページが表示されます。
3. インストールプラン > 使用可能なポストインストールタスク で、例: コンピューター名の変更 Mac OS X タスクを ポストインストールタスクの実行 列に移動します。
4. 保存 をクリックします。

# Active Directoryドメインへのデバイスの参加

例: Active Directoryドメインへの参加 Mac OS X ポストインストールタスクを割り当てて、Mac OS Xデバイスを Active Directoryドメインに参加させることができます。ビルトインの 例: Active Directoryドメインへの参加 Mac OS X ポストインストールタスクテンプレートを、カスタマイズしてから使用できます。

1. 展開 で、表示する展開を選択して、システムイメージ詳細 ページを表示します。
2. タスクの追加先となるイメージを選択します。  
システムイメージ詳細 ページが表示されます。
3. インストールプラン > 使用可能なポストインストールタスク で、例: Active Directoryドメインへの参加 Mac OS X タスクを ポストインストールタスクの実行 列に移動します。
4. 保存 をクリックします。

# ユニキャストMac OS Xイメージ展開の実行

ユニキャスト展開の場合、K2000イメージングユーティリティを使用して、Mac OS Xイメージをキャプチャし、アプライアンスと同じサブネット上に存在するデバイスに展開できます。リモートサイトアプライアンス (RSA) をK2000にダウンロードすると、別のサブネット上のデバイスにイメージを展開できます。

1. ターゲットデバイスをNetBootイメージで起動し、K2000イメージングユーティリティを表示します。
2. Dock内で K2000イメージングユーティリティ アイコンをクリックして、アプリケーションを起動します。
3. イメージの展開 をクリックします。
4. イメージ名 ドロップダウンリストからイメージを選択します。
5. 展開の開始 をクリックします。

# すべてのスクリプト用の環境変数

Quest KACEは、NetBoot環境のハードウェアドライブのフルパスにアクセスしたり、デバイスドライブのベース名にアクセスしたりするために、タスクエンジンで利用できる環境変数を提供します。

Quest KACE環境変数 :

- \$KACE\_SYSTEM\_DRIVE\_PATH: /Volumes/SomeDriveなど、NetBoot環境のハードウェアドライブのフルパスにアクセスします。
- \$KACE\_SYSTEM\_DRIVE\_NAME: システムドライブのベース名。上記の例では、/Volumes/SomeDriveのSomeDriveです。

# マルチキャストMac OS Xイメージ展開の実行

ネットワーク設定がマルチキャストルーティングをサポートしている場合は、KACEシステム展開アプライアンス管理者コンソールからマルチキャストMac OS Xイメージ展開を実行できます。K2000は、El Capitan、Yosemite、Mavericks、Mountain Lion、およびLionのシステムイメージのバージョン10.11、10.10、10.9、10.8および10.7のマルチキャスト展開をサポートします。展開を開始するブートアクションを割り当てることができます。K2000イメージングユーティリティからのマルチキャスト展開は、ブートアクションを開始できません。マルチキャスト展開でサポートされているのは、シングルパーティションイメージだけです。

Mountain Lionの場合、ソースメディアをDVDにコピーできます。詳細については、<http://www.itninja.com/question/how-to-create-mac-dvd-for-mountain-lion-10-8-for-k2000-netboot>を参照してください。

## マルチキャストDMGイメージの展開の作成

ブートアクションを作成して、Mac OS X DMGイメージの展開を、次のネットワーク起動時に開始できます。ターゲットデバイスはK2000アプライアンスと同じネットワーク上に存在する必要があります。

1. 左側のナビゲーションペインで、展開 をクリックして、自動展開 ページを表示します。
2. 名前 で、ブートアクションを選択して、自動展開の詳細 ページを表示します。
3. 次回のネットワーク起動時にイメージを展開するには、オプション で 次のブートで実行する を選択します。

DMGイメージ用のマルチキャスト展開を、後で実行するようにスケジュールすることはできません。

4. オプション : タイプ で、マルチキャスト を選択して、高度な設定の表示 をクリックします。
  - 接続の「受信準備完了」状態待機のタイムアウトでタイムアウト値を増やして、ターゲットデバイスがネットワーク起動するのに許容される時間を長くします。デフォルトは10分です。
  - 伝送速度 で、伝送の信頼性を高めるために、伝送速度をデフォルトの8 MBからより低い値に設定します。

マルチキャスト設定の詳細については、[デフォルトマルチキャスト設定の編集](#)を参照してください。

5. デバイス で、1つ以上のMACアドレスを入力して、インベントリに存在しないデバイスを追加し、次へ をクリックします。
6. 保存 をクリックします。
7. 次のオプションのいずれかを使用して、デバイスを再起動します。
  - デバイスの電源がオンの場合: システム環境設定 で、起動ディスク を選択し、次に、K2000 NetBoot 環境 を選択します。
  - デバイスの電源がオンでない場合: デバイスの電源をオンにしてオプションキーを押し、K2000 NetBoot環境 をクリックします。

展開の進行状況を確認できます。詳細については、[Mac OS Xマルチキャスト展開の進行状況の表示](#)を参照してください。

# Mac OS Xマルチキャスト展開の進行状況の表示

マルチキャスト展開のステータスと展開のために実行しているタスクの進行状況を、KACEシステム展開アプライアンス管理者コンソールの 進行状況、自動展開 ページで表示できます。

ターゲットデバイスでのマルチキャスト展開のステータスは表示できません。

1. 左側のナビゲーションペインで、進行状況 をクリックして、自動展開の進行状況 ページを表示します。
2. ブートアクションを選択して、ブートアクションの詳細 ページを表示します。
3. デバイスで、デバイスのMACアドレスの隣の 詳細 をクリックして、実行中のタスクの進行状況を表示します。

完了したマルチキャストMacイメージ展開の成功または失敗を、監査ログ > 自動展開 ページで表示できます。



注: 展開が失敗した場合、展開が失敗したデバイスに対してイメージを個別に再展開します。

# Mac OS Xマルチキャスト展開のログファイルの表示

Mac OS Xマルチキャスト展開のログファイルを表示できます。

1. 左側のナビゲーションペインで 設定 をクリックし、次に アプライアンスログ をクリックして アプライアンスログ ページを表示します。
2. K2000サーバー で、マルチキャストログ をクリックしてマルチキャスト展開のログファイルを表示します。

# リモートサイトアプライアンスについて

リモートサイトアプライアンス (RSA) は、ローカルブートサーバーとして機能し、リモートサイトへの展開用にデバイスのネットワーク起動を可能にします。イメージをRSAとの間で同期したり、RSAにアップロードしたりできます。また、RSAからシステムイメージやユーザープロファイルをキャプチャすることもできます。

RSAはK2000アプライアンスから直接インストールできます。また、K2000アプライアンスに同梱されているライセンスキーを使用してRSAをリンクすることもできます。RSAをアプライアンスにリンクすると、RSAはアプライアンスの管理者コンソールから利用できるようになります。ライセンスキーを使用してインストールできるRSAの数に制限はありません。

KACEシステム展開アプライアンス管理者コンソールの リモートサイト タブを使用すると、アプライアンスをRSAに同期して、リモートサイトに展開するコンポーネントにアクセスできます。例えば、ブート環境、タスク、ドライバ、およびキャプチャしたユーザープロファイルを同期できます。

## リモートサイトアプライアンスセットアップの要件

RSAは、RSAに割り当てることができる未割り当てのIPアドレスと、VMware ESXi™、VMware vSphere®、Microsoft® Windows® Hyper-Vなどの、VMware®またはHyper-V®ホストソフトウェアを必要とします。RSAを設定できるDHCPサーバーのスコープを使用することにより、デバイスをRSAにネットワーク起動できます。ネットワーク起動できないデバイスでは、起動可能なISOファイルまたはUSB K2000ブート環境 (KBE) が必要になります。起動DVDを使用するときは、オプション066または244を使用してアプライアンスを認識できるようにする必要があります。

RSAセットアップの要件

RSAセットアップの要件

| 要件           | 説明                                                            |
|--------------|---------------------------------------------------------------|
| K2000アプライアンス | K2000アプライアンスをインストールおよび設定して、RSAをダウンロードします。                     |
| RSAライセンス     | Quest KACEから送付されたのと同じK2000ライセンスキーを使用します。                      |
| 仮想マシンホスト     | 「RSAホストのシステム要件」を参照してください。                                     |
| ネットワーク設定     | RSAに静的IPアドレスとオプションでホスト名を割り当てます。<br>RSAデータをRSAまたは仮想ディスクに保存します。 |

| 要件           | 説明                                                                                                                     |
|--------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| オプション : LDAP | LDAPサーバーのIPアドレスまたはホスト名を使用します。                                                                                          |
| ネットワーク起動設定   | Windowsデバイスの場合: リモートDHCPスコープ上のRSAにネットワーク起動を指示するDHCPサーバースコープ。<br>Macデバイスの場合: リモートデバイスからのMac BSCP要求をRSAに指示するNetBootサーバー。 |

#### RSAホストのシステム要件

RSAホストとなるリモートサイトのデバイスは、次の要件を満たす必要があります。

#### RSAホストのシステム要件

| 要件     | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|--------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 仮想マシン  | 仮想ホストソフトウェアがインストールされていることを確認します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>VMware: <ul style="list-style-type: none"> <li>ESX®/ESXi™5.5以上</li> <li>vSphere 4</li> </ul> </li> <li>Hyper-V: <ul style="list-style-type: none"> <li>Windows 2012または2012 R2</li> </ul> </li> </ul> |
| ハードウェア | 2 GHzのプロセッサ ( Intel®-VTまたはAMD-V™対応 )、4 GBのRAM、250 GBの空きディスク領域。                                                                                                                                                                                                               |
| ポート    | ポート22および80が使用可能であること。                                                                                                                                                                                                                                                        |

## VMwareまたはHyper-VホストへのRSAのインストール

RSAは、仮想ホストソフトウェアがインストールされているホストデバイスにインストールできます。ただし、同じサブネット上に他のRSAが存在しない場合に限りです。

RSAをホスティングするリモートサイトのデバイスに、サポートポータルからRSAインストールパッケージをダウンロードします。

VMware®またはMicrosoft® Windows® Hyper-V®ホスト上にRSAをインストールする方法については詳しくは、『Setup Guide for VMware Platforms ( VMwareプラットフォームのセットアップガイド )』および『Setup Guide for Hyper-V Platforms ( Hyper-Vプラットフォームのセットアップガイド )』を参照してください。他のホストソフトウェアでOVFを開く方法については、VMwareまたはMicrosoft Windowsのマニュアルも参照してください。

コンソールから、RSAネットワーク設定を構成します。

# RSAのネットワーク設定の構成

ブラウザを開いて初期設定コンソールにアクセスして、RSAにIPアドレスとホスト名を設定できます。

RSAでは、SSHはデフォルトで有効になっており、無効にすることができません。

1. VMwareホストソフトウェアで、RSAの電源をオンにして、RSAを起動します（再起動は5〜10分ほどかかります）。その後、ネットワークの初期設定を続けます。
2. ログインプロンプトのログインとパスワードの両方にkonfigと入力します。
3. 上矢印キーと下矢印キーを使用してフィールド間を移動して、ネットワーク設定を構成します。
4. 保存が選択されるまで下矢印キーを押して、Enterキーを押します。

RSAが再起動します。ネットワーク設定を構成します。

5. 左側のナビゲーションペインで、設定をクリックしてコントロールパネルを表示し、次にネットワーク設定をクリックしてネットワーク設定ページを表示します。
6. オンボードDHCPサーバーを有効にするチェックボックスをオンにします。

オンボードDHCPサーバーによって、ネットワークデバイスに特定の範囲のIPアドレスが割り当てられ、アプライアンスへのWindowsデバイス起動要求の転送が自動的にセットアップされます。

設定 > ユーザー認証に移動して、RSAでLDAP認証をセットアップします。RSAとK2000はユーザーを別々に管理するため、アプライアンスのユーザーに対してはアクセスを許可し、RSAのユーザーに対してはアクセスを拒否することができます。

## K2000からRSAにリンク

アプライアンスをリモートサイトアプライアンス（RSA）にリンクすると、K2000はRSAに対応できるようになります。したがって、リンクを使用すると、リンク先アプライアンス間でユーザー名とパスワードが一致すれば、同一のセッションからRSAとK2000アプライアンスにアクセスできます。

1. 左側のナビゲーションペインで、設定をクリックしてコントロールパネルを表示し、次にKACEリンクをクリックしてKACEリンクページを表示します。
2. KACEリンクを有効にするをクリックして、接続設定を表示します。
3. ホスト名で、このアプライアンスの固有のロジカルネームを入力します。アプライアンスがリンクされている場合、この名前がページの右上隅にあるドロップダウンリスト（ログイン情報の隣）に表示されます。
4. リモートログインの有効期限に、リンクを開いたままにする期間を分単位で入力します。この期間が終了した後にリンク先アプライアンスに切り替える場合は、ログイン資格情報を入力します。デフォルトは120分です。
5. 要求タイムアウトに、リンク先アプライアンスがリンク要求に応答するまで、このアプライアンスが待機する時間を秒単位で入力します。デフォルトは10秒です。
6. 保存をクリックして、KACEリンクキーフィンガープリントフィールドとKACEリンクキー（このサーバー）フィールドを表示します。
7. 名前フィールドのテキストとキーフィールドのテキストをコピーして、メモ帳ファイルなどの中央的な場所に貼り付けます。

メモ帳に貼り付けるテキストは、1つのアプライアンスの名前およびキーからコピーして、別のリンク先アプライアンスの対応するフィールドに貼り付けるテキストです。

8. リンク先の各RSAで、上記の手順を繰り返します。

複数のK2000アプライアンスのリンクもできます。詳細については、[アプライアンスリンクを有効にする](#)を参照してください。

RSAをリモートサイトタブに追加して、RSAに同期するコンポーネントを設定します。




# アプライアンスへのRSAの追加および同期

RSAをKACEシステム展開アプライアンス管理者コンソールに追加して、リモートサイトに展開するコンポーネントを同期できます。RSAは1台のK2000アプライアンスに対してのみリンク相手となることができ、アプライアンスに追加できるRSAの数に制限はありません。

スクリプト形式のインストール、システムイメージ、およびユーザープロファイルをRSAに同期できます。展開で使用するプレインストールタスクおよびポストインストールタスクは依存関係とみなされ、自動でRSAにプッシュされます。

1. 左側のナビゲーションペインで、**展開** をクリックし、次に **リモートサイト** をクリックして、**リモートサイトアプライアンス ページ**を表示します。
2. **アクションの選択 > 新規作成** を選択して、**リモートサイトアプライアンスの追加 ページ**を表示します。
3. **リモートサイトアプライアンス** で、RSA用のIPアドレスを選択します。
4. **次へ** をクリックします。

K2000アプライアンスはRSAに接続し、そのRSAをリンク相手として登録します。このプロセスが完了すると、**リモートサイト詳細 ページ**が表示されます。

 **注:** RSAごとに、独自の **リモートサイト詳細 設定ページ**があります。

5. **ブート環境** まで下にスクロールします。リモートデバイスをRSAでネットワーク起動し、RSA設定をテストするために、**ブート環境**を同期します。次に、RSAに同期する必要がある他のコンポーネントを選択します。

このセクションで無効になっているチェックボックスは追加または削除できないコンポーネントを表しています。例えば、チェックボックスが無効であることを示しているため特定のビットブート環境を削除できないのは、同期されたイメージがデフォルトでその環境を必要とするためです。

6. スクリプト形式のインストール、システムイメージ、および **ユーザープロファイル** にリストされたオプションを確認し、**展開するコンポーネントのみ**が選択されていることを確認します。
  - K2000アプライアンス管理者コンソールでこのページを表示すると、K2000アプライアンスではなくRSAによってキャプチャされたシステムイメージが **システムイメージ** にリストされますが、これらのオプションは無効になっています。これは、これらのイメージがすでにRSAに存在し、K2000アプライアンスと同期しているオプションをクリアしただけでは削除できないためです。
  - 関連するK2000アプライアンスによってキャプチャされたすべてのイメージがリストに表示され、必要に応じて選択またはクリアできます。
7. **依存関係** にスクロールダウンし、**表示** をクリックします。ここでリストされたオプションを確認し、**展開するコンポーネントのみ**が選択されていることを確認します。

例えば、このセクションでは **USMTツールキット オプション**が無効になっています。USMTツールキットを使用すると、**ユーザープロファイル**をキャプチャできます。RSAとK2000アプライアンスを同期させ、アプライアンスにUSMTツールキットがアップロードされると、USMTツールキットがRSAに追加され、**ユーザープロファイル**をキャプチャできます。このオプションはクリアできません。K2000アプライアンスにUSMTツールキットをアップロードする方法の詳細については、[メディアマネージャからのUSMTソフトウェアのアップロード](#)を参照してください。

8. **保存と同期** をクリックします。

同期が完了するまで、RSAはロックされます。

これで、RSAはネットワーク起動する準備ができました。

新たに追加したRSAを使用すると、システムイメージのキャプチャまたは展開、ユーザープロファイルのスキャンとUSMTテンプレートの作成、またはブートアクションの作成ができます。詳細については、次のトピックをお読みください。

- システムイメージのキャプチャ
- Mac OS Xイメージのキャプチャ
- システムイメージの展開へのタスクの割り当て
- イメージの手動展開
- ユーザープロファイルのスキャン
- USMTスキャンテンプレートの作成

**i** ヒント: 特定のRSAに割り当てられたブートアクションも使用できます。詳細については、[ブートアクションの作成](#)を参照してください。

# アプライアンスコンポーネントのインポートとエクスポート

パッケージングを使用することにより、ドライバ、ネットワークインベントリ、ブート環境、およびタスクなどのK2000アプライアンスコンポーネントを、別のネットワーク上の場所または別のK2000アプライアンスとの間でインポートおよびエクスポートすることができます。



注: RSAでキャプチャしたイメージとユーザープロファイルはエクスポートできません。

コンポーネントをインポートおよびエクスポートする場合、アプライアンスはパッケージをアプライアンスのrestore共有ディレクトリから取得します。パッケージを作成すると、.pkgファイルには、パッケージのメタデータが格納されたindex.xmlファイルが含まれます。パッケージファイルは、\\k2000\_host\_name\restore共有ディレクトリに保存されます。

パッケージは、ディスク全体のイメージまたはオペレーティングシステム全体が格納されるので、サイズが非常に大きくなることがあります。パッケージファイルのアプライアンスから他のネットワーク上の場所に保存したりコピーしたりするときは、まとめて行ってください。

## コンポーネントのエクスポートのスケジュール

コンポーネントのパッケージを作成してアプライアンスのrestoreディレクトリに格納すると、コンポーネントを定期的にエクスポートするスケジュールをセットアップできます。

データベースはエクスポートできますが、データベースを再インポートしてK2000アプライアンスに戻すことができるのはQuest KACEテクニカルサポートチームだけです。

1. 左側のナビゲーションペインで、設定 をクリックしてセクションを展開し、次に パッケージ管理 をクリックして パッケージ管理 ページを表示します。
2. K2000パッケージのエクスポート をクリックして、エクスポートリスト ページを表示します。
3. 定期的にエクスポートするコンポーネントを選択します。
4. アクションの選択 > 選択内容のエクスポートのスケジュール を選択して、エクスポートのスケジュール ページを表示します。
5. エクスポートを実行する日付と時刻を選択します。
6. 保存 をクリックします。

ジョブが、パッケージ管理キュー ページのキューに表示され、指定した時刻に実行されます。



注: ジョブをキューから削除すると、エクスポートリスト ページのスケジュールからも削除されます。

## オフボードパッケージ転送の使用

オフボードパッケージ転送機能を使用して、K2000のrestoreディレクトリにエクスポートされているパッケージをリモートのFTP/SFTPサーバーまたはSambaファイル共有に自動で転送できます。転送で使用するディレ

クトリを指定できます。K2000転送プロセスは、リモートサーバー上にそのディレクトリを作成し、すべての.xmlファイルおよび.pkgファイルを/Path>/data\_<timestamp>命名規則を使用してその場所にコピーします。また、転送済みのファイルをrestoreディレクトリから削除することもできます。

1. 左側のナビゲーションペインで、設定 をクリックしてセクションを展開し、次に パッケージ管理 をクリックしてパッケージ管理 ページを表示します。
2. オフボードパッケージ転送 をクリックして、オフボードパッケージ転送 ページを表示します。
3. オフボードパッケージ転送を有効にする をクリックして、転送の詳細を設定します。

| オプション             | アクション                                                                                               |
|-------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 実行のスケジュール         | 転送の間隔と時刻を選択します。                                                                                     |
| オフボードパッケージ転送プロトコル | どのファイル転送プロトコルを使用してリモートサイトにファイルを配置するかを選択します。SFTPプロトコルを使用する場合は、ファイルサーバーで明示的にパスワードベースの認証を有効にする必要があります。 |
| オフボードパッケージ転送サーバ   | ファイルの転送先となるデバイスのホスト名またはIPアドレスを入力します。                                                                |
| パスまたは共有名          | 転送用のディレクトリのパスまたは共有名を入力します。Samba共有名をスラッシュもバックスラッシュも使用せずに入力します。                                       |
| ユーザー名             | アプライアンスで使用するユーザー名を入力します。リモートサイトへの書き込み権限を持つユーザー名を入力します。                                              |
| ユーザーパスワード         | リモートサイトへのアクセスに必要なパスワードを入力します。                                                                       |
| 復元のクリーンアップ        | 転送が正常に完了した後に、K2000アプライアンス上のrestore共有ディレクトリからファイルを自動的に削除します。                                         |

4. 保存 をクリックします。

ジョブが、パッケージ管理キュー ページのキューに表示され、指定した時刻に実行されます。

**i** | 注: ジョブをキューから削除すると、エクスポート ページのスケジュールからも削除されます。

左側のナビゲーションペインで、設定 をクリックし、次に アプライアンスログ をクリックしてセクションを展開します。次に、スケジュール済みアクションサーバー をクリックし、出力ログ を選択して転送結果を表示します。

## インポート対象のパッケージのアップロード

外部デバイスまたはサーバーに格納されているパッケージを、K2000のrestoreディレクトリにアップロードし、その後、そのパッケージをアプライアンスにインポートできます。

1.5 GBより大きなパッケージをインポートするには、まず、\\k2000\_host\_name\restore共有ディレクトリにパッケージを配置します。

1. 左側のナビゲーションペインで、設定 をクリックしてセクションを展開し、次に パッケージ管理 をクリックして パッケージ管理 ページを表示します。
2. K2000パッケージのインポート をクリックして、インポートリスト ページを表示します。
3. アクションの選択 > インポート対象のパッケージのアップロード を選択します。
4. 参照 をクリックし、インポートする.pkgファイルを選択します。
5. パッケージのインポート をクリックします。

アプライアンスにより、コンポーネントのコピーがライブラリに追加されます。

パッケージにドライバが含まれている場合は、ドライバを再キャッシュします。左のナビゲーションペインで、ライブラリ > ドライバ をクリックし、アクションの選択 > ドライバの再キャッシュ を選択してドライバの管理 ページを表示します。

## アプライアンスコンポーネントのインポート

別の場所または別のK2000アプライアンスに格納されているコンポーネントをあらゆるK2000アプライアンスに直接インポートできます。ただし、コンポーネントを含むパッケージのサイズが1.5 GB未満の場合に限ります。

データベースをエクスポートした場合、データベースを再インポートしてK2000アプライアンスに戻すことができるのはQuest KACEテクニカルサポートチームだけです。

1. 左側のナビゲーションペインで、設定 をクリックしてセクションを展開し、次に パッケージ管理 をクリックして パッケージ管理 ページを表示します。
2. K2000パッケージのインポート をクリックして、インポートリスト ページを表示します。
3. インポートするパッケージの隣のチェックボックスをオンにします。
4. アクションの選択 > 選択内容をインポート を選択します。

インポートプロセスが開始されます。インポート操作は、必ず、いずれのパッケージまたはデータベース設定の変更よりも前に完了してください。

**i** 注: パッケージ内のコンポーネントのサイズと個数により、インポートプロセスが完了するまで数分から数時間かかることがあります。イメージのインポート処理は、イメージのエクスポート処理よりも長くかかります。イメージをエクスポートすると、アプライアンスはそのイメージに関連するすべてのファイルを見つけて、1つの.pkgファイルにパッケージ化します。このプロセスを取り消すと、イメージファイルがK2000イメージストアに対してチェックされ、新しいファイルだけがアップロードされていることが確認されます。

パッケージ管理 > インポートリスト ページに新しいコンポーネントが表示されます。

## エクスポート対象のコンポーネントのパッケージ

ドライバ、ネットワークインベントリ、ブート環境、およびタスクなど、アプライアンスに格納されているコンポーネントを、別のネットワーク上の場所にエクスポートできます。この機能は、コンポーネントをバックアップおよび復元するのに役立ちます。

データベースはエクスポートできますが、再インポートすることはできません。K2000アプライアンスからコンポーネントをエクスポートする処理は内部タスクにより実行されるので、ドライバの再キャッシュ、スクリプト

形式のインストールの作成、またはブート環境の再構築など他の内部タスクと並行して実行することはできません。

1. 左側のナビゲーションペインで、設定 をクリックしてセクションを展開し、次に パッケージ管理 をクリックして パッケージ管理 ページを表示します。
2. K2000パッケージのエクスポート をクリックして、エクスポートリスト ページを表示します。
3. 同時に選択するコンポーネントの数は少なくしてください。そうしないと、エクスポートが完了しないことがあります。

緑色のパッケージは、そのままではエクスポートできません。エクスポートするには、パッケージのバージョン番号を変更し、ドライバを再キャッシュして、パッケージへの変更箇所を保存します。

選択したエクスポートアイテムは圧縮されて、\K2000\_hostname\restore共有ディレクトリに保存されます。選択したコンポーネントごとに、.pkgファイルがK2000アプライアンスにより作成されます。

**i** 注: エクスポートの進行中に、ネットワーク、セキュリティ、または日付と時刻の設定を変更すると、アプライアンスが再起動し、エクスポートプロセスが終了して、エクスポート機能がロックされます。

4. アクションの選択 > 選択内容をエクスポート を選択します。

エクスポートが完了していることを確認してから、次のエクスポートを選択してください。

パッケージングプロセスが開始されます。パッケージのエクスポートは、ファイルのサイズにより、数分で完了することもあれば、数時間かかることもあります。各エクスポートが完了すると、ステータス 列に完了したことが表示されます。

**i** 注: 各コンポーネントの隣の ステータス 列に 完了しました または エクスポートしています が表示され、右上隅の 現在 : ステータスに アイドル が表示される場合は、Quest KACEテクニカルサポートに問い合わせ、tetherを通してK2000アプライアンスにアクセスし、エラーを解消するように依頼してください。

# ディスク容量の管理

アプライアンスのダッシュボードで、ディスク使用率円グラフを表示して、K2000アプライアンスで使用可能なストレージ領域を検証できます。物理K2000アプライアンスのデータをオフボードストレージデバイスに移行して、仮想K2000アプライアンスまたはリモートサイトアプライアンス (RSA) に保存されたデータを追加の仮想ディスクに移行することで、ディスク領域を解放できます。また、不要なイメージ、ブート環境、ソースメディア、およびタスクを削除することもできます。

## 使用可能なディスク容量の確認

アプライアンスがパフォーマンスを最大に発揮するには、約20%の空き領域が必要です。ダッシュボードのディスク使用率円グラフで、使用可能なディスク領域を検証できます。

1. ダッシュボードに移動します。

ディスク使用率に、ストレージ情報の円グラフビューが表示されます。この円グラフビューは、ストレージがオフボードの場合、10分および60分ごとに更新されます。

2. 円グラフの任意のセクションをマウスでポイントすると、コンポーネントで使用可能なディスク領域の割合が表示されます。

## デバイスに関連付けられていないイメージの削除

アプライアンスから起動されたライセンス済みデバイスに関連付けられていないシステムイメージ、およびキャプチャ後に置換されたイメージを削除できます。

不要なシステムイメージファイルを削除する前に、システムイメージのバックアップを検討してください。詳細については、[コンポーネントのエクスポートのスケジュール](#)を参照してください。

1. 左側のナビゲーションペインで、**設定** をクリックしてセクションを展開し、次にアプライアンスのメンテナンス をクリックしてアプライアンスのメンテナンス ページを表示します。
2. ユーティリティ > 不要なシステムイメージファイルの削除 で、削除 をクリックします。

K2000アプライアンスにより、不要なシステムイメージファイルがすべて、ファイルサーバーから削除されます。

選択したアイテムがアプライアンスから永続的に削除され、使用可能なディスク領域がダッシュボード ページに表示されます。

# デバイスに関連付けられたイメージの削除

古くなった、サイズの大きい、または無効なシステムイメージを削除することで、ディスク領域を解放できます。

1. 左側のナビゲーションペインで、**展開** をクリックし、次に **システムイメージ** をクリックして、システムイメージ ページを表示します。
2. 削除するアイテムを選択します。
3. アクションの**選択 > 削除** を選択します。

選択したアイテムがアプライアンスから永続的に削除され、使用可能なディスク領域が **ダッシュボード** ページに表示されます。

# 未割り当てのスクリプト形式のインストールの削除

オペレーティングシステムのタイプが古くなった場合や、環境内で不要になった場合は、スクリプト形式のインストールを削除します。

1. 左側のナビゲーションペインで、**展開** をクリックし、次に **スクリプト形式のインストール** をクリックして、スクリプト形式のインストール ページを表示します。
2. 削除するアイテムを選択します。
3. アクションの**選択 > 削除** を選択します。

選択したアイテムがアプライアンスから永続的に削除され、残りのディスク領域が **ダッシュボード** ページに表示されます。

# 未割り当てのブート環境の削除

新しいK2000ブート環境 ( KBE ) またはNetBoot環境を構築すると、以前のブート環境がK2000アプライアンスに残ります。これらの累積したブート環境は削除できます。

1. 左側のナビゲーションペインで、**展開** をクリックし、次に **ブート環境** をクリックして、ブート環境 ページを表示します。
2. 削除するアイテムを選択します。
3. アクションの**選択 > 削除** を選択します。

ブート環境は、ブート環境 ページから削除されますが、アプライアンスデータベースに残ります。ブート環境は、ソースメディア ページから永久に削除できます。



## ソースメディアの削除

使用しなくなったK2000アプライアンスのソースメディアを削除することで、ディスク領域を解放できます。ブート環境に接続しているソースメディアは削除できません。

1. 左側のナビゲーションペインで、ライブラリ をクリックしてセクションを展開し、次に ソースメディア をクリックして ソースメディア ページを表示します。
2. 削除するソースメディアの隣のチェックボックスをオンにします。
3. アクションの選択 > 削除 を選択します。

選択したアイテムがアプライアンスから永続的に削除され、使用可能なディスク領域が ダッシュボード ページに表示されます。

## 未割り当てのプレインストールタスクの削除

不要なプレインストールタスクを削除することにより、ディスク領域を解放できます。

1. 左側のナビゲーションペインで、ライブラリ をクリックしてセクションを展開し、次に プレインストールタスク をクリックして プレインストールタスク ページを表示します。
2. 削除するアイテムを選択します。
3. アクションの選択 > 削除 を選択します。

選択したアイテムがアプライアンスから永続的に削除され、使用可能なディスク領域が ダッシュボード ページに表示されます。

## 未割り当てのポストインストールタスクの削除

不要なポストインストールタスクを削除することにより、ディスク領域を解放できます。

1. 左側のナビゲーションペインで、ライブラリ をクリックしてセクションを展開し、次に ポストインストールタスク をクリックして ポストインストールタスク ページを表示します。
2. 削除するアイテムを選択します。
3. アクションの選択 > 削除 を選択します。

選択したアイテムがアプライアンスから永続的に削除され、使用可能なディスク領域が ダッシュボード ページに表示されます。

## オフボードストレージの有効化

物理K2000アプライアンスに保存されたデータを外部ネットワーク接続ストレージ ( NAS ) デバイスに移動することで、アプライアンスのディスク領域を解放できます。また、仮想K2000アプライアンスまたはリモートサイトアプライアンス ( RSA ) に保存されたデータを追加の仮想ディスクに移動することもできます。

オフボードストレージを有効にすると、内部ドライブから、イメージ、プレインストールタスクとポストインストールタスク、ユーザープロファイル、ソースメディア、ブート環境、およびドライバなどのすべてのデータ

がオフボードストレージデバイスにコピーされます。データが物理アプライアンスに残った場合でも、展開アクティビティは、オフボードストレージデバイスを対象とします。


オフボードストレージデバイスに保存されたデータがオンボードストレージ容量を超えない限り、データを物理K2000アプライアンス、仮想K2000、またはRSAに移行できます。

## オフボードストレージ用の仮想ディスクの追加

仮想ディスクを追加して、仮想K2000アプライアンスまたはリモートサイトアプライアンス ( RSA ) に保存されたデータを追加の仮想ディスクに移行することで、ディスク領域を解放できます。

アプライアンスの電源をオフにして仮想ディスクを追加した後、アプライアンスの電源をオンにします。

Virtual K2000アプライアンスまたはRSAに仮想ディスクを設定するには、以下のことが必要です。

- 仮想ディスクの容量が250 GB以上であることを確認します。Virtual K2000またはRSAのオンボードストレージより少ないストレージ容量の仮想ディスクを使用することはできません。例えば、250 GBのオンボードデータがある場合、仮想ディスクには使用可能なストレージ容量が250 GB以上なければなりません。
  - データ移行は、データ量やネットワーク速度によって数時間かかることもあるため、移行計画を立てます。仮想K2000またはRSAは、データの移行中は使用できません。
1. 左側のナビゲーションペインで、設定 をクリックして コントロールパネル を表示し、次に データストレージ をクリックして データストレージ ページを表示します。
  2. オフボードストレージに変更 をクリックして、データストレージの設定 を表示します。
    -  仮想ディスクが追加されていない場合、または適切に接続されていない場合、データ移行を実行できません。
    - 複数の仮想ディスクが接続されている場合は、接続されている仮想ディスクが1つだけになるよう、余分な仮想ディスクを削除します。データストレージの設定 ページに戻り、手順を再開します。
  3. デバイスの確認 をクリックします。

K2000が、デバイスの到達可能性と設定可能性の確認を開始します。詳細の表示 に確認のステータスが表示されます。
  4. 移行 をクリックして、データをオフボードストレージにコピーします。

プログレスバーに進行状況が表示されます。
  5. 移行が完了したら、閉じる をクリックします。
  6. ストレージタイプが変更されていることを確認します。

エラーが発生した場合は、設定 をクリックしてセクションを展開します。次に アプライアンスログ をクリックして アプライアンスログ ページを表示し、データストレージの設定 ログを選択します。

## オフボードデータをオンボードストレージに戻す

オフボードストレージデバイスに保存されたデータがオンボードストレージ容量を超えない限り、データを元の物理K2000アプライアンス、仮想K2000、またはリモートサイトアプライアンスに移行できます。K2000アプラ

イアンスは、データに対して十分な領域があるかどうかを検証します。デバイス上のデータのサイズがアプライアンスの空き領域を超えている場合、オフボードデータは移行されません。

K2000アプライアンスのデータストレージ容量に関する情報については、次を参照してください。

- <http://documents.quest.com/k2000-systems-deployment-appliance/technical-specifications-for-physical-appliances/>
  - <http://documents.quest.com/k2000-systems-deployment-appliance/technical-specifications-for-virtual-appliances/>
1. 左側のナビゲーションペインで、設定 をクリックして コントロールパネル を表示し、次に データストレージ をクリックして データストレージ ページを表示します。
  2. オフボードストレージに変更 をクリックして、データストレージの設定ウィザードを表示します。
  3. 次のいずれかの方法でオフボードデータをオンボードストレージに復元します。
    - 新しいデータをオフボードストレージデバイスに追加する。
      - a. オフボードストレージに移行する前に、アプライアンス上にあった元データに戻る をクリックします。オフボードストレージデバイス上に保存された新しいデータは、オンボードデータをオフボードストレージへ移行した後に失われます。
      - b. 次へ をクリックし、はい、オンボードストレージに戻ります を選択します。
    - 新しいデータをオフボードストレージデバイスに追加しない。
      - a. データをオフボードストレージからアプライアンスにコピー をクリックします。
      - b. ストレージの空き領域を確認 をクリックします。

デバイスからデータを受け取るための十分な空き領域があるかどうかをK2000が検証したら、移行を続行することを確認します。

- c. 移行 をクリックします。
- RSAデータを仮想ディスクに移行する場合は、データを仮想ディスクに移行する前にRSAとアプライアンスを同期します。

**i** 注: オフボードストレージからオンボードストレージへの逆方向の移行中にRSAを再起動すると、RSAにアクセスできなくなります。

- a. 左側のナビゲーションペインで、展開 をクリックして、リモートサイトををクリックし、リモートサイトアプライアンス ページを表示します。
- b. RSAを選択し、アクションの選択 > 同期 を選択します。

## オフボードストレージデバイスの設定

外部ネットワーク接続ストレージ (NAS) デバイスを追加して、物理K2000アプライアンスに保存されたデータを移行することで、物理アプライアンスのディスク領域を解放できます。データをオフボードストレージデバイスに移行すると、物理アプライアンスに保存されたデータにはアクセスできなくなります。

データ移行は、データ量やネットワーク速度によって数時間かかることもあるため、移行計画を立てます。データの移行中は、アプライアンスにアクセスすることはできません。

K2000アプライアンスから使用できないデバイス固有の設定手順については、Webサイト<http://www.itninja.com/community/dell-kace-k2000-deployment-appliance>を参照してください。

1. 左側のナビゲーションペインで、設定 をクリックして コントロールパネル を表示し、次に データストレージ をクリックして データストレージ ページを表示します。
2. オフボードストレージに変更 をクリックして、データストレージの設定ウィザードを表示します。
3. 物理アプライアンスの場合、ストレージデバイスを選択します。

デバイスのストレージ容量が250 GB以上であることを確認します。オフボードストレージデバイスには、K2000オンボードストレージより大きいストレージ容量が必要です。例えば、250 GBのオンボード

データがある場合、オフボードストレージデバイスには使用可能なストレージ容量が250 GB以上なければなりません。

4. アドレス に、オフボードストレージデバイスのホスト名またはIPアドレスを入力します。  
共有パス に、オフボードストレージデバイスに設定されている共有の完全なパスを入力します。
5. デバイス設定項目を設定して、デバイスの設定の確認 をクリックします。

デバイスの説明を読んで、オフボードストレージデバイス用に記載されている設定項目が適切に設定されていることを確認します。プライベートネットワークを使用し、可能な場合には、IPアドレスによってアクセス制限することで、セキュリティの脆弱性を防止します。

K2000により、デバイスが到達可能か、また設定可能かどうかの確認が行われます。詳細の表示 に確認のステータスが表示されます。

6. 移行 をクリックして、データをオフボードストレージにコピーします。  
プログレスバーに進行状況が表示されます。
7. 移行が完了したら、閉じる をクリックします。
8. ストレージタイプが変更されていることを確認します。

エラーが発生した場合は、設定 をクリックしてセクションを展開します。次に アプライアンスログ をクリックして アプライアンスログ ページを表示し、データストレージの設定 ログを選択します。

# アプライアンスの問題のトラブルシューティング

K2000サポートポータルにアクセスして、アプライアンスへのサポートチームのtetherを要求できます。また、起動マネージャのテスト、デバイスの回復、およびログファイルのダウンロードを管理者コンソールから行うことができ、これらはトラブルシューティングの際に役立ちます。

また、K2000のデータベースを照会するユーティリティであるK2000 Advisorをダウンロードして、アプライアンスについての情報を収集してHTMLレポートにまとめることができ、データの収集またはK2000のトラブルシューティングに役立てることができます。詳細について参照する場合、またはK2000 Advisorをダウンロードする場合は、<http://www.itinja.com/blog/view/k2-advisor>に移動してください。

## ネットワーク上でのデバイス接続のテスト

pingプログラムを使用して、ネットワーク接続をテストできます。

1. 左側のナビゲーションペインで、サポート をクリックして、KACEサポートポータル パネルを表示します。
2. トラブルシューティング をクリックして、サポートトラブルシューティングツール ページを表示します。
3. ツール ドロップダウンリストから、ping を選択します。
4. デバイスのIPアドレスを入力して、テスト をクリックします。  
結果が表示されます。
5. 他のプログラムを使用するには、そのプログラムをドロップダウンリストから選択して、テスト をクリックします。

## Quest KACEテクニカルサポートへのtetherを有効にする

K2000サポートポータルにアクセスして、アプライアンスへのtetherを要求し、Quest KACEテクニカルサポートが問題をトラブルシューティングできるようにすることができます。

<https://support.quest.com/contact-support>でQuest KACEテクニカルサポートに問い合わせ、tetherキーを取得します。

セキュリティを確保するために、サポートチームがアプライアンスへのリモートアクセスを有効にすることを承認した後で、アプライアンスへのリモートアクセスを有効にします。

1. 左側のナビゲーションペインで、設定 をクリックして コントロールパネル を表示し、次に セキュリティ をクリックして セキュリティ設定 ページを表示します。
2. SSHルートログインの許可 ( KACEサポート ) チェックボックスをオンにします。
3. 保存 をクリックします。
4. 左側のナビゲーションペインで、サポート をクリックして、KACEサポートポータル パネルを表示します。
5. Quest KACEへの問い合わせ で、tetherキーの入力 をクリックして、Support Tetherキー ページを表示します。
6. tetherを有効にする チェックボックスをオンにして、サポートチームが提供したキーを入力します。
7. 保存 をクリックします。

これでQuest KACEテクニカルサポートがアプライアンスにリモートアクセスできるようになりました。

## サポートチケットを開く

アプライアンス内からサポートチケットを開くことにより、アプライアンス関連の問題をトラブルシューティングするための詳細情報の入力、バグレポートの送信、および機能拡張の要求を行うことができます。

1. 左側のナビゲーションペインで、サポート をクリックして、KACEサポートポータル パネルを表示します。
2. Quest KACEへの問い合わせ で、チケットの送信 をクリックして、新しいサポートチケット ページを表示します。
3. 必要な情報を入力し、送信 をクリックします。

## 起動マネージャのトラブルシューティング

KBEを読み込むのに必要な内蔵グラフィックスをサポートしていないデバイス用に、起動マネージャインターフェイスを変更したり、起動マネージャがターゲットデバイスで表示される期間を設定したりできます。また、アプライアンスがDHCPサーバーの応答を待機する時間を設定したり、デバイスのネットワーク接続をテストしたりできます。

## ターゲットデバイスがネットワーク起動できるかどうかをテストする

ターゲットデバイスのネットワークインターフェイスカード ( NIC ) がネットワーク起動をサポートする場合、ターゲットデバイスをK2000アプライアンスで起動できるかどうかをテストできます。

1. ネットワーク経由で起動するように、ターゲットデバイスのBIOSを設定します。
2. ターゲットデバイスを再起動します。  
ターゲットデバイスがネットワーク起動サーバーを検索します。
3. 起動マネージャから、デバイスのハードウェアをサポートする、KBEのアーキテクチャを選択します。  
ターゲットデバイスがKBEから起動します。



注: 起動マネージャが読み込まれない場合は、別のインターフェイスタイプを選択します。詳細については、[起動マネージャインターフェイスの変更](#)を参照してください。

ターゲットデバイスが正常に起動されます。

## 起動マネージャインターフェイスの変更

起動マネージャは、デバイスがネットワーク起動した直後に表示され、デバイスのハードウェアをサポートするK2000ブート環境 ( KBE ) のアーキテクチャの選択を可能にします。起動マネージャでは、メニューインターフェイスまたはテキストインターフェイスを選択できます。

1. 左側のナビゲーションペインで、**設定** をクリックして **コントロールパネル** を表示し、次に **一般設定** をクリックして **一般設定 ページ** を表示します。
2. 起動マネージャのスタイル ドロップダウンリストから、適切なオプションを選択します。
  - **グラフィカルメニュー**: このメニューでは、矢印キーを使用できます。
  - **テキストメニュー**: このメニューは、内蔵グラフィックスには対応していないが矢印キーの使用に対応しているNICが実装されている古いデバイスをサポートしています。
  - **基本**: このメニューでは、矢印キーを使用してメニューオプションを選択できません。必要なブート環境に対応する文字の組み合わせを入力します。
3. **保存** をクリックします。

起動マネージャインターフェイスは、アプライアンスで起動するすべてのデバイスで変更されます。

## 起動マネージャのタイムアウトの設定

デバイスをK2000ブート環境 ( KBE ) でネットワーク起動する場合、起動マネージャがターゲットデバイス上で表示される時間を指定できます。

通常、デバイスのセットアップおよびトラブルシューティングを行うテスト環境では、タイムアウト時間を長くすることができます。ただし、本番環境では、タイムアウト時間を数秒に短縮して、ユーザーによる起動シーケンスの中断を防ぐ必要があります。

1. 左側のナビゲーションペインで、**設定** をクリックして **コントロールパネル** を表示し、次に **一般設定** をクリックして **一般設定 ページ** を表示します。
2. 起動マネージャのタイムアウトに、秒単位で期間を入力します。

デフォルト値は15秒です。タイムアウトは最大15分 ( 900秒 ) まで延長することができます。タイムアウト期間を延長すると、ユーザーが起動シーケンスの変更や中断を行ってしまう可能性があります。
3. **保存** をクリックします。

アプライアンスからのすべてのPXE起動について、起動マネージャのタイムアウトが変更されます。

## ローカルハードディスク起動方法の選択

ハードドライブからデバイスを起動するとき、そのデバイスを起動する方法を指定できます。

ローカル起動と連鎖起動の両方の方法が使用できますが、連鎖起動を推奨します。

1. 左側のナビゲーションペインで、設定 をクリックして コントロールパネル を表示し、次に 一般設定 をクリックして 一般設定 ページを表示します。
2. ローカルハードディスク起動方法：BIOS をクリックして、BIOSデバイスの起動方法を選択します。
  - 連鎖起動：PXELINUXを使用してデバイスをハードドライブに連鎖起動する場合は、このオプションを選択します。
  - ローカル起動：ビルトインiPXEコマンドを使用してハードドライブから起動を行う場合は、このオプションを選択します。
3. ローカルハードディスク起動方法：UEFI をクリックして、UEFIデバイスの起動方法を選択します。
  - 連鎖起動：UEFIスクリプトを実行してWindows UEFI起動マネージャをロードする場合は、このオプションを選択します。
  - ローカル起動：ビルトインiPXEコマンドを使用してハードドライブから起動を行う場合は、このオプションを選択します。
4. 保存 をクリックします。

## ネットワーク遅延時間の変更

ネットワークドライブがマウントされた後、DHCPサーバーの応答をアプライアンスが待機する時間の長さを変更できます。K2000ブート環境 (KBE) から起動するとき、この接続時間が経過してから、ブートプロセスが続行されます。

ネットワークで遅延が大きく、割り当てられた時間内にデバイスをK2000ブート環境 (KBE) で起動できない可能性がある場合は、デフォルトの KBEネットワークの起動遅延 時間 (15秒) を変更できます。

1. 左側のナビゲーションペインで、設定 をクリックして コントロールパネル を表示し、次に 一般設定 をクリックして 一般設定 ページを表示します。
2. KBEネットワークの起動遅延 に、秒単位で期間を入力します。

ネットワーク遅延時間を5秒間隔で増やすことで、KBEにアクセスできる時間を延長します。待機時間の長いネットワークでは、KBEを完全に読み込むのに必要な時間を確保するために、遅延時間の延長が必要になる場合があります。
3. 保存 をクリックします。

## デバイスの回復

KBEのメインメニューには、回復 メニューオプションがあります。KBEのメインメニューは、デバイスをアプライアンスでネットワーク起動するとターゲットデバイスに読み込まれます。ファイルの修正または置き換え、およびレジストリの編集を行って、応答がないデバイスを起動できます。

## 破損したデバイスの回復

破損したデバイスまたはハードドライブから起動できないデバイスを復元できます。

1. ターゲットデバイスのKBEのメインメニュー から、回復 をクリックします。

回復ツールが表示されます。
2. 実行する回復ツールをクリックします。

レジストリ編集ウィンドウを閉じ、行った変更を保存します。
3. メインメニューに戻る をクリックしてツールを終了します。



# K2000ログファイルのダウンロード

ログファイルを管理者コンソールから直接ダウンロードでき、トラブルシューティングのときに活用できます。

## すべてのアプライアンスログファイルのダウンロード

K2000のすべてのアプライアンスログファイルをダウンロードできます。ログファイルは、アプライアンスで発生していることを追跡および確認し、発生した可能性のある問題を識別するのに役立ちます。

1. 左側のナビゲーションペインで、**設定** をクリックしてセクションを展開し、次に **アプライアンスログ** をクリックして **アプライアンスログ ページ** を表示します。
2. ページの下部までスクロールして **ログのダウンロード** をクリックし、**アプライアンスログ ページ** を表示します。
3. **OK** をクリックします。

ログファイルは、1つの.tgzファイルとしてダウンロードされます。

4. ファイルを抽出して、そのコンテンツを表示します。

問題のログファイルまたはスクリーンショットにアクセスできるようにすることで、Quest KACEテクニカルサポートによる問題の診断と解決が行いやすくなります。

Quest KACEテクニカルサポートへのtetherを有効にして、Quest KACEの担当者がトラブルシューティングのためにアプライアンスに接続できるようにすることができます。詳細については、[Quest KACEテクニカルサポートへのtetherを有効にする](#)を参照してください。

## アプライアンスログファイルの表示

K2000アプライアンスにより自動的に作成および保持されるログファイルを表示できます。

1. 左側のナビゲーションペインで、**設定** をクリックしてセクションを展開し、次に **アプライアンスログ** をクリックして **アプライアンスログ ページ** を表示します。
2. 表示するログファイルの名前をクリックします。

日付の古い順に、ログの内容がページに表示されます。表示方法として **古いものを上に表示** または **新しいものを上に表示** を選択できます。

## アプライアンスログのタイプと説明

システム、Webサーバー、K2000サーバー、ファイルサーバー、タスクプロセッサ、特権のあるアクションサーバー、スケジュール済みアクションサーバー、ユーザープロファイルの移行、およびインポートとエクスポートのログファイルの説明を表示できます。

アプライアンスログ

| ログタイプ | ログ名       | 説明                                        |
|-------|-----------|-------------------------------------------|
| システム  | システムメッセージ | K2000を実行しているオペレーティングシステムのシステムメッセージを表示します。 |
|       | 送信メールログ   | K2000アプライアンスから送信されたEメールメッセージのログが表示されます。   |

| ログタイプ     | ログ名             | 説明                                                                    |
|-----------|-----------------|-----------------------------------------------------------------------|
|           | データストレージの設定     | K2000の外部ストレージの設定が表示されます。                                              |
| Webサーバー   | アクセスログ          | Apache™ Webサーバーの要求ログファイルが表示されます。                                      |
|           | エラーログ           | Apache Webサーバーのエラーログファイルが表示されます。                                      |
| K2000サーバー | 出力ログ            | システム更新、クリーンアップタスク、オフボードストレージ更新、ドライバフィード、およびドキュメンテーション更新のメッセージが表示されます。 |
|           | エラーログ           | システム更新、クリーンアップタスク、オフボードストレージ更新、ドライバフィード更新、およびドキュメンテーション更新のエラーが表示されます。 |
|           | マルチキャストログ       | マルチキャストイメージ作成ジョブに関するプログラム実行の詳細を表示します。                                 |
| ファイルサーバー  | TFTP転送ログ        | K2000ブートエラーと要求が表示されます。                                                |
|           | NETBIOSネームサーバー  | K2000上のNetBIOSサーバーからのメッセージを表示します。                                     |
|           | Windowsファイルサーバー | K2000でフォルダを共有するSAMBAserviceからのメッセージが表示されます。                           |
| タスクプロセッサ  | 出力ログ            | バックグラウンドでタスクを実行するK2000サーバータスクプロセッサからのメッセージが表示されま                      |

| ログタイプ             | ログ名   | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|-------------------|-------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                   |       | <p>す。処理可能なタスクを以下に示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>メディアマネージャがアップロードするソースメディアのインポート。</li> <li>WIMまたはK-Imageのインポート。</li> <li>ドライバキャッシュの再構築。</li> <li>KBE環境の再構築。</li> <li>スクリプト形式のインストールの作成と更新。</li> <li>リモートK2000との同期。</li> </ul>                                                             |
|                   | エラーログ | K2000サーバータスクプロセッサが実行するタスクのエラーが表示されます。                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| 特権のあるアクションサーバー    | 出力ログ  | <p>特権のあるアクションサーバーからの出力が表示されます。特権のあるアクションとは、実行に高い権限を必要とするタスクです。これらのタスクには、以下が含まれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ネットワーク、地域とロケール、日付と時刻、またはSSLなどのK2000設定の変更。</li> <li>アップグレードの実行。</li> <li>再起動または電源オフコマンドの実行。</li> <li>外部ストレージへの移行、外部ストレージからのインポート。</li> <li>インポートされたメディアへのファイル権限の設定。</li> </ul> |
|                   | エラーログ | 特権のあるアクションサーバーの実行時に発生するエラーを表示します。                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| スケジュール済みアクションサーバー | 出力ログ  | K2000スケジュール済みタスクからのメッセージが表示されます。                                                                                                                                                                                                                                                                           |

| ログタイプ         | ログ名         | 説明                                                                                                                                                                                                                                                    |
|---------------|-------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|               |             | <p>スケジュール済みタスクには、以下が含まれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ドライバ障害の確認。</li> <li>• ディスク使用状況チャートおよび外部ストレージステータスの更新。</li> <li>• Quest KACEからのドライバフィード更新の確認。</li> <li>• サーバー更新の確認。</li> <li>• ログのローテーション。</li> <li>• ディスクのクリーンアップ。</li> </ul> |
|               | エラーログ       | スケジュール済みタスクのエラーを表示します。                                                                                                                                                                                                                                |
| ユーザープロファイルの移行 | 失敗に関するエラーログ | オンラインUSMTスキャンプロセスの失敗を表示します。                                                                                                                                                                                                                           |
| インポートとエクスポート  | インポートログ     | すべてのインポートジョブの出力とエラーを表示します。                                                                                                                                                                                                                            |
|               | エクスポートログ    | すべてのエクスポートジョブの出力とエラーを表示します。                                                                                                                                                                                                                           |
|               | ログのダウンロード   | K2000のログファイルを単一の.tgzファイルとしてダウンロードします。                                                                                                                                                                                                                 |
| REST API      | APIログ       | REST APIから出力とエラーを表示します。                                                                                                                                                                                                                               |

## アプライアンスのシャットダウンと再起動

トラブルシューティングやメンテナンスタスクの実行時には、アプライアンスのシャットダウンや再起動が必要になることがあります。

アプライアンスをシャットダウンまたは再起動する前に、次のプロセスのいずれもアクティブになっていないことを確認してください。

- パッケージのインポートまたはエクスポート
- ソースメディアのアップロード
- システムイメージのアップロードまたは再構築
- スクリプト形式のインストールの再構築
- 展開
- RSAの同期
- ドライバフィードによるドライバのダウンロード
- ユーザープロファイルのスキャン

## アプライアンスの電源をオフにする

展開が停止した場合、またはネットワーク接続に問題がある場合、K2000アプライアンスの電源をオフにして、再起動できます。アプライアンスの電源をオフにするには、電源 ボタンを押し、オンにするには再度押します。

アプライアンスをシャットダウンする前に、アクティブなプロセスがないことを確認します。

1. 左側のナビゲーションペインで、設定 をクリックしてセクションを展開し、次に アプライアンスのメンテナンス をクリックして アプライアンスのメンテナンス ページを表示します。
2. ユーティリティ > 電源管理 で、電源オフ をクリックします。

アプライアンスがシャットダウンします。

アプライアンスを有効にするには、電源スイッチを押します。

## アプライアンスの再起動

展開が停止した場合、またはネットワーク接続に問題がある場合、K2000アプライアンスを再起動して処理を再実行できます。アプライアンスを再起動すると、アプライアンスの電源が自動的にオンになります。

アプライアンスを再起動する前に、アクティブなプロセスがないことを確認します。

1. 左側のナビゲーションペインで、設定 をクリックしてセクションを展開し、次に アプライアンスのメンテナンス をクリックして アプライアンスのメンテナンス ページを表示します。
2. ユーティリティ セクションで、再起動 をクリックします。
3. 数分後、ブラウザを最新の表示に更新します。

ログイン ページに戻ります。

# アプライアンスソフトウェアの更新

アプライアンスソフトウェア更新を確認してインストールできます。アプライアンスを更新する場合、ブート環境、起動マネージャ、およびデフォルトのブートアクションなどのカスタム設定は保持されます。K2000アプライアンスソフトウェアを更新するたびに、リモートサイトアプライアンス (RSA) OVFイメージを更新します。

## アプライアンスバージョンの表示

すべてのページで、K2000アプライアンスのバージョンを表示できます。また、アプライアンスソフトウェアの更新をアプライアンスのメンテナンス ページで確認および適用できます。

次のいずれかの方法を使用して、アプライアンスバージョンを表示します。

- 任意のページからアプライアンスバージョンを表示する。
  1. 左下隅の K2000について リンクをクリックして、バージョンと著作権情報を表示します。
- 現在のソフトウェアバージョンを表示し、アプライアンスソフトウェアの更新を確認および適用します。
  1. 左側のナビゲーションペインで、設定 をクリックしてセクションを展開し、次に アプライアンスのメンテナンス をクリックして アプライアンスのメンテナンス ページを表示します。
  2. K2000アプライアンスの更新 の 現在のバージョン の下にある現在のソフトウェアバージョン番号を確認します。

## 自動更新の確認および適用

より新しいバージョンのアプライアンスソフトウェアが使用できるかどうかを確認できます。



**注:** 更新のインストールまたはアプライアンスソフトウェアのアップグレードを行う前には、必ずアプライアンスコンポーネントをバックアップしてください。手順については、[オフボードパッケージ転送の使用](#)を参照してください。

アップグレードする前にアプライアンスを再起動します。K2000アプライアンスの以前のバージョンをお使いの場合は、インストールに進む前に、最小バージョンにアップグレードし、SSHを有効にする必要があります。RSAを使用している場合、RSA OVFイメージを最新のバージョンにアップグレードします。アプライアンスでソフトウェア更新を適用するには、インターネットアクセスが必要です。

一部の更新は適用に数時間かかります。また、完了後にアプライアンスの再起動が必要なことがあります。

1. 左側のナビゲーションペインで、設定 をクリックしてセクションを展開し、次に アプライアンスのメンテナンス をクリックして アプライアンスのメンテナンス ページを表示します。
2. K2000アプライアンスの更新 セクションには、アプライアンスソフトウェアのステータスが表示されます。ソフトウェアが最新ではない場合、自動更新 で、サーバーの更新の確認 をクリックします。
3. 更新が使用できる場合は、更新を適用する前にアプライアンスコンポーネントを別の場所にバックアップします。詳細については、[オフボードパッケージ転送の使用](#)を参照してください。

K2000アプライアンスソフトウェアを更新するごとに、RSA OVFイメージを更新します。

# アプライアンスの手動更新

アプライアンスがインターネットにアクセスできない場合は、アプライアンスソフトウェアとデータベースに対してパッチと更新を手動で適用できます。

最新のkbinファイルを、アプライアンスからアクセスできるデバイスにダウンロードします。アップグレードする前にアプライアンスを再起動します。K2000アプライアンスの以前のバージョンをお使いの場合は、インストールに進む前に、最小バージョンにアップグレードし、SSHを有効にする必要があります。K2000アプライアンスソフトウェアを更新するごとに、RSA OVFイメージを更新します。

一部の更新は完了するまで数時間かかります。また、完了後にアプライアンスの再起動が必要なことがあります。

1. 左側のナビゲーションペインで、**設定** をクリックしてセクションを展開し、次に **アプライアンスのメンテナンス** をクリックして **アプライアンスのメンテナンス ページ** を表示します。
2. K2000アプライアンスの更新 セクションの **手動更新** で、**参照** をクリックして更新ファイルを選択します。
3. K2000の更新 をクリックします。

更新が適用されます。

アプライアンスを再起動します。

# 当社について

## 名前を超える存在

当社は情報技術をより促進するための探求をしています。IT管理の時間を短縮し、ビジネス革新に時間を費やせるようにするために、コミュニティ主導のソフトウェアソリューションを構築しています。データセンターのモダナイゼーション、クラウドへの素早いアクセス、データ駆動型ビジネスを成長させるために必要な専門知識、セキュリティ、およびアクセシビリティの提供をサポートします。革新の一部となるグローバルコミュニティへのQuestの促進と、顧客満足度を確実にするための当社のコミットメントを組み合わせることで、当社はお客様に真のインパクトを与え、誇りとなるレガシーを残すソリューションを提供し続けます。当社は新しいソフトウェア企業に変化していくことで現状に挑戦しています。お客様のパートナーとして、情報技術が、お客様のために、そしてお客様により設計されるよう、継続して取り組み続けます。それこそが当社のミッションであり、一体となりこのミッションに取り組んでいます。新しいQuestによろこそ。当社とともに革新を促進させましょう。

## 当社のブランドとビジョンと、ともに

当社のロゴは、革新、コミュニティ、サポートという当社のストーリーを反映しています。このストーリーの重要な部分は、「Q」で始まります。これは技術的な精度と強度へのコミットを表している完全な円です。Qの空間は、コミュニティと新しいQuestに欠けている部分、つまりお客様に参加していただく当社の必要性を象徴しています。

## Questへのお問い合わせ

セールスまたはその他のお問い合わせについては、[www.quest.com/company/contact-us.aspx](http://www.quest.com/company/contact-us.aspx)を参照するか、1-949-754-8000までお電話ください。

## テクニカルサポートのリソース

サポートポータルは、問題を迅速に自身で解決するのに使用できるセルフヘルプツールを提供しており、毎日24時間アクセスできます。このサイトでは、以下の操作を実行できます。

- サービスリクエストの送信と管理
- サポート技術情報記事の表示
- 製品情報への登録
- ソフトウェアと技術文書のダウンロード
- 説明ビデオの再生
- コミュニティの討論への参加
- サポートエンジニアとのオンラインチャット
- 製品のサポートサービスの表示



Copyright 2017 Quest Software Inc. ALL RIGHTS RESERVED.

This guide contains proprietary information protected by copyright. The software described in this guide is furnished under a software license or nondisclosure agreement. This software may be used or copied only in accordance with the terms of the applicable agreement. No part of this guide may be reproduced or transmitted in any form or by any means, electronic or mechanical, including photocopying and recording for any purpose other than the purchaser's personal use without the written permission of Quest Software Inc.

The information in this document is provided in connection with Quest Software products. No license, express or implied, by estoppel or otherwise, to any intellectual property right is granted by this document or in connection with the sale of Quest Software products. EXCEPT AS SET FORTH IN THE TERMS AND CONDITIONS AS SPECIFIED IN THE LICENSE AGREEMENT FOR THIS PRODUCT, QUEST SOFTWARE ASSUMES NO LIABILITY WHATSOEVER AND DISCLAIMS ANY EXPRESS, IMPLIED OR STATUTORY WARRANTY RELATING TO ITS PRODUCTS INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTY OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE, OR NON-INFRINGEMENT. IN NO EVENT SHALL QUEST SOFTWARE BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, CONSEQUENTIAL, PUNITIVE, SPECIAL OR INCIDENTAL DAMAGES (INCLUDING, WITHOUT LIMITATION, DAMAGES FOR LOSS OF PROFITS, BUSINESS INTERRUPTION OR LOSS OF INFORMATION) ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THIS DOCUMENT, EVEN IF QUEST SOFTWARE HAS BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES. Quest Software makes no representations or warranties with respect to the accuracy or completeness of the contents of this document and reserves the right to make changes to specifications and product descriptions at any time without notice. Quest Software does not make any commitment to update the information contained in this document.

If you have any questions regarding your potential use of this material, contact:

Quest Software Inc.

Attn: LEGAL Dept




4 Polaris Way

Aliso Viejo, CA 92656

Trademarks

Quest, KACE, and the Quest logo are trademarks and registered trademarks of Quest Software Inc. in the U.S.A. and other countries. For a complete list of Quest Software trademarks, please visit our website at [www.quest.com/legal](http://www.quest.com/legal). All other trademarks, servicemarks, registered trademarks, and registered servicemarks are the property of their respective owners.

凡例

-  **注意:** 注意アイコンは、指示に従わなかった場合に、ハードウェアの損傷やデータ損失につながる可能性があることを示します。
-  **警告:** 警告アイコンは、物的損害、人身傷害、または死亡事故につながるおそれがあることを示します。
-  **重要、注、ヒント、モバイル、またはビデオ:** 情報アイコンは、補足情報を表しています。

KACEシステム導入アプライアンス ( K2000 ) 管理者ガイド

更新 - 2017年1月

ソフトウェアバージョン - 4.1

# 用語集

## BSCP

Macコンピューターに組み込まれているBSCP ( Base Station Control Protocol ) と、ローカルハードドライブまたはサーバーから起動するためのオプションを表示するブートストラップファイル。

## BDSP ( Boot Server Discovery Protocol )

ローカルストレージメディアからではなくネットワーク上の起動可能イメージからMacコンピューターを起動できるようにする、Appleが開発した標準準拠のDHCP拡張プロトコル。

## DHCPスコープ

DHCPサーバーがK2000アプライアンスと同じサブネットに存在するデバイスにリース可能なIPアドレスの範囲。

## DISKPART

K2000アプライアンスに組み込まれているWindowsユーティリティで、スクリプトを使用してディスクまたはパーティションなどのオブジェクトを管理します。

## ImageX

ファイルベースのディスクイメージをキャプチャ、変更、および適用する機能を提供し、Windowsイメージ ( .wim ) ファイルをネットワークにコピーして迅速に展開できるツール。ImageXは、Windows セットアップ、Windows展開サービス ( Windows DS )、System Management Server ( SMS ) Operating System Feature Deployment Packなど、.wimイメージを使用するその他の技術とも連携します。

## ITNinja

Quest KACEがスポンサーとなっているITNinja.com ( 以前のAppDeploy.com ) は、ITに焦点を絞った製品不問のコミュニティウェブサイトです。ITプロフェッショナルはこのサイトを使用して、システム展開関連のトピックについて情報を共有したり、質問したりします。

## K-Image

コンピューターおよびサーバーのイメージを容易に編集でき、イメージの再構築を不要にするファイルベースの形式。

## K2000ブート環境 ( KBE )

ターゲットデバイス上でさまざまなWindowsベースのタスクを実行するためのオペレーティングシステムの簡易版のブート環境。KBEでは、ディスクイメージの作成、スクリプト形式のインストール、回復、ファイルの参照、インベントリの収集を行えます。

## KBEのメインメニュー

イメージのキャプチャ、スクリプト形式のインストールとシステムイメージの展開、およびデバイスの回復を実行できる、K2000ブート環境のユーザーインターフェイス。

## OEMキー

工場でのWindows 7以上のインストールに使用する単一のコンピューターライセンス。通常、中規模企業は、このライセンスを使用してデバイスに含まれている初期ソフトウェアライセンスを活用します。

## PXEブート

オペレーティングシステムがインストールされているターゲット環境を使用しないネットワークからのブート。PXEブートでは、USB、CD、DVDドライブなどの外部ストレージデバイスは不要です。

## Sysprep

Microsoft Sysprepツールは、すべてのシステム固有情報を削除し、デバイスをリセットします。

## tether

トラブルシューティングするためにユーザーのデバイスにQuest KACEテクニカルサポートチームが行う接続。

#### USMTスキャンテンプレート

スキャンから除外するユーザー固有のファイルと設定を定義するテンプレート。

#### VNCパスワード

アプライアンスから起動中のターゲットデバイスへの接続を可能にする、K2000に含まれているJava VNCクライアント。

#### WIM ( Windowsイメージファイル形式 )

Windowsオペレーティングシステムの標準インストール手順の一部で使用される、K2000でサポートされるファイルベースのディスクイメージ形式。

#### Windows ADK

Windowsアセスメント&デプロイメントキット ( Windows ADK ) は、Windows 7以上およびWindows Server 2012コンピューターでK2000ブート環境 ( KBE ) を構築するのに必要な一連のツールです。

#### Windows PE

Windowsをインストールするコンピューターを準備し、ネットワークファイルサーバーからディスクイメージをコピーし、Windowsのセットアップを開始します。

#### WSName.exe

テキストファイルを使用してWindowsターゲットデバイスの名前を変更する、K2000でサポートされるユーティリティ。

#### アクションアイコン

K2000アプライアンスに組み込まれているリモート接続プログラム。

#### アプライアンス/仮想アプライアンス

K2000アプライアンスは、VMwareまたはHyper-Vインフラストラクチャを使用する物理または仮想のシステム導入アプライアンスとして提供されています。物理アプライアンスと仮想アプライアンスのどちらでも、同じシステム導入機能が利用できます。

#### オフボードストレージ

外付NASデバイスを使用して、K2000の内部ストレージ容量を拡張します。オフボードストレージは、追加の仮想ディスクを使用することにより、リモートサイトアプライアンス ( RSA ) と仮想K2000 ( VK2000 ) のストレージ容量も拡張します。外部ストレージが有効になると、内部ストレージは使用できなくなります。

#### オフボードデータベースアクセス

外部レポートプログラムがK2000データベースに接続し、クエリを実行できるようにするK2000設定。

#### オフラインユーザー移行スキャン

アプライアンスは、ユーザープロファイルのオフラインスキャンプレインストールタスクを使用して、ユーザープロファイルをキャプチャします。

#### オンラインユーザー移行スキャン

アプライアンスはユーザープロファイルの展開ポストインストールタスクを使用して、キャプチャされたユーザープロファイルを移行します。

#### クリーンインストール

データが消去されたハードドライブへのオペレーティングシステムのインストール。

#### ゴールドマスター

イメージのキャプチャ元として使用される参照マシン。K2000は、スクリプト形式のインストールを通じてゴールドマスターの作成プロセスを自動化します。

#### サポート技術情報

管理者が経験した実際のKACEシステム導入アプライアンス ( K2000 ) の問題に関する最新の解決策が掲載されているQuest KACEサポート技術情報記事。 <https://support.quest.com/resources/kb>にアクセスしてください。

#### スクリプト形式のインストール

オペレーティングシステムのインストールを自動化し、デスクトップ、ノートPC、およびサーバーのハードウェアに依存しないプロビジョニング機能を提供します。

## ディスクイメージ作成

デバイスのハードディスクにあるすべての内容をセクター単位またはファイル単位でイメージファイルに正確にコピーしたものを提供します。

## ドライバの再キャッシュ

ブート環境およびスクリプト形式のインストール用のdrivers共有ディレクトリに手動で追加されたドライバを更新します。

## ドライバの組み込み

適切なドライバを使用してOSを自動的にインストールします。また、パッチやサービスパックをインストールに統合し、ソフトウェアを直接更新できるようにします。

## ドライバフィード

ダウンロードしてアプライアンスにインストールできる最新のデルのドライバを、drivers\_postinstall共有ディレクトリに追加するビルトインツール。

## ドライバ共有ディレクトリ

drivers共有フォルダからK2000ブート環境を構築するために必要なネットワークドライバと大容量ストレージドライバ、およびオペレーティングシステムがdrivers\_postinstallフォルダから必要とするドライバを管理するローカルK2000ディレクトリ。

## ネイティブイメージ作成

K2000と互換性のあるMicrosoft WIMイメージおよびApple DMGイメージなどのOS固有フォーマット。

## ハードウェア抽象レイヤ

K-Imageの展開後にターゲットデバイスのHAL (ハードウェア抽象レイヤ) をカスタマイズできるようにします。

## ハードウェア非依存の展開

単一のスクリプト形式のインストールを使用して、多数のハードウェア構成にプロビジョニングする機能。K2000は、スクリプト形式のインストールと共に適切なドライバを自動的に追加します。

## パッケージ管理

K2000コンポーネントと別の場所との間でインポート、エクスポート、および転送を実行できるようにするK2000機能。

## ブートアクション

ターゲットデバイスが、次回、ブート環境でネットワーク起動するときに、オペレーティングシステムの展開を開始する手順。

## ボリュームKMS

KMSサーバーが管理およびホストするマルチシートライセンス。通常は、大企業がこのキーを使用します。

## ボリュームMAK

Microsoftが有効化および管理するマルチシートライセンス。ライセンス認証を完了するには、インターネットアクセスが必要です。通常は、中堅規模企業がこのキーを使用します。

## ポストインストールタスク

コンピューター名の設定、ドメインへの参加、およびドライバのインストールなど、オペレーティングシステムの展開後に実行されるタスク。

## メディアマネージャ

K2000ブート環境を構築し、Windows用のアプライアンスにオペレーティングシステムのソースファイルとWindowsユーザー状態移行ツール (USMT) をアップロードするK2000ユーティリティ。Mac OS X用のメディアマネージャは、NetBoot環境を構築します。

## ユーザープロファイル

マイクロソフトのWindowsユーザー状態移行ツール (USMT) を使用して、スキャン、キャプチャ、およびK2000アプライアンスへのアップロードを行う対象となることが可能な、デバイス上のユーザー固有のファイルおよび設定。

## ユーザープロファイルの移行

ユーザー固有のファイルと設定を、オペレーティングシステムとアプリケーションと共にターゲットデバイスに転送します。

#### リテールキー

コンピューター用キーの1つ。通常は、大量のインストールを必要としない小規模な組織がこのキーを使用します。

#### リモートサイトアプライアンス (RSA)

RSAは、K2000から直接ダウンロードして同じK2000ライセンスキーを使用する、K2000アプライアンスの仮想インスタンスです。RSAは、デバイスをネットワーク起動してリモートサイトへ展開できるようにします。リンク機能を使用すると、管理者コンソールにRSAを表示できます。

#### リモートサイト管理

リモート施設で専用のハードウェアや担当者を必要とせずに、リモートサイトに展開することを可能にします。

#### リンク

各アプライアンスの管理者ユーザーアカウントが同じパスワードを持つ場合に、1台の管理者コンソールから、複数のKシリーズアプライアンスを接続し、リンク先アプライアンスにアクセスできるようにするプロセス。

#### ログインフック

ユーザーログイン直後の他のログインプロセスが実行される前に、特定のスクリプトを実行するようMac OS Xに指示する機能。

#### 中レベルのタスク

K2000ブート環境の実行時環境で実行するポストインストールタスク。

#### 状態スキャンユーティリティ

ユーザープロファイルと設定をスキャンおよびキャプチャしてデータの包含または除外を可能にするマイクロソフトのWindowsユーザー状態移行ツール (USMT) ユーティリティ。

#### 応答ファイル

オペレーティングシステムをインストールするための設定を定義するファイル。応答ファイルは、無人のスクリプト形式のインストールで使用されます。

#### 起動マネージャ

ターゲットデバイスがK2000アプライアンスで起動した直後にターゲットデバイスに表示されるブートメニューで、K2000ブート環境 (KBE) の選択を可能にします。

#### 起動マネージャのスタイル

起動マネージャインターフェイスは、グラフィカルメニューとして、または内蔵グラフィックスをサポートするネットワークインターフェイスカードが構成されていないデバイスではテキストメニューとして表示できます。

#### 起動マネージャのタイムアウト期間

起動マネージャがターゲットデバイス上でアクティブであり続ける時間の長さ。

#### 管理者コンソール

KACEシステム導入アプライアンス (K2000) を制御するためのウェブベースのインターフェース。

#### 状態読み込みユーティリティ

データと設定を.migファイルからターゲットデバイスに手動で移行できるようにするMicrosoft User State Migration Toolユーティリティ。

#### 初期設定コンソール

モニタをK2000アプライアンスに接続した後に表示されるコマンドラインインターフェイスで、ネットワーク設定を構成するために使用します。

## A

- Apple証明書エラー
  - 有効期限切れ証明書エラーの解決 94

## D

- DHCP
  - DHCPサーバーの有効化 32
  - オフボードサーバーの設定 33
- DiskPartスクリプト
  - 共通コマンドの使用 75

## K

- K1000
  - KUIDをエージェントに適用 41
  - インベントリへの展開 40
- K2000の設定 16
  - K2000システムクロックの同期 20
  - 基本的なデータ使用率の共有 22
  - 詳細な使用率データの共有 22
  - データ共有について 21
  - デフォルトパスワードの変更 18
  - ネットワーク設定の構成 16
  - ネットワークの初期設定の修正 17
  - 日付と時刻の変更 20
  - リンクアグリゲーションを有効にする 21
- KBE
  - Windows KBEの構築 48
  - デフォルトの設定 49
  - 必要なツール 48
- KUID
  - ポストインストールタスクとして適用 41

## L

- LDAP
  - サーバー設定 26
- LDAPサーバー
  - 外部LDAPサーバーの使用 25

## M

- Macイメージ
  - キャプチャ 96
  - キャプチャ実行前のイメージのカスタマイズ 96
  - 展開前のカスタマイズ 97
- Macイメージの展開
  - ByHost環境設定ポストインストールタスクの追加 97
  - KACE環境変数の実行 99
  - Mac OS X用のメディアマネージャのダウンロード 94
  - NetBootイメージの作成 94
  - NetBootサーバーの有効化 95
  - ユニキャスト展開の実行 99

## Macデバイス

- Active Directoryドメインへの参加 99
- コンピューター名の収集 97, 98
- コンピューター名の適用 98
- サブネットをまたがる起動 94
- 次回起動時に展開の開始 100
- デバイス名の変更 98
- 展開の進行状況の表示 101
- 展開へのデバイスの追加 100
- マルチキャストOS Xログファイルの表示 101
- マルチキャストタイムアウトの変更 100
- マルチキャスト展開について 100
- マルチキャスト伝送速度の変更 100

## R

- RSA
  - リンク 23

## S

- SSL
  - 証明書 29

## U

- UEFIデバイス
  - UEFIパーティションの作成 58
  - UEFIパーティションの適用 59
- USB展開
  - FAT3/2UEFIフォーマットの選択 89
  - デバイスへのブート環境のインストール 89
- USMT
  - アプライアンスからのアップロード 61
  - メディアマネージャからのアップロード 62

## V

- VNC
  - パスワードの設定 19

## W

- Windowsアセスメント&デプロイメントキット (ADK)
  - ダウンロードとインストール 34

## あ

- アクションアイコン
  - アクションアイコンによるVNCセッションの開始 45
  - デバイスでのアクションの実行 44
  - デフォルトプログラムの設定 44
  - ビルトインプログラムについて 43
- アップロード
  - OSインストールのソースメディア 34

- アプライアンスの更新 126
  - 自動での更新の確認と適用 126
  - 手動更新の実行 127
  - ソフトウェアバージョンの表示 126
  - ダウンロードしたファイルから更新 127

## い

- イメージ
  - K2000メインメニューからのキャプチャ 56
  - K-Imageの編集 59
  - WIMイメージのキャプチャ 56, 59
  - キャプチャ 56
  - キャプチャの準備 56
- インストール
  - RSA 103
  - 仮想ディスク領域の設定 103
- インポート
  - コンポーネント 109

## え

- エクスポート
  - コンポーネント 109
  - スケジュール 107
  - リモートサイトへのパッケージの転送 107
- エラー処理
  - エラー発生時の処理の続行の設定 80
  - エラー発生時のプロンプトの表示の設定 80
  - ターゲットデバイスでのキャンセルボタンの表示 80

## お

- オフボードアクセス
  - 有効化 30
- オフボードストレージ
  - 仮想K2000データおよびRSAデータの移行 114
  - 仮想アプライアンスデータの移行 113
  - 仮想ディスクの追加 114
  - 仮想ディスクの容量について 114
  - データの復元 114
  - ネットワークストレージデバイスの設定 115
  - 物理アプライアンスデータの移行 113

## か

- 外部ストレージ
  - 仮想アプライアンスデータの移行 114
  - データの復元 114
  - デバイスのストレージ容量について 115
  - 物理アプライアンスデータの移行 115
- カスタムHAL置換タスク
  - ポストインストールタスクとして追加 77

## き

- 起動マネージャ
  - インターフェイスの選択 91
  - インターフェイスの変更 119
  - タイムアウトの変更 91, 119
  - デバイスネットワーク起動のテスト 118
  - デフォルトのタイムアウトについて 119
  - トラブルシューティング 118

## け

- 言語設定
  - オプションフォントサポート 14

## こ

- コミュニティ文字列
  - 固有の文字列の作成 29
- コンポーネント
  - インポートとエクスポート 107

## さ

- サービスバック
  - ポストインストールタスクとしてインストール 78
- 削除
  - システムイメージ 112
  - ソースメディア 113
  - ブート環境 112
  - プレインストールタスク 113
  - ポストインストールタスク 113
  - 割り当て済みのスクリプト形式のインストール 112

## し

- システムイメージ
  - K-Imageについて 36
  - UEFIイメージについて 36
  - WIMイメージについて 36
  - 削除 112
  - 使用されていないものの削除 111
  - システムイメージのキャプチャ 56
- 実行時環境
  - ダッシュボードについて 79
- 失敗したタスク
  - Tasks.xmlファイルの編集 88
  - 再試行 88
  - 編集 88
- 自動展開
  - イメージ詳細の表示 88
  - 展開の進行状況の表示 87
  - 展開口グの表示 87
- 手動展開 89
  - KBEからのイメージの展開 92
  - USBデバイスへのイメージのコピー 90
  - USBデバイスへのドライバのコピー 90
  - 完了した展開の表示 93
  - 起動可能なフラッシュデバイスの作成 91
  - 起動マネージャのタイムアウトの変更 91
  - 進行中の展開の表示 93
  - デバイスのネットワーク起動 91

## す

- スクリプト形式のインストール
  - 新しいスクリプト形式のインストールの追加 67
  - 応答ファイルの作成 68
  - ベストプラクティス 67
  - 割り当ての削除 112

- スクリプト形式のインストールのセットアップファイル
  - Windowsコンポーネント設定について 70
  - 一般設定の構成 69
  - 管理者アカウント設定の追加 69
  - 設定ファイルの修正 71
  - 登録データの設定の追加 68
  - ネットワーク設定の構成 70
- スケジュール
  - エクスポート 107

## せ

- セキュリティ設定 29
  - SNMP監視の有効化 29
  - SSHの有効化 31
  - SSLの無効化 30
  - SSLの有効化 29
  - オフボードアクセスの有効化 30
  - 証明書の生成 30
  - プライベートSSLキーの生成 30

## そ

- ソースメディア
  - 削除 113
  - ソースメディア詳細の表示 35
  - ソースメディア名の修正 35
- ソフトウェアバージョン
  - アプライアンスの表示 126

## た

- タスクシーケンス
  - 作成 72
  - ビルトインプレインストールタスクの追加 72
  - ビルトインポストインストールタスクの追加 75
- ダッシュボード
  - カスタマイズ 15
  - ダッシュボードについて 15

## ち

- チケット
  - 拡張機能の要求 118
  - 作成と送信 118

## て

- ディスク容量の管理
  - Cドライブのフォーマット 58
  - システムイメージの削除 112
  - ソースメディアの削除 113
  - ブート環境の削除 112
  - プレインストールタスクの削除 113
  - ポストインストールタスクの削除 113
- ディスク領域
  - 空き領域の表示 111
- データ
  - エクスポートとインポート 107

## デバイス

- csvファイルからのデバイスの追加 37
- K1000インベントリ内のデバイスへの展開 40
- MACアドレスを使用しての追加 38
- Wake On LANの送信要求の発行 40
- 詳細の表示 40
- すべてのデバイスに対してネットワークをスキャン 37
- デバイスインベントリについて 37
- デバイスインベントリの削除 42
- デバイスの登録解除 43
- 展開への追加 38
- 電源のオン 40
- ドライバ互換性レポートについて 40
- ネットワークインベントリについて 37
- ネットワークインベントリのアップロード 37
- ネットワークインベントリの削除 43
- ネットワーク上のすべてのデバイスをスキャン 38
- ネットワークスキャンの実行 37

## 展開

- Macデバイスのイメージ作成 94
- システムイメージの展開 35
  - 自動展開について 35
  - 手動展開について 35
- スクリプト形式のインストールの展開 35
- スケジュール 85
- 展開タイプの選択 35
- ブートアクションの削除 85
- マルチキャストWIM展開の作成 86

## 展開の準備

- DHCPサーバーの有効化 32
- 展開環境のセットアップ 32
- 展開ツールのダウンロード 32
- メディアマネージャのダウンロード 33

## と

- ドメイン
  - デバイスの参加 39
- ドライバ
  - USB展開への追加 90
  - ZIPファイルとしてアップロード 55
  - インポート 51
  - エクスポート 52
  - オペレーティングシステムについて 53
  - 更新 49
  - 互換性レポートの表示 52
  - 再キャッシュ 53
  - システムイメージに不足しているドライバのインストール 54
  - 特定のデバイスモデルのアップロード 39
  - ドライバのインストール 55
  - ドライバの手動でのコピー 90
  - ドライバを必要とするデバイスの表示 52
  - ネットワークおよびOSの管理 50
  - ネットワークドライバのダウンロード 51
  - ネットワークについて 50
  - ポストインストールタスクとしてインストール 55
  - モデルおよび製造元の名前の取得 53



- ドライバフィード
  - システムイメージ用のドライバフィードの有効化 54
  - スクリプト形式のインストール用に有効化 53
  - ドライバパッケージのダウンロード 55
  - フォルダ構造 53
  - 無効にする 54
- トラブルシューティング 121
  - KBEの回復メニューの使用 120
  - PXEブート中断の防止 119
  - tetherキーの取得 117
  - アプライアンスの再起動 125
  - アプライアンスのシャットダウンと再起動 124
  - アプライアンスの電源をオフにする 125
  - アプライアンスログファイルのダウンロード 121
  - アプライアンスログファイルの表示 121
  - 起動マネージャ 118
  - 起動マネージャのスタイル 119
  - チケットの作成と送信 118
  - デバイスネットワーク起動のテスト 118
  - デバイスの回復 120
  - トラブルシューティングについて 117
  - ネットワーク上のデバイスの検証 117
  - ネットワーク遅延時間の変更 120
  - 破損したデバイスの回復 120
  - リモートテクニカルサポートの有効化 117
  - ローカルハードディスク起動方法の選択 119

## に

### 認証

- LDAPサーバーの設定 26
- LDAPのテスト 28

## ね

### ネットワークスキャン

- IP範囲の設定 37
- 実行 37
- ネットワーク上のアクティブなデバイスのみをスキャン 38
- ネットワーク上のすべてのデバイスをスキャン 38

## は

### パーティション

- 1つの起動パーティションの作成 74
- 新しいドライブの割り当て 74
- 新しいパーティションの作成 74
- データを消去するDiskPartスクリプトの実行 74

### はじめに

- K2000コンポーネントについて 11
- K2000を使用するためのタスク 10
- アプライアンスへのログイン 12
- 管理者パスワードの追加 12
- 言語設定の構成 14
- タイムゾーンの追加 12
- 展開の準備 10
- 登録データの追加 12
- ネットワーク接続について 12
- ライセンスキーについて 12

### パスワード

- Samba共有の変更 19
- VNCの設定 19
- 管理者パスワードの変更 18
- デフォルトパスワードの変更 18

### パッケージ

- サイズ制限 108
- 自動転送 107
- ドライバのインポート 90
- ドライバのダウンロードとインストール 55
- ドライバを含むパッケージについて 108
- ファイルの削除 107

### パッケージ管理

- index.xmlファイルについて 107
- K2000コンポーネントのインポートとエクスポート 107
- インポート対象のパッケージのアップロード 108
- オフボードパッケージ転送の有効化 107
- コンポーネントのインポート 109
- コンポーネントのエクスポート 107, 109
- 使用できるパッケージの表示 108

### パッケージ管理キュー

- スケジュールされたジョブの表示 107
- ファイルの削除 107

## ひ

### 日付と時刻

- 設定 20

## ふ

### ブートアクション

- KBEでの起動 83
- イメージの削除 85
- 次のネットワーク起動時に実行 84
- デフォルトのブートアクションの設定 85
- 動作の定義 85
- ブートアクションの作成 83, 83
- ブートアクションの展開 83
- 変更 84

### ブート環境

- KBEまたはNetBootの削除 112
- ソースメディアからコピー 49

### プレインストールタスク

- CドライブをNTFSとしてフォーマット 58
- DiskPartスクリプトの追加 74
- Windows MBRのインストール 71
- Windowsコンピューター名の収集 72
- Windowsスクリプトの追加 73
- XP MBRのインストール 71
- アプリケーションの追加 72
- 削除 113
- シェルスクリプトの追加 74
- システムイメージ展開での編集 81
- システムイメージの展開への割り当て 80
- シングルパーティションの作成 57
- スクリプト形式のインストール展開での編集 81
- スクリプト形式のインストール展開への割り当て 81
- バッチスクリプトとして追加 73
- ファイルサイズの制限 79
- ファイルのアップロード 79
- ポストインストールタスク
- システムイメージ展開での編集 81

スクリプト形式のインストール展開での編集 81

## ほ

ポストインストールタスク

- K1000エージェントインストーラの追加 77
- KUIDをK1000エージェントに適用 41
- Windowsコンピューター名の適用 42
- Windowsスクリプトの追加 78
- アプリケーションの追加 76
- カスタムHAL置換タスクの追加 77
- サービスパックのインストール 78
- 削除 113
- システムイメージの展開への割り当て 80
- スクリプト形式のインストール展開への割り当て 81
- ターゲットデバイスの名前変更 76
- デバイスでのユーザープロファイルの読み込み 65
- ドメインへの参加 39
- バッチスクリプトの追加 76
- ファイルのアップロード
- ファイルサイズの制限 79

## ま

マルチキャスト展開

- デフォルトマルチキャスト設定の編集 86

## め

メディアマネージャ

- OSインストールファイルのアップロード 34
- 実行 62
- ダウンロード 33

## ゆ

ユーザー

- 認証 25

ユーザーアカウント

- 削除 28
- 認証 25
- ローカル管理者の追加 25

ユーザープロファイル

- .migファイルについて 65
- USMTスキャンテンプレートの作成 62
- オフラインでのキャプチャ 64
- オンラインスキャン 63
- キャプチャからのデータの除外 62
- デバイスでの手動読み込み 65
- デバイスでの読み込み 65

ユーザープロファイルの管理

- USMTスキャンテンプレートの作成 62
- アプライアンスからのUSMTのアップロード 61
- オンラインおよびオフラインのユーザープロファイル移行について 61
- メディアマネージャからのUSMTのアップロード 62

## ら

ライセンスキー

- 取得 12

ラベル

- アプライアンスからの削除 47
- コンポーネントの削除 46
- コンポーネントの整理 46
- コンポーネントへの適用 46
- ラベル別のコンポーネントの表示 47

## り

リモートサイトアプライアンス ( RSA )

- K2000アプライアンスのリンク相手の設定 105
- K2000導入アプライアンスへのリンク 104
- インストール 103
- セットアップ 102, 102
- ネットワーク設定の構成 104
- 要件 102, 102

リンク

- RSAへのリンク 23
- アプライアンスリンクの有効化 23
- 名前とキーの追加 24
- リンク先アプライアンスの無効化 24
- リンクアグリゲーション
- 有効化 21

## ろ

ローカル管理者

- アカウントの追加 25
- ローカルドライブでの起動 83

ローカル認証

- デフォルトの使用 25

ログファイル

- 表示 121